

岩手県文化財調査報告書 第105集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
(平成10年度)

平成11年3月

岩手県教育委員会

序 文

埋蔵文化財は、私達の祖先より永く培われてきた貴重な歴史的財産であります。私達はそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、現在確認されている遺跡数は1万余箇所にも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成10年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成11年3月

岩手県教育委員会

教育長 大隅 英喜

例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成10年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地形図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名のつけられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局文化課の佐々木勝主任文化財主査、佐藤嘉広主任、鈴木徹文化財調査員、佐々木務文化財調査員が担当した。なお、整理については下記の方々のご協力をいただいた。
財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、岩手県立博物館
- 8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目次

序文

例言

I 発掘調査

1 県単交通安全施設整備事業（柿ノ木）	3
2 担い手育成基盤整備事業長岡地区（西長岡長谷田）	5
3 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区（岡村）	10
4 中山間地域総合整備事業大野地区（内沢Ⅰ）	15
5 担い手育成基盤整備事業東田地区（中半入）	17
6 県営ほ場整備事業入首川東部地区（後田Ⅰ、西前田）	25
7 中山間地域総合整備事業上大原地区（熊の平）	32

II 試掘調査

1 北上川上流改修事業川崎地区築堤工事（河崎の構擬定地）	39
2 仙人峠道路建設事業（古館）	40
3 大志田ダム建設事業（釜石Ⅳ）	41
4 東北新幹線建設事業関連（大崎）	42
5 八戸自動車道軽米九戸地区Uターン路工事（道地Ⅱ）	43
6 一般県道盛岡鶯宿線鶯宿地区道路改良（南畑）	44
7 県単道路改良事業盛岡環状線（野沢）	45
8 葛根田橋橋梁整備（小日谷地Ⅰb）	46
9 県単道路改良事業（市部内）	47
10 地方特定道路整備事業古田峠地区（大林）	48
11 新交流ネットワーク事業湯本地区（清水ヶ野）	49
12 主要地方道盛岡横手線凍雪対策（下幅）	51
13 都市計画道路辻岡地区（医者屋敷）	52
14 一般県道前沢東山線道路改良（西館跡）	53
15 県単道路改良事業（羽場城）	54
16 一般国道343号道路改良（中野台）	55
17 新交流ネットワーク道路整備事業（中和田）	56
18 主要地方道釜石遠野線沢田地区緊急整備（沢田2）	57
19 一般国道283号交通安全施設（大久保Ⅱ）	58
20 地方特定道路整備事業長内地区（田高Ⅰ）	59
21 村道川井線改良工事代行（成谷）	60
22 都市計画街路事業川又地区（矢神）	61
23 地方特定道路整備事業二戸安代線（川袋）	62
24 主要地方道二戸安代線緊急整備（沖野Ⅰ）	63
25 都市計画事業上野地区（上野B）	64

26	新幹線関連道路整備事業宮沢工区（宮沢）	65
27	一般県道八戸大野線県単舗装道新設（大道口）	66
28	水沢家畜保健衛生所建設関連（東館Ⅱ）	67
29	ほ場整備事業南日詰地区（下川原Ⅰ、下川原Ⅱ）	68
30	広域農道整備事業盛岡西部地区（字登）	70
31	一般農道整備事業江刈中部地区（品井沢）	71
32	担い手育成基盤整備事業八重畑地区（稲荷ほか）	72
33	ほ場整備事業二子地区（中居俵Ⅱほか）	75
34	広域農道整備事業胆沢南部地区（治助屋敷）	79
35	担い手育成基盤整備事業鉢体地区（下植田ほか）	80
36	担い手育成基盤整備事業原体地区（東館）	84
37	担い手育成基盤整備事業鮫沢上野地区（明後沢ほか）	85
38	広域農道整備事業胆沢南部地区（向）	87
39	担い手育成基盤整備事業一関第三地区（和田ほか）	88
40	中山間地域総合整備事業新渡戸地区（室石館ほか）	90
41	ほ場整備事業奥王地区（沖中ほか）	93
42	ほ場整備事業宮守川上流地区（大笹）	94
43	広域農道整備事業二戸地区（上台）	95
44	一般農道整備事業野尻地区（野尻Ⅱ）	96
45	一戸蚕業試験場跡地宅地化事業（上野H）	97
46	試掘調査一覧	98
47	分布調査一覧	103
Ⅲ	県内洞穴遺跡調査	109
Ⅳ	写真図版	113

I 発掘調査

1 県単交通安全施設整備事業関連調査

柿ノ木 遺跡 (LE77-0254)

所在地：紫波郡紫波町大巻字柿ノ木内

事業者：岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成10年6月29日

遺跡は北上川左岸の自然堤防上に立地する。遺跡付近は広く平野部を形成しているが、この中の自然堤防としてはもっとも大規模なもののひとつである。遺跡北側には周知の埋蔵文化財包蔵地柿ノ木館が所在するが、今回の遺跡はそれと区別して考えることができる。

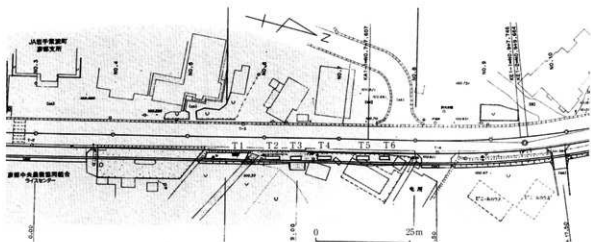
今回の調査は歩道設置工事に伴うものである。基本層序は以下のとおり。Ⅰ層：表土（盛土）50cm、Ⅱ層：黒褐色土層（地山、平安時代の遺構確認面）5~10cm、Ⅲ層：黄褐色粘質土層（地山、Ⅱ層面で確認困難な場合の遺構確認面）。

調査の結果、神社入り口付近から南側のトレンチ（T1）で、平安時代前半の竪穴住居跡1基と土坑2基を確認した。T2~4ではⅢ層が確認されたことから安定した地山を形成していたと考えられるが、遺構・遺物とも検出されなかった。T5から北側では、地山が低く傾斜する状況が観察され、遺跡の北端を形成するものと判断した。埋蔵文化財が確認されたT1については、現状での保存が困難であることから、引き続き記録保存を実施した。

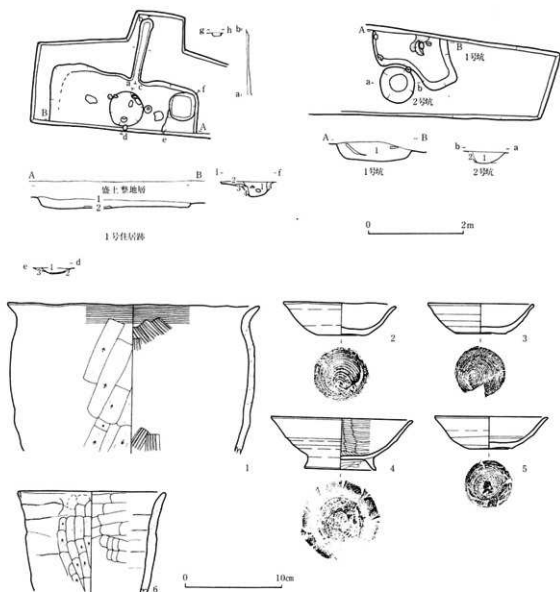
竪穴住居跡は、1辺が3.4m程度の方形と推定され、全体のほぼ半分程度を検出し精査した。検出はⅡ層上面で行っているが、若干の削平を受けていたためか、住居掘り込みの深さは10~20cm程度である。掘り込みは地山にまで達し、黄褐色土中に床面が構築されている。床面はやや硬いが、貼り床は顕著ではない。カマドは東壁ほぼ中央に構築されている。燃焼部にはわずかに焼土が認められ、円形に掘りくぼめられている。本来袖石等もあったと思われる、被熱して破砕したレキが数個、燃焼部周辺に見られる。煙道は掘り込みが浅く、煙出し部に向かうにしたがってさらに浅くなる。南東隅に隅丸の土坑が作りつけられ、土師器環及びあかやき土器環が出土している。柱穴跡は、カマド燃焼部南脇に1個のみ確認できた。



第1図 柿ノ木遺跡の位置



第2図 紫波町柿ノ木遺跡調査区位置図



第3図 紫波町柿ノ木遺跡遺構図、出土遺物

土坑は2基隣接して竪穴住居跡から南側約10m付近で確認できた。1号土坑は不整形で、全体の半分程度を検出したと考えられる。深さ40cm。埋土中に炭化材を含んでいる。2号土坑はほぼ円形で、深さ40cm。検出時に別個の遺構として認識できたが、密接に関連する可能性が高い。

竪穴住居跡及び土坑から出土した遺物は、全て平安時代前半に属する。1は比較的口径の大きい大型の土師器甕。4は高台付の内面黒色処理された坏である。6は、表裏に輪積痕を残している。

以上の結果、この自然堤防上に古代の集落が形成されていたことが明らかとなり、その範囲はさらに南側に拡大する可能性が高いものと考えられる。

2 担い手育成基盤整備事業長岡地区関連調査

西長岡長谷田遺跡 (LE57-1360)

所在地：紫波郡紫波町長岡地区内

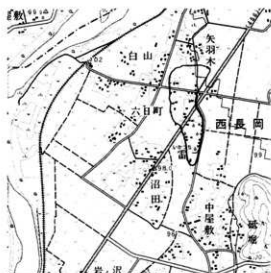
事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成10年10月19～30日（10日間）

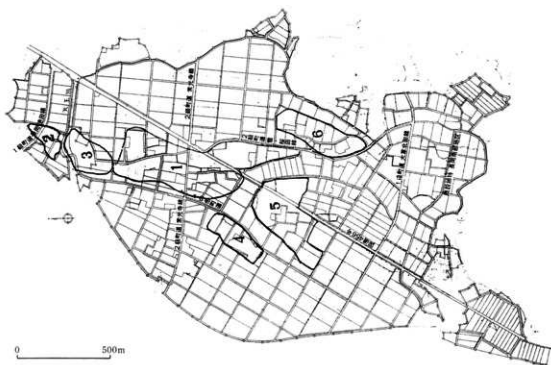
西長岡長谷田遺跡は、北上川東岸に形成された低位段丘上に立地し、現況は水田、畑地、宅地等になっている。遺跡北半部については昨年度試掘調査が行われ、ほとんどの部分については工法変更等により遺跡の保存が図られている。

今回の調査は今年度以降事業が行われる遺跡の南半部の試掘調査と工法変更による保存が不可能だった北半部の水路予定地の発掘調査、農業関連施設建設用地の試掘調査である。

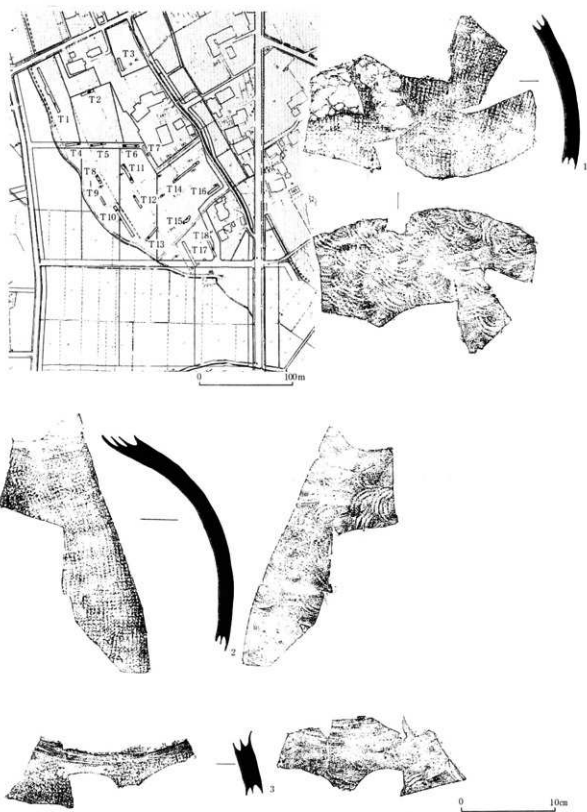
南半部の試掘調査には、事業地内に任意に試掘トレンチをいれて埋蔵文化財の状況確認をしている。その結果、奈良・平安時代を中心とする堅穴住居跡14棟とほぼ同時期と考えられる溝跡1条が確認された。その他に、平面形が不明のため性格が分からなかったものが4ヶ所あるが他の時代の遺物が少ないことから奈良・平安時代の堅穴住居跡になる可能性が高い。さらに、同一個体になるとと思われる須恵器の甕の破片が多く耕



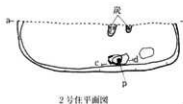
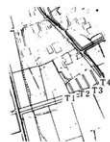
第4図 西長岡長谷田遺跡の位置



第5図 ほ場整備事業（長岡地区）関連遺跡分布図



第6図 紫波町西長岡長谷田遺跡調査区位置図、出土遺物



2号住平面図



1号住平面図

- 1号住カマド雑道南北断面図(西から)
- 10YR4/4 褐色 しまりやあり 粘性少しあり
0.5~1.5cm大の炭、暗褐色粘土ブロック少量含む
 - 10YR4/4 褐色 しまり少しあり 粘性あり
0.2~1.5cm大の炭、暗褐色粘土ブロックを多量に含む

- 1号住土東西断面図(北から)
- 5YR2/3 暗褐色 粘土 しまり・粘性あり
0.5~1.5cm大の炭を少量含む



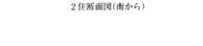
2号住断面図(南から)



1号住断面図

- 1号住カマド東西断面図(南から)
- 10YR4/6 黒 しまりやあり 粘性少しあり 砂質シルト
0.2~1.5cm大の炭粒が少量入る
 - 5YR3/6 暗赤褐色 粘土 しまり・粘性少しあり
0.2~0.5cm大の炭粒を少量含む

- 1号住カマド断面図(西から)
- 10YR4/4 黒 しまり・粘性少しあり 砂質シルト
0.2~0.5cm大の炭粒が少量含む
 - 1号住土
 - 5YR5/6 赤褐色 粘土 (0.5cm前後) を少量含む
土質均し入る
 - 5YR3/6 暗赤褐色 粘土 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
0.5~1.5cm大の炭を含む
 - 10YR4/4 黒 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
2~15cm大の炭を多量に含む
 - 5YR2/2 暗赤褐色 粘土 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
0.5~1.5cm大の炭を含む
 - 10YR4/4 褐色 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
0.5cm大の炭粒が少量含まれる
 - 10YR4/4 黒 しまりなし 粘性少しあり
5YR2/2 暗赤褐色 粘土 (0.2cm前後) が若干含まれる
 - 5YR3/6 暗赤褐色 しまりなし 粘性少しあり
0.2cm大の炭粒が若干含まれる 粘土



2号住断面図(南から)



1号住断面図

- 1号住カマド断面図(西から)
- 10YR4/4 黒 しまり・粘性少しあり 砂質シルト
0.2~0.5cm大の炭粒が少量含む
 - 1号住土
 - 5YR5/6 赤褐色 粘土 (0.5cm前後) を少量含む
土質均し入る
 - 5YR3/6 暗赤褐色 粘土 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
0.5~1.5cm大の炭を含む
 - 10YR4/4 黒 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
2~15cm大の炭を多量に含む
 - 5YR2/2 暗赤褐色 粘土 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
0.5~1.5cm大の炭を含む
 - 10YR4/4 褐色 しまりなし 粘性少しあり 砂質シルト
0.5cm大の炭粒が少量含まれる
 - 10YR4/4 黒 しまりなし 粘性少しあり
5YR2/2 暗赤褐色 粘土 (0.2cm前後) が若干含まれる
 - 5YR3/6 暗赤褐色 しまりなし 粘性少しあり
0.2cm大の炭粒が若干含まれる 粘土

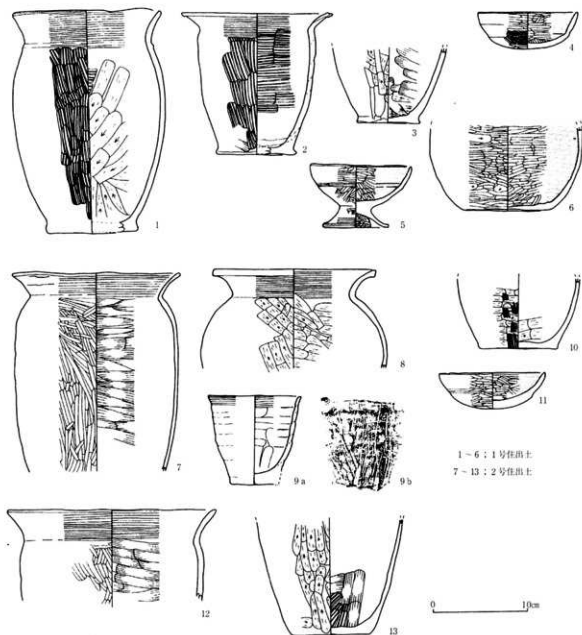


1号住平面図・断面図

- 10YR3/4 暗褐色 しまりやあり 粘性なし
0.5~1.0cm大の炭粒を少量含む
5YR2/2 暗赤褐色 粘土 (2~5cm大) が
西側に多く含まれる
- 10YR2/4 暗褐色 しまり少しあり 粘性なし
0.5~1.5cm大の炭を多量に含む
明赤褐色5YR4/6 赤褐色の粘土(1~1.5cm大)を
少量含む



第7図 紫波町西長岡長谷田遺跡構図



1～6：1号住出土
7～13：2号住出土

第8図 紫波町西長岡長谷田遺跡出土遺物

作土中から出土している。耕作中の何らかの遺構が壊された結果散布しているものと思われる。

また他には、縄文土器が若干出土しているが、この時期の遺構は確認されていない。さらに、時期不明の焼土遺構1基、土坑1基を検出している。

以上、段丘の縁に若干遺構が集中する傾向が見られるが、事業対象地のほぼ全域で奈良・平安時代を中心とする遺構・遺物が確認されている。一部畑作物の関係で調査できなかった部分もあるが、周囲の状況からみて、ほぼ確実に奈良・平安時代の遺構が存在するものと考えられる。

遺跡南半部の事業予定地内は基本的には盛土によって保存が図られるが、用水路の掘削のため破壊が避けられない部分については記録保存を目的とする本発掘調査が行われる（平成11年度予定）。

前年度行った西長岡長谷田遺跡北半部や周辺の隣接する遺跡の試掘結果からみると、奈良・平安時代の遺構・遺物は長岡地区全体に大きな広がりを持っており、この地区全域にわたって奈良～平安時代に集落が形成されていたと考えられる。竪穴住居跡などの分布から、おおむね、現況の集落の広がりに近い形がすでにこの時代に形成されていた可能性が大きい。

遺跡北半部の発掘調査については、水路掘削のため工法変更による保存ができなかった部分について行われた。調査区の標高は98.7m前後、調査対象面積は約500㎡である。

調査の結果、奈良時代の竪穴住居跡2棟と検出面や埋土からはほぼ同時期と考えられる溝跡1条、より新しい時期不明のカマド状遺構1基が検出された。竪穴住居跡は段丘の縁に近い場所に2棟が隣接して検出された。検出が難しかったため、1号住居跡については遺構を掘り込んでしまった。

1号住居跡は上述のとおり検出が難しかったため、東側をかなり掘り込んでしまっている。埋土は地山と非常によく似ており、若干炭や遺物片が含まれるのが異なる。カマドが認められたため検出できたものである。埋土は2層に分かれ、上部に遺物片が比較的目的つき、下部に炭化材が多い。この竪穴住居跡の軸方向は南北軸から約45度傾いており、カマドは北の隅に位置し、北西方向に煙道が延びている。南半部は調査区域外に延びている。土師器の甕、坏などが出土しており、遺物の多くはカマド周辺から集中している。規模は全体を調査できなかったため、正確には把握できないが、確認できる範囲では1辺3.6m以上になる。深さは40cmである。炭化材が床面から検出されている。床面が焼けた痕跡等は無いが、焼失住居跡の可能性がある。

2号住居跡は1号住居跡の西側に隣接しており、位置関係から1号住居跡との同時存在は考えにくい。規模は1辺5.4m、深さ約40cmである。住居跡の北側約3分の2は調査区外に延びており、カマドも調査区内では確認していない。遺物は土師器の甕、坏などが出土している。南壁の中央直下の床面で焼土を検出している。この住居跡も1号住居跡と同様に床面から炭化材が出土しており、焼失住居跡の可能性もある。

溝跡は2棟の竪穴住居跡から北東に大きく離れた位置にある。確実に伴う遺物は出土していないが、埋土などから住居跡との時期差はあまりないと思われる。トレンチ状の調査区を横断する溝跡で長さは不明で、幅220cm、深さ54cmである。東西両端とも調査区域外に延びている。

カマド状遺構は溝跡の北隣で検出されている。伴う遺物が無いので時期の確証はないが、他の遺跡の類例から見て古代よりは新しい時期の遺構と思われる。性格等の詳細は不明。

北半部の試掘調査は、発掘調査区の東側を対象として行われた。現況水田の農業関連施設建設予定地内に試掘トレンチを4箇所設定して埋蔵文化財を確認したが、この範囲内に関しては埋蔵文化財を確認することはできなかった。

3 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区関連調査

岡村遺跡 (L E57-0181)

所在地：紫波郡矢巾町徳田地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所
調査期日：平成10年10月5日～16日（10日間）

遺跡は北上川と岩崎川に挟まれた低位の河岸段丘上に立地している。標高100～105m。遺跡範囲は南北に走る国道4号の両側に広がり、道路拡幅に伴う小規模な調査が度々行われている。

今回の調査は、平成9年度に事業対象地を試掘調査した結果、広い範囲で埋蔵文化財の良好な遺存が確認されたため、事業者とその保存について協議を重ねたものの、用排水路が予定される部分については現状保存が困難であると判断されたことから、やむを得ず記録保存のための発掘調査としたものである。

調査面積は約250㎡。基本層序は次のとおり。Ⅰ層；表土（耕作土）10～15cm、Ⅱ層；暗褐色土（遺物包含層）20cm、Ⅲ層；褐色土（地山）

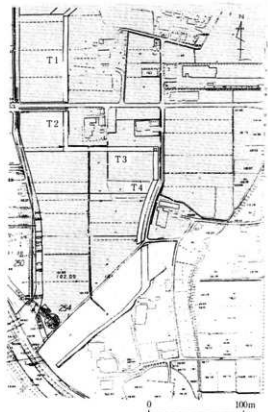
調査範囲全体の中で、遺構、遺物が確認されたのは、T1、T2、T3、の一部、T4の一部であり、いずれも周辺ややや高まった微高地状の地点である。低地部分では表土下にグライ化した湿地状の粘土層が観察され、遺物も確認されなかったことから、遺構は所在していないものと判断された。

T1では土坑類5基、T2では土坑6基、溝2条、T3では微高地部分で溝跡1条が確認された。これらの遺構については、埋土及び出土遺物の状況から平安時代のもの、近現代に属するものに分けられると考えられる。

T1で検出された1号土坑は浅皿状のもので、立ち上がりがほとんど確認できない。2号土坑は平面形及び掘り込みが不整形である。ほか、柱穴状の小土坑である。



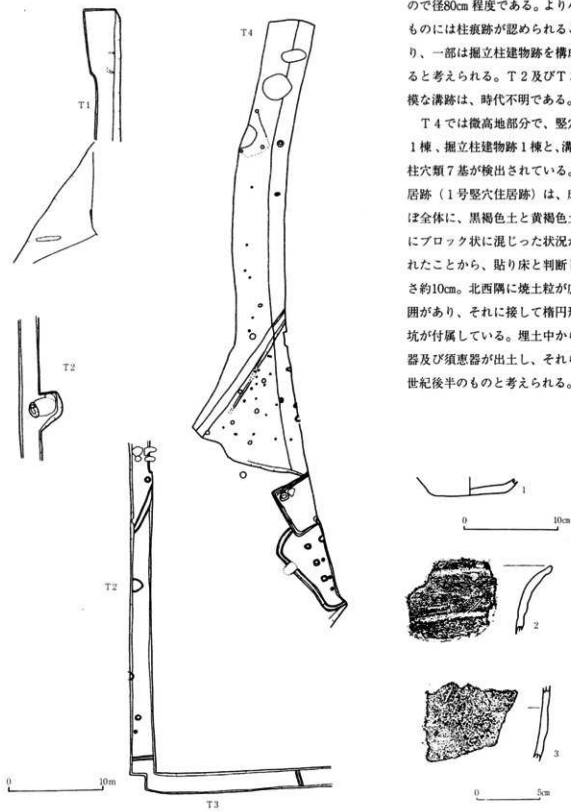
第9図 岡村遺跡の位置



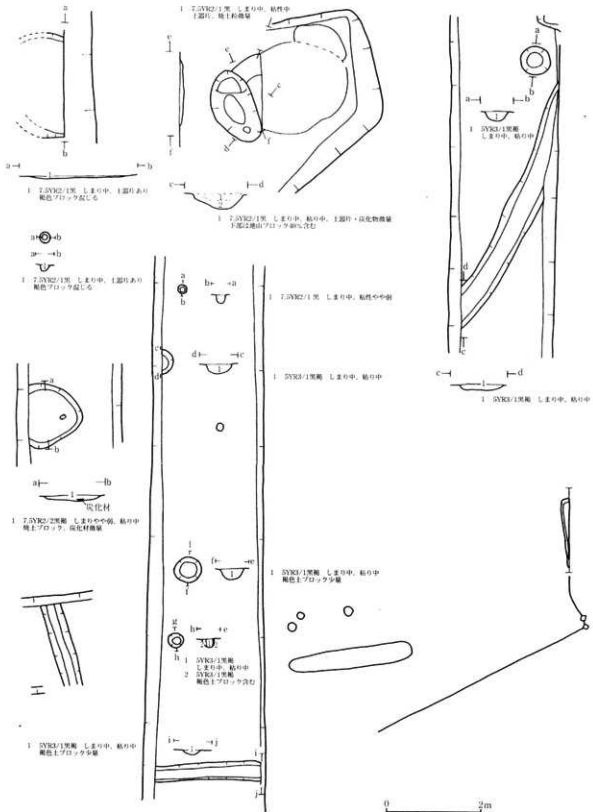
第10図 矢巾町岡村遺跡調査区位置図

T 2で検出された土坑は、大きいもので径80cm程度である。より小規模なものには柱痕跡が認められることもあり、一部は掘立柱建物跡を構成していると考えられる。T 2及びT 3の小規模な溝跡は、時代不明である。

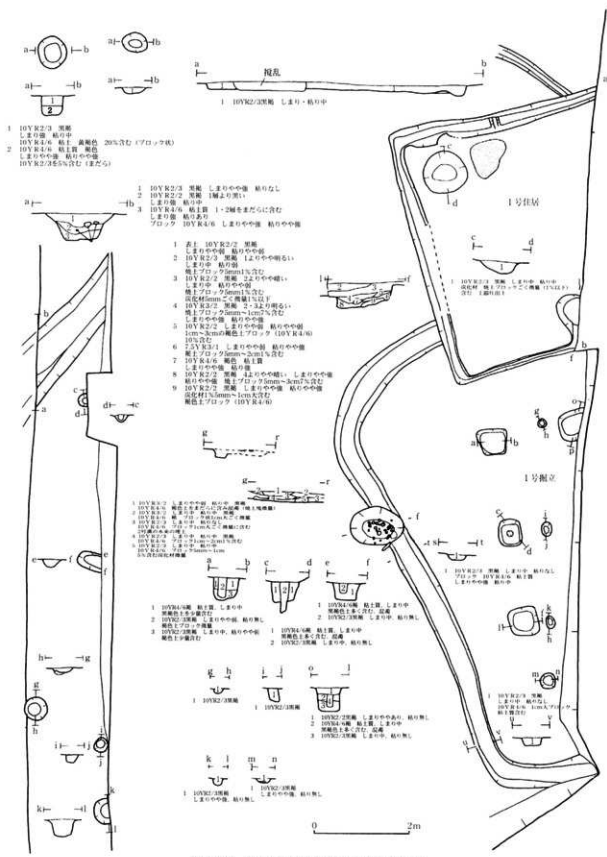
T 4では微高地部分で、竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟と、溝跡4条、柱穴類7基が検出されている。竪穴住居跡（1号竪穴住居跡）は、床面のほぼ全体に、黒褐色土と黄褐色土が等量にブロック状に混じった状況が観察されたことから、貼り床と判断した。厚さ約10cm。北西隅に焼土粒が広がる範囲があり、それに接して楕円形の小土坑が付属している。埋土中からは土師器及び須恵器が出土し、それらより9世紀後半のものと考えられる。



第11図 矢巾町岡村遺跡遺構配置図、出土遺物



第12図 矢巾町岡村遺跡遺構図 (T2~T4)



第13図 矢巾町岡村遺跡構図 (T4)

掘立柱建物跡（1号掘立柱建物跡）は、3間×1間が確認されている。いずれも1辺が50cm～60cm前後、深さの隅丸方形の堀方を有するものである。柱痕跡は径20cm前後の円形である。明瞭に確認される場合とそうでない場合がある。堀方埋土に版築状の互層は認められない。

この建物跡の柱穴跡と並んで、長径30cm程度の小柱穴状土坑が4基認められる。規模及び埋土などから、建物跡構築の際の足場と考えられるものである。

掘立柱建物跡を囲むように、上幅60cm前後、深さ20cm前後の溝跡が検出されている。1号竪穴住居跡と直接重複し、それより古いと判断された。掘立柱建物跡に付属するかどうかは、さらに検討を重ねる必要がある。

住居跡北側では上幅80cm、深さ80cm、下幅60cmほどの断面が方形の溝跡も検出されている。

なお、T4付近では調査対象範囲外の表土除去を行った結果、焼土遺構を伴う竪穴住居跡1棟、落とし穴状遺構1基、土坑類多数が検出されている。T5では遺構等は確認されなかった。

以上、今回の調査区付近は、古代の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡、溝跡などで構成されている。明確ではないが、溝に囲まれるような掘立柱建物跡の存在は、徳丹城跡と何らかの関係を予想させる内容のものであると考えられる。

4 中山間総合整備事業大野地区関連調査

内沢 I 遺跡 (MD28-1274)

所在地：和賀郡沢内村大野地内

事業者：岩手県北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日：平成10年5月11日～13日（3日間）

遺跡は和賀川左岸の河岸段丘上に立地する。今回の調査は4月に試掘調査を実施した結果、埋蔵文化財の現状保存が困難であると判断されたことから、やむを得ず緊急に記録保存を目的として実施したものである。基本層序は次のとおり。I層；表土（耕作土）20cm、II層；黒褐色土（遺物包含層）20cm、III層；褐色土（地山）。

T1で検出していた遺構状の落ち込みは、試掘調査の際には縄文土器が出土したため堅穴住居跡状の遺構と考えて

いたが、今回の調査では、壁面の立ち上がりなどがあまいで、縄文土器片は出土したものの流れ込みの様相が強かったため、自然地形であると判断した。T1ではほかに、土器片を伴う短径1mほどの土坑と、礫



第15図 沢内村内沢 I 遺跡調査区位置図

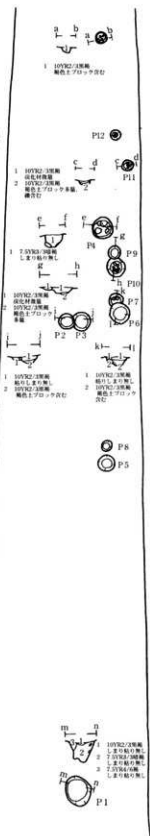
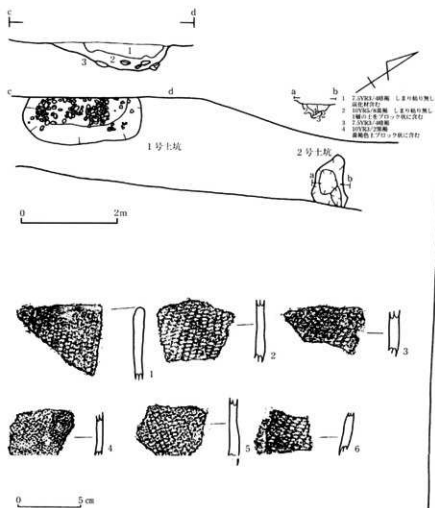


第14図 内沢 I 遺跡の位置

の集積された直径2mほどの土坑が確認され、後者では剥片が多数出土した。集積した礫の下では、自然堆積の砂層が確認され、遺構は検出されなかった。

T2では、試掘調査の際に石匙が出土していたものの、本発掘調査では遺構・遺物とも検出されなかった。T3では13基の柱穴状の遺構が検出された。これらは埋土の状況から縄文時代のものと近世のものとの二種類があるものと考えられる。縄文時代のものはP1、P4の2基であるが、いずれも掘り込みが他のものに比して深い。また、近世に属すると考えられる柱穴のうち、1基から鉄製品が出土している。掘り込みは極めて浅く、開田により上部の削平が進んだものと判断できる。

この遺跡の中心は、出土遺物より、縄文時代中期末葉に形成されたものと考えられる。



第16図 沢内村内沢I遺跡遺構図、出土遺物

5 担い手育成基盤整備事業東田地区関連調査

中半入遺跡 (NE15-0282)

所在地：水沢市佐倉河半入地内

事業者：岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成10年5月27日～6月3日(5日間)

平成10年9月28日～30日(3日間)

遺跡は胆沢扇状地の北端部、胆沢川右岸の沖積平野部に位置する。この付近は古い時期から開田が進められ、度々区画整理が行われてきている。そのため、現在の市町村境界も、地形的には連続する中に設定されている。その境界をはさみ、西側一帯を蝦夷塚古墳、東側一帯を中半入遺跡と呼んでいる。標高は75m前後。

この遺跡について、平成10年1～2月に実施した試掘調査の結果、広範囲に古墳時代～奈良・平安時代の集落が確認されたため、その大部分の範囲については(財)岩手県文化振興事業団が事業者の委託を受けて範囲内容確認調査及び一部区域については記録保存のための緊急調査を実施することとした。

しかし、当初の試掘調査では遺跡の範囲外と考えられていたNo.161区画を中心とする範囲にも埋蔵文化財の存在が確認されたため、10年3月に再度試掘調査を実施した(T1～19)。その結果、T2を中心として古代の集落跡が分布していることが再確認されたことから、この範囲について事業者と現状保存について協議を進めた。しかし、この段階で、道路と排水水路の計画を大きく変更することは困難であったため、水田面については設計変更により現状保存が可能とされたが、水路等により掘削が及ぶ部分についてはやむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとした。

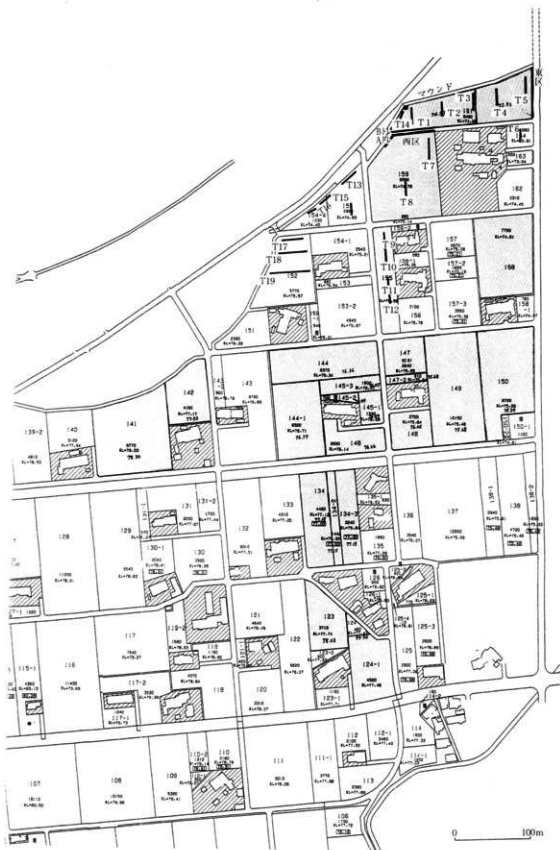
発掘調査は、水田No.159と161を区画する東西の農道及びその法面等に埋設される水路部分と、No.161北東端の南北の市道西側に隣接する水路予定部分について行った。当初は東西道路部分のみの予定であったが、9月に水路工事を実施したところ、さらに遺跡の広がり確認されたことから追加調査を実施した。前者を西区、後者を東区と仮称する。

西区は、道路予定部分をそのままトレンチとしたが、東側の159区画が切れるところでは遺物の出土が希薄となり、いったん沢状の地形に落ちていく。そのため、これより東側については、試掘トレンチにより遺構・遺物の有無を確認するに留めている。また、道路及び水路が予定されている幅4mの範囲について表土を除去し遺構の検出を行っているが、予想以上に遺物包含層が厚く、また、遺物の密集も予想されたことから、盛土により現状保存の可能な道路部分(約3メートル)については、遺構の検出までに留めて現状保存を行うこととした。

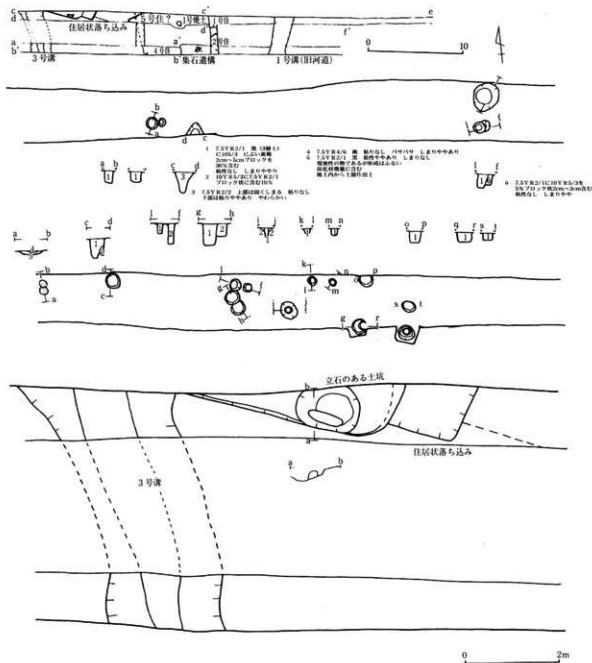
水路予定範囲のうち南側をAトレンチ、北側をBトレンチと呼んだ。短期間の調査であり、精査範囲が狭長であったことから、すべての遺構の性格を十分に把握したとはいえない。また、精査を実施した範囲についても調査未了のまま埋め戻さざるを得なかったこともあり、この範囲については、当面仮設の農業用施設により耕作に影響を与えないように配慮し、次年度再調査を実施することとした。そのため、今回の報告は概略に止めるものとする。



第17図 中半入、蝦夷塚遺跡の位置



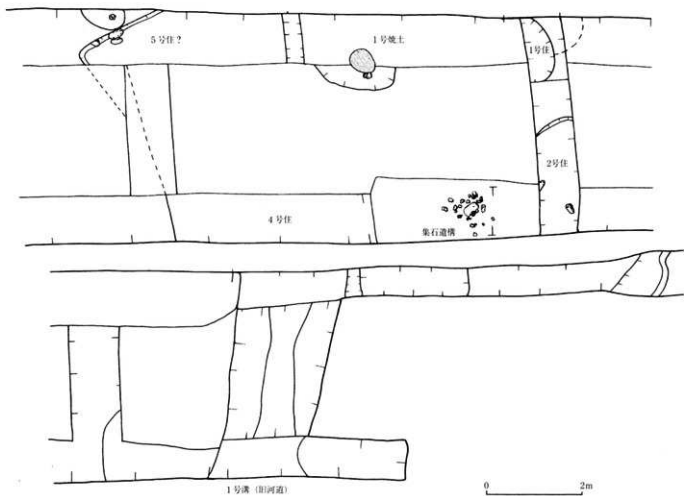
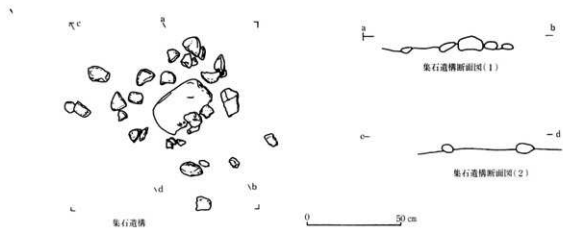
第18図 ほ場整備事業(水沢市・胆沢町東田地区)、関連遺跡(水沢市上半入遺跡)調査区位置図



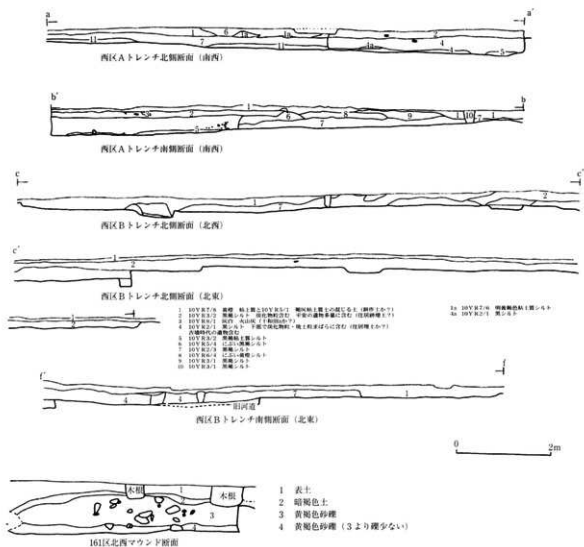
第19図 水沢市中半入遺跡遺構図 (田区161西区)

基本層序は次のとおり。I層；表土（現耕作土）15cm、II層；灰黄褐色土（旧耕作土、ややグライ化、厚い箇所と薄い箇所がある）0～20cm、III層；灰褐色土（旧耕作土、ややグライ化）5cm前後、IV層；暗褐色土（遺物包含層、上面は古代の遺構確認面となる）40cm、V層；黄褐色土（地山、IV層との漸的な層相を示す部分がある、トレンチ東側では砂質を呈している）

なお、個々のトレンチ等の土層観察は図に示したとおりである。



第20図 水沢市中半入遺跡遺構図 (田区161西区)

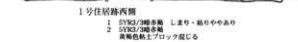
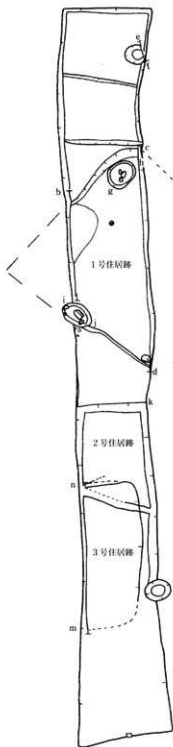


第21図 水沢市中半入遺跡土層図 (田区161西区)

Aトレンチでは、ほぼ中央付近で1号集石遺構が検出された。この集石遺構は、扁平な川原石を半割もしくは4分の1に割ったもの、いわゆる方割石を主に構成されている。中央には同じく扁平でやや隅丸の方形を呈する板石が配されている。検出時には、この板石を据えていた状況は観察されなかったが、単なる置石ではないと考えられる。一方、方割石は一部重なった状態で出土していることから、上部の小さいものについては単に置いただけのものがあるかもしれない。

この集石長軸 (北東-南西) の北東側には、拳大以下の大きさの転石を細かく打ち砕いたような状況で、黒曜石の剥片が出土している。原礫面を残し、一部は接合する。剥離面表面の観察などから、2個体以上の母岩に分けられるものと推定される。透明感の強く気泡の見られない石質であることから、古墳時代の中半入遺跡に多量に認められる湯倉産のものではなく、7世紀以降主流となる零石産 (近接する北上川流域の露頭を含む) の原石であろうと考えられる。

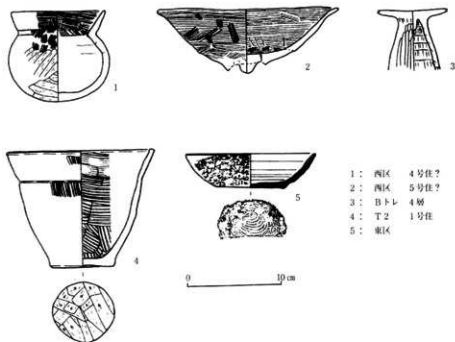
また、この黒曜石片と方割石を覆うように、土師器甕と坏 (いずれも1/3程度) が出土した。甕の頸部に



(断面図)

0 2m

第22図 水沢市中華入遺跡(田区161東区)遺構図



第23図 水沢市中半入遺跡出土遺物

は沈線による連続山形文が描かれている。また、坏は内面黒色処理されたもので、ほぼ中央には成形の際の粘土接合の部分が段状に残っている。これらより、この遺構は7世紀代のものと考えられる。

Aトレンチ及びBトレンチでは、その可能性のあるものを含め5基の堅穴住居跡の所在が予想されている。このうち、1号住、2号住、1号焼土としたものは、いずれも表土直下の浅い部分で掘り込みが確認され、また、焼土も本来堅穴住居に伴うものと推定される。さらに、出土土器類もロクロ使用のものがほとんどである。壁の立ち上がりが幾分不明瞭なものもあるが、平安時代前半に属するものと考えられる。

一方、Aトレンチで確認された4号住及びBトレンチ5号住からは南小泉式に比定される土師器増と高坏などが出土していて、古墳時代に属するものと考えられる。ただし、これらの遺構は当初堅穴住居跡という認識がなく、遺物包含層として掘り進めたことから、平面形態など不明瞭な点がある。Aトレンチ南北壁の断面には4号住居跡の立ち上がりが観察できるが、Bトレンチとの間の、層上面では平面で掘り込みを確認することができず、北側がどのように延びていくのか不明である。この4号住居と高坏の出土した5号住居は、軸線が相似することから同一の住居跡の可能性もあるが現段階では確実ではない。遺物はそれぞれほぼ床面直上で出土している。

さらに、Bトレンチ西側では、堅穴住居状の方形の落ち込みに、長楕円形の立石を伴う遺構が検出された。長径120cm前後、短径80cm前後の掘り込みを伴い、立石が据えられていたような状態で確認されている。この石自体は酸化が進んでいて赤褐色を呈している。ただし、この付近では遺物がほとんど出土しておらず、遺構の性格も含めて不明な部分が多い。

古墳時代から古代の遺構が集中している箇所はこのように限定されるが、東西両端に幅2m～2.5m程度の溝跡が検出された。このうち、東側の1号溝は、埋土に水成堆積の砂質の土壌が見られることから、旧河道の埋没と考えられる。西側の3号溝は南側Aトレンチでは浅くなり、北側でやや深くなる。埋土はややグライ化しているが、人工的な掘り込みであると考えられる。

今回の調査では、層上面での遺構検出に止めた道路敷部分では、主として近世の掘立柱建物跡が検出されている。古墳時代や古代の遺構と密接に関わる部分では一部にサブトレナなどを設定しているが、地山と遺構埋土の識別が困難な場合が多く、詳細については今後さらに検討する必要がある。

東区は、水路敷設計定範囲について調査を行った。この付近では、西区ほど遺物包含層及び遺構埋土の腐食が進んでおらず、当初の調査では地山として認識したグライ化した土壌が、遺構埋土等を構成していることが判明した。また、調査時の天候の関係から、湧水が著しく調査は困難を極めた。

竪穴住居跡は調査区内に3基確認されている。北側から1号、2号、3号と命名した。1号住居跡は1辺が4 m前後の方形を呈すると考えられる。西側壁はほぼ中央と北側角に長円形の小土坑が検出されている。それぞれの土坑内には小礫を伴っている。2号住居跡及び3号住居跡は、平面では十分に確認ができず、図示したのは推定線である。

これらの住居跡内及びその付近からは、平安時代前半の土師器及び須恵器が出土していることから、それらの時期の遺構と考えられる。

また、161区画北西の隅に、古墳と言いつたれている盛土が確認できる。その平面形状はやや東西に長い方形で、高さは1 m程度である。すでに北半分が以前の道路工事の際に破壊されていたため、その面をクリーニングし断面観察を行った。

その結果、盛土であることは確実であったが、古墳を予想させる施設等は認められず、中世以降の土壇であると推定された。なお、この箇所は地元の信仰も厚く、事業対象地域から除外されることから、これ以上の調査は実施しなかった。

6 県営ほ場整備事業人首川東部地区関連調査

西前田 遺跡 (NE17-0320)

後田Ⅱ 遺跡 (NE07-2382)

所在地；江刺市岩谷堂地内

事業者；岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；西前田 平成10年5月18日～20日(3日間)

後田Ⅱ 平成10年6月16日～6月17日(5日間)

◇ 10年11月16日～18日

後田Ⅱ遺跡は、北上川左岸の沖積地内の微高地上に立地している平安時代の集落跡を中心とする遺跡である。今回の調査はほ場整備に伴うものであるが、用水路であるため、工法の変更等による遺跡の保護ができなかった部分である。



第24図 西前田、後田Ⅱ遺跡の位置

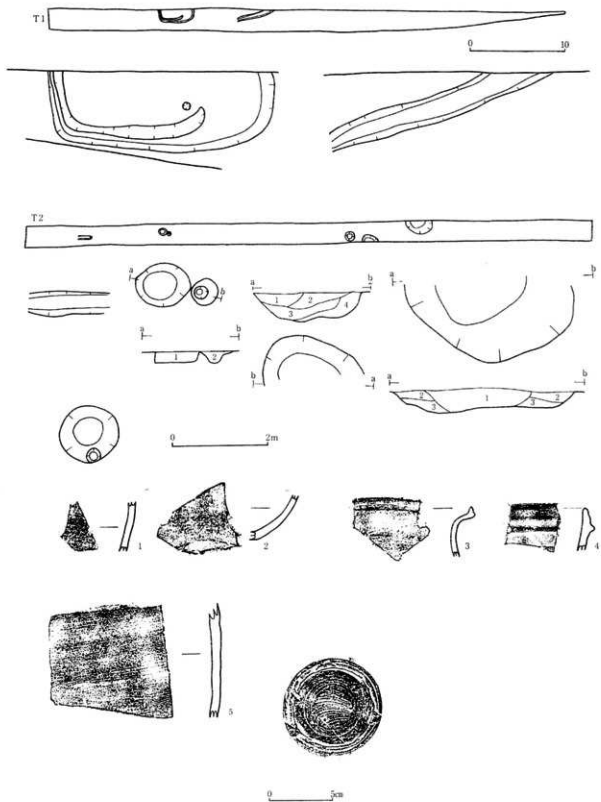


第25図 ほ場整備事業（江刺市人首川東部地区）
関連遺跡、後田Ⅱ遺跡調査区位置図

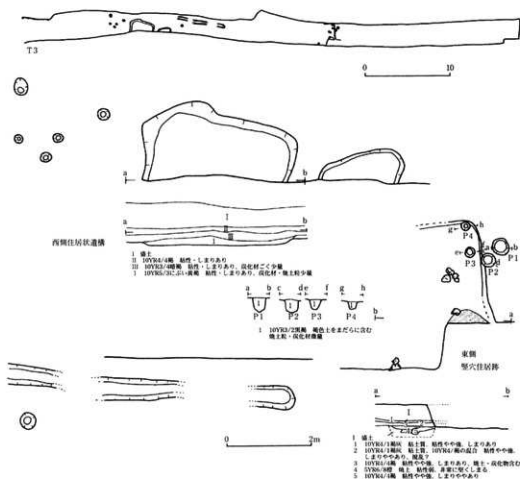
調査は2度にわたって行われ、6月の調査では、南北2箇所調査区で発掘調査を行っている。いずれも記録保存を目的とする調査である。

調査の結果、北側のトレンチからは溝跡1条と竪穴状遺構1基が検出された。遺構に伴う遺物は確実なものはないが、周辺に散布する遺物から、古代から中世の遺構である可能性が高い。

南側の調査区からは溝跡1条と土坑5基が検出されている。これも北側と同様に、遺物が明確に伴っているものがないのははっきりしないが、周辺の遺物などから、遺構の時期は平安時代から中世の間でおさまるものと考えられる。



第26図 江刺市後田Ⅱ遺跡遺構図(第1次調査)



第27図 江刺市後田Ⅱ遺跡遺構図(第2次調査)

出土遺物は土師器・須恵器・中世の国産陶器が出土している。中世の国産陶器は破片であるが12世紀のものである可能性が高い。東側の丘陵部には豊田館とされる遺跡もあり、その関連の遺物とも考えられる。

11月の調査は、6月の北側の調査区の北に隣接する位置であるが、予定されていた水路の位置が変更されたために急遽発掘調査が行われた。

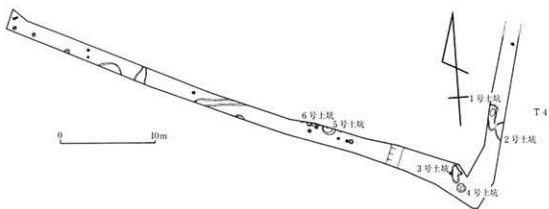
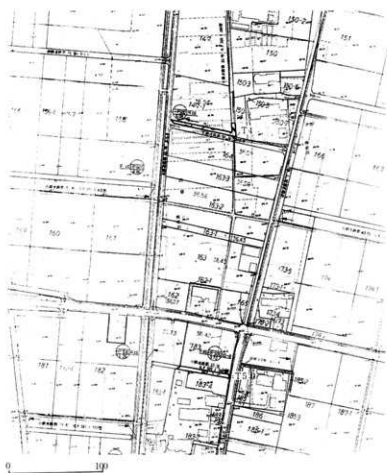
6月の調査と同様、トレンチ状の調査区で、その東半分程は湿地になっており、遺構・遺物等もは確認することはできなかった。

一方、中央部と西側では竪穴住居跡2棟を検出することができた。このうち東側の住居跡は耕作等により著しく破壊されており、壁は東側の一部で検出できただけである。住居跡東側には、床面で堅くしっかりした焼土層が検出され、これがカマドであると考えられる。規模は攪乱が著しいためはっきりしない。

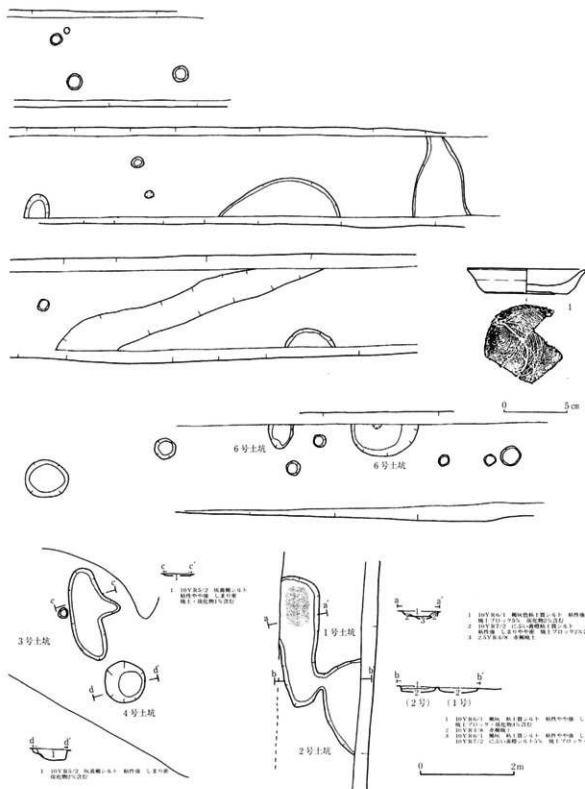
西側の住居跡は、東側に比べれば比較的良好な状態で検出されたが、平面プランはやや不整形で遺物も少ない。規模は確認された1辺3.4m、深さ15cmである。

また、両住居跡の間に東西方向の溝跡が検出されている。水道管による攪乱が著しく、この溝跡の時期や性格は不明である。

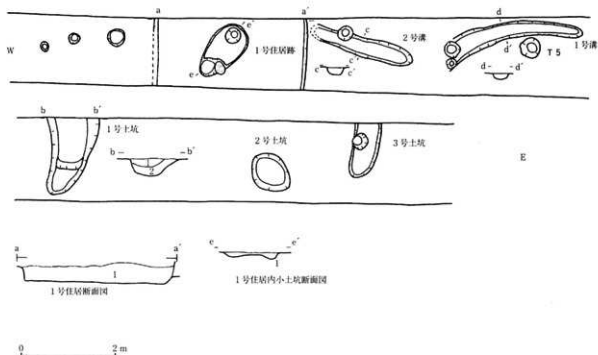
2回目の調査における遺物の総量は、大コンテナ1箱ほどで多くは土師器で9世紀後半のものである。したがって、今回検出された住居跡はこの時代のもものと推定される。



第28图 江刺市西前田遺跡調査区位置図、遺構配置図（北区）



第29图 江刺市後田Ⅱ遺跡遺構圖、出土遺物(北区)



第30図 江刺市西前田遺跡遺構図

西前田遺跡は北上川と人首川の合流点付近に位置している。付近は沖積平野が広がり、ほとんど高低差のない地形であるが、旧河道の埋没箇所や自然堤防などがわずかに起伏を作っている。

この二つの遺跡は、南北に細長い自然堤防上に形成され、ほとんど接している。以前の開田により、標高のもっとも高い部分では削平が進んでいて、わずかに堅穴住居等の床面の焼土のみ検出される場合もある。かなり広範囲に遺物が確認されている。氾濫原との比高は約4m。

今回の調査は小排水路の設置が予定されている、幅3m、延長25m余りが対象である。今回の調査地の北側水田についてはすでに昨年度試掘調査を実施済みで、平安時代の土師器及び須恵器などとともに焼土遺構が検出されたことから、盛土工法による現状保存を図っている。

基本層序は、Ⅰ層：表土（耕作土）20cm、Ⅱ層：黄褐色シルト質土層（遺構確認面）30cm前後、Ⅲ層：暗褐色土層（無遺物層、Ⅱ層下に成層）、Ⅳ層：青灰色粘土層（低地で確認）。

調査区はほぼ中央で、堅穴住居跡状の遺構を1基検出した。1辺が約3.2mで、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約40cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は地山をほぼそのまま利用しているが、一部で貼り床状の粘土が認められる。床面付近から、砥石が出土した。また、床面で焼土を伴う浅い土坑を検出した。土坑は溝状を呈するものと不整形のものがある。

ほか、小土坑が複数検出されたが、そのうち1基からガラス質の鉱滓が出土した。東側で検出された溝跡はいずれも浅いものであるが、砥石が出土している。遺構の埋土はいずれも暗黄褐色で、炭化物や焼土粒などが含まれている。

全体に遺物量が少なくしかも磨滅の進んだ小片であるため、時期の判別が困難であるが、古代の遺構群と考えられる。

北区についても、水路工事によって埋蔵文化財の現状保存が困難な約150㎡について、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。基本層序は以下のとおり。Ⅰ層；表土（耕作土）20cm、Ⅱ層；黄褐色シルト質土層（遺構確認面）30cm前後、Ⅲ層；暗褐色土層（無遺物層、Ⅱ層下に成層）、Ⅳ層；青灰色粘土。

南北トレンチでは、焼土を伴う土坑が検出された。この土坑は、当初隣接しあう2基の土坑と考えられたが、精査の結果、不整形の1基の遺構である可能性が高くなっている。埋土には炭化物が多く含まれるが、住居跡等を構成するものではないと判断された。東西トレンチと交差する付近でも、2基の土坑が確認された。埋土中より、青磁片と糸切底のかわらけが出土している。さらに西側でも、柱穴状の小土坑や溝跡などが複数検出されているが、ほとんど遺物を含まず、時期を特定できるものはなかった。

以上、この付近では時期の明瞭なものとしては中世の遺構の所在が明らかとなった。

7 中山間地域総合整備事業【上大原地区】関連調査

熊の平遺跡（NF62-0227）

所在地：東磐井郡大東町大原字上大原地内

事業者：千賀農村整備事務所

調査期日：平成10年2月16日～17日、8月31日～9月25日

（のべ21日間）

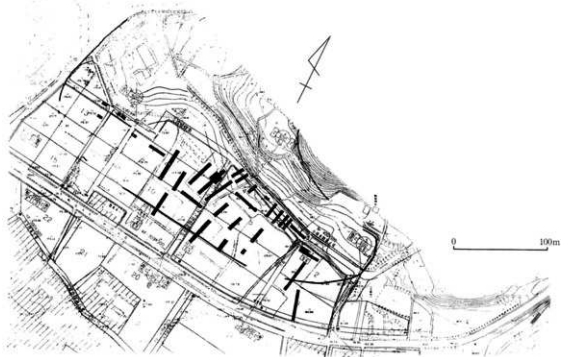
調査の経緯及び遺跡の立地と環境

本遺跡は、大東町東部の大原地区に位置し、砂鉄川右岸（北岸）の低位河岸段丘にのびる丘陵裾の南向き緩斜面に立地し、現況は水田となっている。調査地は岩手県遺跡基本図の範囲外で、周知されていたのは、より北側の尾根状の部分と（中田Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡）、町道を挟んだ南側の部分（熊の平Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡）である。今回の現場整備事業に伴い事前に事業予定地を試掘調査した結果、遺跡の広がりが確認されている。

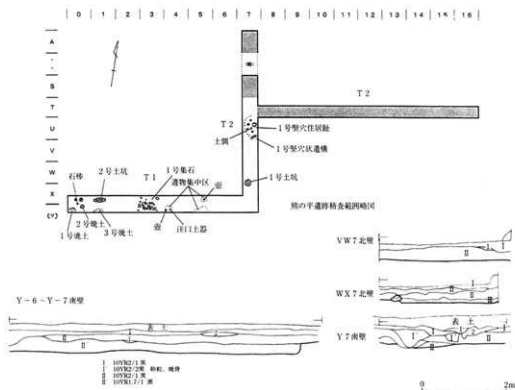
試掘調査によって、現在の水田面はかなり広範に埋蔵文化財が確認された。そのため、当課と事業者である岩手県千賀農村整備事務所がその保護にかかる協議を重ねた。その結果、水田面については埋蔵文化財の確認される標高を把握し、工事によって埋蔵文化財に影響のないように工法や設計等を変更した。しかしながら、小排水路及び給水パイプラインが敷設される部分については、埋蔵文化財を現状のまま保存すること



第31図 熊の平遺跡の位置



第32図 大東町熊の平遺跡調査区位置図



第33図 大東町熊の平遺跡遺構図

が極めて困難であったことから、記録保存のための発掘調査を実施することとした。

今回の本発掘調査範囲の対象面積は約390㎡である。

調査の方法

調査区について便宜上、町道大原世田米線に沿った西側調査区をT1、南北方向にのびる中央部分をT2、東側調査区をT3と分割した。また、調査区に沿って4mごとにグリッドを設定し、北西-南東方向には北西からA~Y、北東-南西方向には南西から0~16の記号を付した。

なお、調査当初の根掘開始時点で、出土遺物量が予想をはるかに上回っており、調査予定期間内に調査範囲を全掘することが困難であることが予想されたため、調査範囲のうち、T2北半部及びT3については、水路の設計をさらに変更して、遺物包含層等に影響がないことを確認したことから、調査についてはII層上面において遺物散布状況を確認するにとどめた。

基本土層

調査地は開田時に造成を受けており、耕作土層は表土下15~20cmほどであった。表土下のI層下位~II層上位を中心に、縄文時代後・晩期の遺物包含層が形成されている。

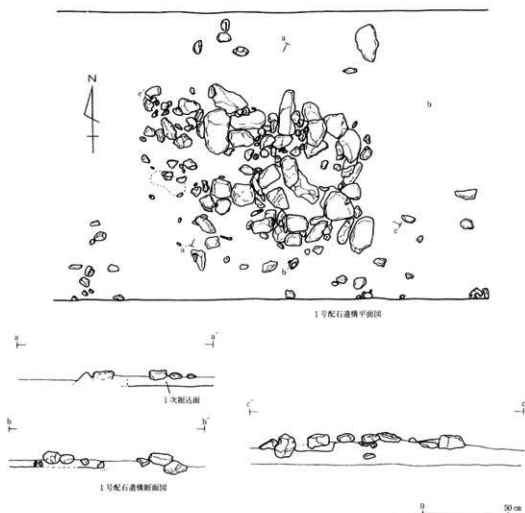
表土 耕作土。開田時の盛土。厚さ15~20cm。

I層 暗褐色シルト。下位（II層との漸移層？）に多量の遺物を包含する。

東側調査区（T3）では、開田時の造成により攪乱されている。厚さ15~20cm。

II層 黒~黒褐色シルト。遺物包含層。特に上位（I層との漸移層？）で遺物が多い。

厚さ20~30cm。



第34図 大東町熊の平遺跡遺構図

Ⅱ a 層 黒褐色～暗褐色シルト。Ⅱ層に比して遺物は少ない。厚さ15～20cm。

Ⅱ層と似ており当初はⅡ層との区別がつかなかった。調査終盤に土層断面の検討の結果、異なる層と認定した。

Ⅲ層 暗褐色砂質土。無遺物層。厚さ不明。

この他、調査区の各所に、炭化物粒・焼土粒・獣骨片を含んだ土層を確認したが、投げ込み等と判断し、基本土層からは除外している。

調査の概要

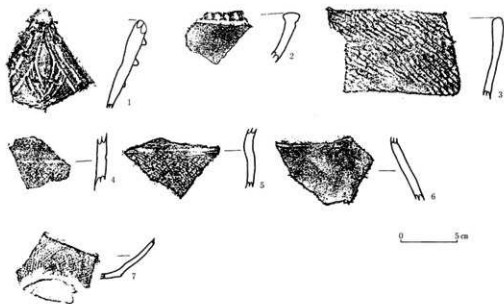
遺構

今回の調査の結果、竪穴住居跡1棟、竪穴状遺構1棟、土坑1基、落とし穴状遺構1基、配石遺構1基、焼土遺構3基などを検出した。

(1) 縄文時代の遺構

[竪穴住居跡]

T2-UグリッドのⅡ層下位(Ⅱa層上面か?)で検出した。炉と柱穴状ビットのみを検出した。壁は検出できず、形状・規模等の詳細は不明である。焼土付近の埋土からは縄文時代晩期の遺物が出土しており、その時期に属する可能性が高い。



第35図 大東町熊の平遺跡出土遺物

〔竪穴状遺構〕

T 2-UグリッドのⅡ層下位(Ⅱa層上面か?)で検出した。一部を検出したのみで、規模・形状は不明である。

〔土坑〕

T 2-WグリッドのⅢ層面での検出で(1号土坑)、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色土(Ⅱa層土)の単層で、遺物は出土していない。各土坑とも縄文時代後期かそれ以前の土坑であると推測されるが、詳細は不明である。

〔落とし穴状遺構〕

T 1-1グリッドのⅢ層面で検出した(2号土坑)。平面形はやや楕円形気味の溝状で、断面形は逆三角形を呈しており、いわゆる落とし穴と推測される。埋土は黒褐色土(Ⅱ層下位土)のほぼ単層で、遺物は出土していない。時期決定の材料が乏しいが、形状から縄文時代中期～後期初頭に比定される。

〔配石遺構〕

T 1-3グリッドのⅡ層下位で検出した。配石下部に土坑・埋設土器等は検出されていない。石の配列から見ると、全体として2～3ブロックに分かれているようであるが、詳細を把握できなかった。石の組み方を観察したところ、上部に比較的大きな礫(15～20センチほど)が多い。また、礫の間に多数の土器片が散在しており、石組みの一部として土器片が使われていたようにも見て取れる。埋土中からは、後期から晩期の土器片が出土しているが、石に貼り付くような形で加曾利B式並行期の土器片が出土していることから、本遺構は縄文時代後期中葉に属すると考えられる。

〔焼土遺構〕

T 1-0～1グリッドのⅡ層上面において3基検出されたが、うち2基(1号・3号)については投げ捨ての可能性があり明瞭ではない。2号焼土については、比較的しっかりとした層をなしており、現地性と判断された。また2号焼土周辺からは柱穴状ピットも数個検出されており(Ⅲ層上面で検出)、竪穴住居跡を構成した可能性がある。

近世～近代の遺構

[溝（水路）跡]

T2を貫いて南流する1号溝、及びT1-6グリッドを縦貫して南流する2号溝、T3を西流して1号に連結する3号溝を検出した。これらの溝跡は比較的新しく、近代以降の水路跡だったと思われる。溝の両脇には杭列が残存しており、河道部分は長さ15～20程度の礫で覆われていた。意図的な石組みではないかと推測される。

遺物

縄文時代

縄文時代後期後半～晩期末の土器片・土製品等が約45箱分出土した。

（土器） 縄文時代後期の加曽利B式並行期や十腰内、式（縮付土器）の土器片が散見され、晩期では三叉状入組文や羊歯状文・雲形文などの大洞B～C2式期の土器片が多く認められる。また、工字文系の土器片も見られる。全体としては、調査区全体から縄文時代後期中葉～晩期末までの土器が出土しているが、斜面の傾斜に沿った時期的占拠が異なると思われる。

- ①斜面上方（T2北側） 工字文・変形工字文の晩期後葉～末葉（大洞A～A'式）が主体
- ②斜面中腹（T2中央） 羊歯状文・雲形文の晩期前葉～中葉（大洞BC～C2式）が主体
- ③斜面下方（T1・T2南側） 張縮や大型口縁部突起、三叉状入組文などの後期中葉～晩期前葉（加曽利B式～大洞B式）が主体。

（土製品） 土偶・耳飾・土製円盤・腕輪・土錘その他の土製品が数十点出土している。土偶について見ると、体部の文様等から晩期初頭（大洞B式期?）と推定される土偶（腕部・脚部欠損、頭部・腕部欠損）や、中空土偶頭部などが出土した。

（石器） 石鏃・石匙・石錐・石斧・石鉞等が出土した。出土した石鏃を観察したところ、形状が一定せず、有茎・無茎が混在し、後者には抉入形・三角形などが認められる。また、石器未製品（石鏃）と見られる薄片が多く出土している。

（石製品） T1-0グリッドのⅡ層中から出土した石棒などがある。

（黒曜石） T2のⅡ層中から小片が数片出土している。

近世～近代

水路跡の埋土（砂質土）中から土師器・須恵器片、陶磁器片が出土した。また、寛永通宝も出土した。

まとめ

今回の調査により、本調査区が縄文時代後期～晩期の遺物を多量に包含している遺跡であったことが判明した。時期的には斜面下方に縄文時代後期の捨て場が形成され、後に中腹に晩期初頭、上方に晩期後半の捨て場が形成されていったと考えられる。今回の調査では、該期の集落跡は明瞭ではなかったが、調査区付近に所在するものと考えられる。

Ⅱ 試掘調査 分布調査

1 北上川上流改修事業川崎地区築堤工事関連調査

河崎の櫛擬定地 (OE09-1173)

所在地：東磐井郡川崎村門崎地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成10年4月21日、22日（2日間）

遺跡は川崎村門崎地内の砂鉄川と北上川の合流点付近に位置し、両河川に挟まれた自然堤防上に立地している。遺跡の標高は15～16mである。この付近は、北上川上流域で集中豪雨等があった場合、砂鉄川及び千厩川の逆流によって冠水し、しばしば重大な被害を受けている。遺跡の立地する自然堤防も、このような冠水が幾度となく繰り返されて形成されたものと理解できる。

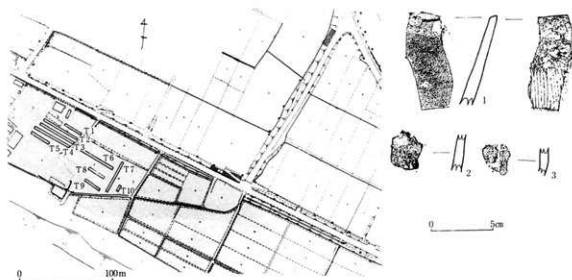
今回の調査は前年度に行った調査を補足するもので、畑作物等によって調査ができなかった擬定地北西側の微高地を主な対象とした。この付近は畑地のほか宅地としても利用されていて、周辺の低地より2m以上高くなっている。

自然堤防に並行する形で、T1～9を設定した。いずれのトレンチも前回調査と同様に厚く砂層が堆積している。この砂層は大きく3層に分けることができ、さらに細かく数枚に分層が可能と考えられる。それぞれの層の上面では、建物跡を構成すると考えられる礎石を伴う柱跡や、貯蔵穴と考えられる袋状の土坑が複数確認されることがある。遺物は陶磁器片を中心とする。近世後期をさかのぼるものは今のところ確認できない。1片であるが、磨滅した土師器片が出土した。

砂質のため壁面の土砂崩落が頻繁に起こるため、2m以上掘り下げるのが困難であった。そのため、最終的な無遺物層の把握が不可能であった。ただし、今回の調査区についても前回と同様の結果が得られていることから、古代にさかのぼる遺構が現存する可能性は低いと考えられる。(平成11年度以降再調査予定)



第36図 河崎の櫛擬定地の位置



第37図 川崎村河崎の櫛擬定地調査区位置図、出土遺物

2 仙人峠道路建設事業関連調査

古館 遺跡 (MG70-1175)

所在地：釜石市甲子町関沢地内

事業者：建設省三陸国道工事事務所

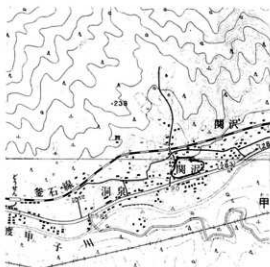
調査期日：平成10年10月20日、12月7～8日（3日間）

遺跡は甲子川左岸の河岸段丘状の緩斜面に立地する。

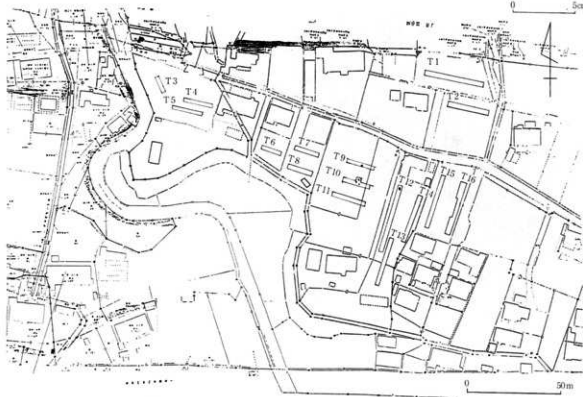
付近は北側より流入する小河川が、小角レキを運びながら堆積を繰り返し、段丘状の地形を形成している。基本層序は、Ⅰ層：表土20cm、Ⅱ層：黒褐色砂礫層（遺物包含層）30cm、Ⅲ層：暗褐色砂礫層（漸移層）10cm、Ⅳ層：黄褐色砂層（地山）。

事業予定地内にT1～16を設定した。T1～8では、遺物等の出土は認められなかった。T9では、80×100cmほどの土坑1基、T10では、土師器を伴う径80cmほどの土坑2基が検出され、いずれも古代の遺構と判断される。T12でも、小判型の土坑が1基検出された。また、付近では縄文土器の散布も確認され、さらに埋蔵文化財の包蔵範囲は拡大するものと考えられる。T15、16では崖錐性の互層が厚く認められる。

以上の結果、T9～14付近を中心に記録保存を実施することとした。（平成11年度本発掘調査予定）



第38図 古館遺跡の位置



第39図 釜石市古館遺跡調査区位置図、出土遺物

3 大志田ダム建設事業関連調査

釜石IV遺跡 (JE69-0265)

所在地：二戸郡一戸町平糠字釜石

事業者：東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所

調査期日：平成10年10月7日～13日

(5日間、他遺跡も含む)

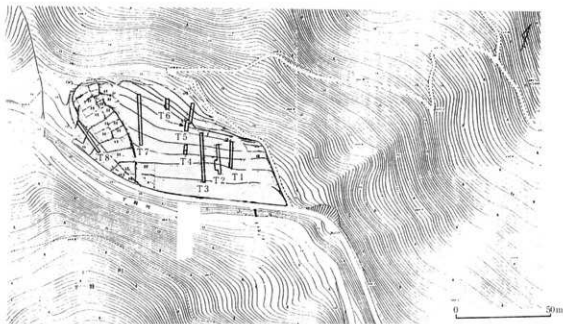
本遺跡は一戸町南東部を北に流れる平糠川の南岸の緩斜面上に立地している。標高は366.5～373mで、小規模な扇状地状の地形になっている。

今回の試掘調査では、任意に8カ所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況の確認をしている。基本層序は1から7層に分けられ、3層は中振浮石と考えられる。

遺物はT2では4層、T7では6層で縄文土器が出土しており、いずれも縄文前期あるいはそれ以前のものと考えられる。出土量は数点と少ないが摩耗の無い土器の状態や地形的な条件から周囲からの流れ込み等は考えられない。T7の土器は斜面の下方で出土し薄く外面に横位の隆線があり、きめの細かい縄文が施されている。層位的には縄文時代早期あるいは草創期の可能性がある。遺構は確認されなかったがT7の最下層でわずかに段状を呈している部分があり何らかの遺構になる可能性もある。(平成11年度以降本調査予定)



第40図 釜石IV遺跡の位置



第41図 一戸町釜石IV遺跡調査区位置図、出土遺物

4 東北新幹線建設関連調査

大崎遺跡 (KE77-1001)

所在地：岩手郡滝沢村滝沢字大崎

事業者：日本鉄道建設公団盛岡支社

調査期日：平成10年9月17日（1日間）

大崎遺跡は遺跡の東側を南に流れる北上川に注ぐ2本の小さな沢に挟まれた独立した平面台形状の丘陵上に立地している。周囲は造成され、平坦な地形になっている。現況では確認できないが、西側には緩やかな斜面が延びていた可能性がある。

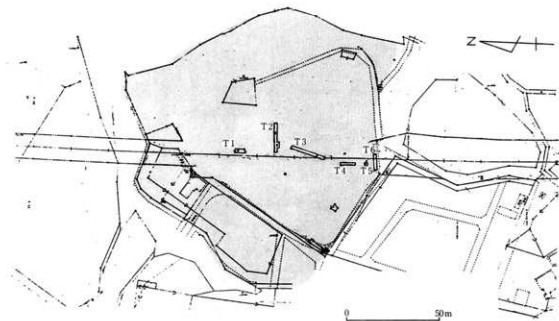
今回の試掘調査では6カ所の試掘トレンチを設定している。その結果、遺構についてはT1からT3で土坑4基が検出されている。遺物は調査区の西端で縄文土器片が採集できた。詳細な時期ははっきりしないが、土坑は縄文時代のもと考えられる。竪穴住居跡は確認できなかったが、造成によって破壊された場所、あるいは調査区の西側の縄文土器が若干散布する付近に存在する可能性がある。この西側の端は高さ1.5m程度で切り落とされている。おそらくは周辺部の造成の際に削られたものと思われる。（平成11年度本発掘調査予定）



第42図 大崎遺跡の位置



0 5cm



第43図 滝沢村大崎遺跡調査区位置図

5 八戸自動車道軽米九戸地区Uターン路工事関連調査

道地Ⅱ 遺跡 (J F02-0066)

所在地：九戸郡九戸村大字江刺家14地内

事業者：日本道路公団八戸管理事務所

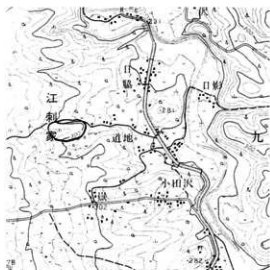
調査期日：平成10年5月12日～13日(2日間)

遺跡は、瀬月内川に向かって傾斜する東向き斜面に立地する。この斜面は西側から長く延びる丘陵の裾に形成され、遺跡付近では南北両側を沢によって開析されたことにより尾根状を呈している。

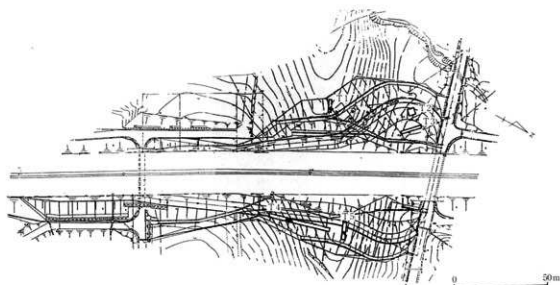
今回の調査は、本線道路の両側を拡幅することにもとない、埋蔵文化財の保護を図る必要が生じたために実施したものである。この遺跡の本線部分については、昭和56(1981)年に発掘調査を実施し、少量ながら縄文土器片が出土している。基本層序は次のとおり。Ⅰ層：表土(腐植土)10～30cm、Ⅱ層：黄褐色レキ混じり土層(遺構確認面、下位に行くにしたがってレキが多くなる)。なお、Ⅰ層とⅢ層の間に遺物包含層がごく薄く認められる箇所がある。

当初、過去に本発掘調査を実施した範囲に隣接する南側低地部分についてトレンチを設定したが、遺物等は確認されなかった。事業地はほぼ中央に位置する自動車道東西の尾根部分では、いずれも表土下で黒褐色土の落ち込みと縄文時代後期の土器片が出土したことから、竪穴住居跡の可能性が高いものと判断した。さらに、南側斜面部でも暗黄褐色の掘り込みが認められたことから、遺跡範囲が南北斜面に広がりをもつことが予想された。北側斜面及び沢付近の低地では、炭窯が検出されたが、その構造からごく近年まで採炭していたものと判断された。

以上の結果、遺構が確認された尾根上及び両側斜面部分について、本発掘調査を実施する必要があると認められた。
(平成11年度本発掘調査予定)



第44図 道地Ⅱ遺跡の位置



第45図 九戸村道地Ⅱ遺跡調査区位置図

6 一般県道盛岡篤宿線篤宿地区道路改良関連調査

南畑 遺跡 (L E.32-0148)

所在地：岩手県雫石町篤宿地区内

事業者：岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成10年7月1日

遺跡は篤宿川右岸の河岸段丘上に立地する。この付近では、現河床との比高が大きく、右岸に良好な段丘地形の発達が認められ、広く平坦地が形成されている。

今回の調査は県道の拡幅予定範囲について実施したもので、周知範囲とともに埋蔵文化財が包蔵されている可能性が高い範囲も含めて実施したものである。基本層序は次のとおり。Ⅰ層：表土（盛土整地層）40cm、Ⅱ層：暗黄褐色土層（遺物包含層又は遺構埋土、上面が遺構確認面か？）20cm、Ⅲ層：黄褐色土層（地山）20cm以上。

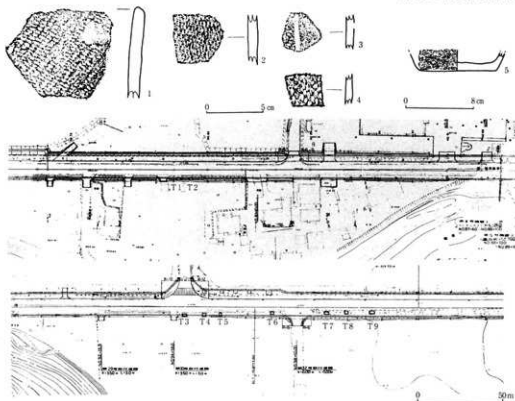
事業範囲が細長く限定されるため、路線に沿って短いトレンチを9箇所を設定した。その結果、T1、2では縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての土器片がまとめて出土し、遺物包含層かもしれない堅穴住居跡のような遺構であると考えられた。さらに西側のT3～9では、表土の状況からかつて水田として利用された時期があったことが推定されたが、著しい土壌の攪乱はないものと考えられた。これらのトレンチでは、遺物等は一切認められず、遺跡の範囲がこの付近までは広がらないものと判断した。

以上の結果、埋蔵文化財が確認された範囲について、別途本発掘調査を実施することとした。

(平成11年度本発掘調査予定)



第46図 南畑遺跡の位置



第47図 雫石町南畑遺跡調査区位置図、出土遺物

7 県単道路改良事業盛岡環状線関連調査

野沢 遺跡 (K E 76-1330)

所在地；岩手郡滝沢村滝沢野沢地内

事業者；岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日；平成10年9月3日

遺跡は、北上川右岸の古丘陵から東に傾斜して延びる緩やかな斜面に立地している。遺跡付近はところどころ小さな沢で開析され、尾根状の張り出しが形成されている。

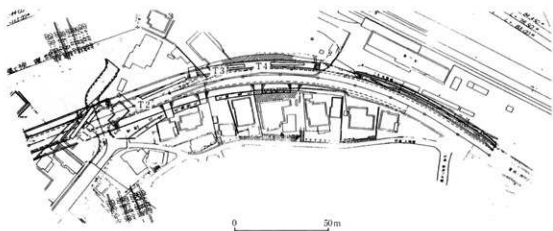
調査は県道の改良工事に伴うものである。この遺跡は、周知されている範囲の中心は今回の調査地点のさらにより西側にあたり、何度か調査を重ねてきている。今回は、JR 滝沢駅から200mほど西側の地点で、旧道路脇に立ち並んでいた家屋等が移転した場所にあたる。

この部分についても、造成工事による盛土攪乱等を除けば、以前の調査箇所とほぼ同様の基本層序である。Ⅰ層：表土（盛土を含む）20～100cm、Ⅱ層：黒褐色土層（本来の遺物包含層）0～50cm、Ⅲ層：黄褐色火山灰層（生土スコリアを含む）10cm、Ⅳ層：黒褐色土層（Ⅱ層と同じ）30cm、Ⅴ層：黄褐色砂質土層（中せり火山灰）10cm、Ⅵ層：黒褐色土層、Ⅶ層：黄褐色土層（地山）

この遺跡内は上記のように黒褐色土等の堆積が厚く、しかも中間に火山灰層が含まれることから、出土遺物の相対的年代等を検討する上で良好な資料を提供する。しかし、今回の調査では遺物の出土はなく、遺跡の東端をさらに越えている可能性があるものと考えられる。



第48図 野沢遺跡の位置



第49図 滝沢村野沢遺跡（隣接地）調査区位置図

8 葛根橋橋梁整備事業関連調査

小日谷地 I b 遺跡 (L E 12-1322)

所在地：岩手郡雫石町第2地割字小日谷地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成10年7月1日

遺跡は葛根川に面した低位の河岸段丘上に位置している。沖積平地部分との比高は20m。遺跡周辺は宅地化が進行しているが、段丘崖に近い部分では、山林として残されていたり、畑地として利用されたりしている。

今回の調査は、町道の改良事業に伴うもので、約1,000㎡が対象である。現道が、橋梁に取り付く部分が大きく改良される予定となっている。

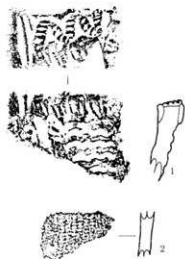
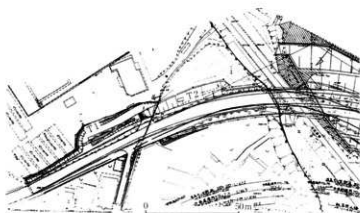
道路とはほぼ並行する形で、T 1、2を設定した。基本層序は、I層：表土 20cm、II層：黒褐色土層（灰白色火山灰をブロックで含む）10cm、III層：暗褐色土層 10cm、IV層：黒褐色土層（上面に生出スコリア、遺物包含層）20cm、である。T 1ではこれらの基本層序がよく残存していることが確認され、II層～IV層中では縄文時代前期後半から中期前葉の土器片が多量に出土する。明確な遺構の確認はできなかったが、II層で灰白色火山灰がブロックで認められることや、遺物の出土が集中する地点があることから、竪穴住居跡等の存在が予想される。T 2付近は、以前の道路工事等で1m以上盛土されていることが判明し、T 1付近とは大きく地形が異なる状況が観察された。

以上より、T 1付近について本調査が必要であると判断した。

(平成11年度本発掘調査予定)



第50図 小日谷地 I b 遺跡の位置



0 5cm

第51図 雫石町小日谷地 I b 遺跡調査区位置図、出土遺物

9 県単道路改良事業関連調査

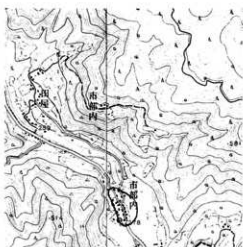
市部内 遺跡 (J F 52-1213)

所在地；岩手郡葛巻町字市部内地区

事業者；岩手県盛岡地方振興局土木部

調査期日；平成10年7月22日

遺跡は馬淵川左岸の河岸段丘上に立地する。この付近では右岸側に比較的広く平坦地が広がり、左岸は南より川に流入する小規模な沢により開析された扇状地形がわずかに認められる。遺跡周辺は県道に沿って宅地化が進んでいるが、大部分は畑地であり、多量の土器片及び石棒・石斧を初めとする石器類が採集できる。

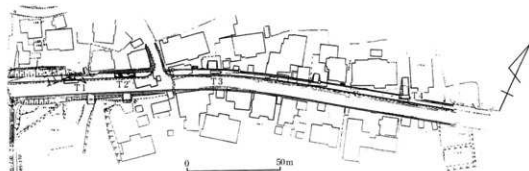
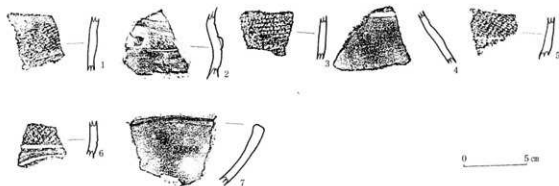


第52図 市部内遺跡の位置

今回の調査範囲は、旧宅地跡や構築物跡がほとんどで、それらのコンクリート基礎などのためにトレンチを設定する箇所が限定された。T2で焼土遺構を伴う竪穴住居跡と考えられる遺構が2基、土坑1基が確認された。出土した土器片はほとんどが縄文時代後期中葉ごろと考えられるものである。

遺構の保存状態はよくないが、トレンチで確認した遺構・遺物の状況から道路改良範囲に広く埋蔵文化財が確認される可能性が予想される。T3は調査範囲が極めて限定されたことから、地下の状況を確認するに至らなかった。T4では遺構・遺物は確認できなかったが、付近の畑地で土器片を採取することができた。T1は南側からの尾根状の張出となっており、今回の調査では埋蔵文化財を確認できなかったものの、全体の状況から遺構の残存が予想される。

以上の結果、埋蔵文化財を現状保存することが困難であると考えられたため、工事着手以前に記録保存を目的とした発掘調査を実施することとした。(平成11年度本発掘調査予定)



第53図 葛巻町市部内遺跡調査区位置図、出土遺物

10 地方特定道路整備事業古田峠地区関連調査

大林 遺跡 (M E09-0035)

所在地：稗貫郡大迫町亀が森字大林地内

事業者：岩手県花巻地方振興局土木部

調査期日：平成10年10月21日

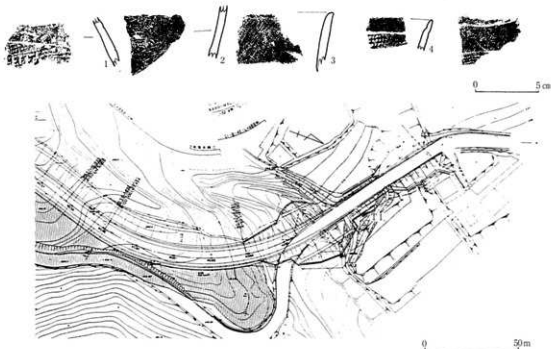
遺跡は古田峠付近から北に流れる沢と沢の間に形成される尾根状の張り出しに位置している。遺跡付近は北向きのやや急な斜面を形成するが、かつて畑地であった部分も、開田が進められたことで急地形が失われている。今回の調査は道路改良工事に先立って、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図るために実施したものである。

事業予定範囲が現道両脇のきわめて限定された範囲であったので、北側に張り出した旧水田の平坦な部分についての試掘トレンチを設定した。基本層序は、Ⅰ層：表土(旧耕作土)20cm、Ⅱ層：黒褐色土層(遺物包含層、部分的に暗褐色を呈する、さらに数枚に分層が可能)0~50cm、Ⅲ層：黄褐色土層(地山、礫混じり)、である。調査区北側はまもなく急傾斜で下方の水田面にいたるが、その斜面部に向かって黒褐色土の落ち込みが観察され、この部分で土器片及び石器が出土している。道路のすぐ脇の部分では地山が認められることから、遺物包含層と推定される。さらに北側の水田部分については、すでに大幅に削平されているものと判断された。

出土遺物は少量であるが、弥生時代中期中葉~後半頃のもので、この地方での類例が少ないものである。なお、南側に民家に通じる小道があり、その改良工事もあわせて予定されることから、その部分も含めて本発掘調査が必要な範囲として判断した。
(平成11年度本発掘調査予定)



第54図 大林遺跡の位置



第55図 大迫町大林I遺跡調査区位置図、出土遺物

11 新交流ネットワーク事業湯本地区関連調査

清水ヶ野 遺跡 (MD38-2212)

所在地:和賀郡湯田町第18地割湯本地区内

事業者:岩手県北上地方振興局土木部

調査期日:平成10年5月7日

遺跡は和賀川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡付近は低位段丘の発達が著しく、川に沿って広い段丘面を形成する。この遺跡の範囲も広く周知されているが、今回の調査範囲は段丘の西端部にあたり、舌状の丘陵が張り出している。

今回の調査は現在の県道から新規に経路が変換する部分にあたり、延長200m程度が対象となっている。この付近は、戦後まもなく杉の植林が行われているものの、地形はほとんど改変されていない。そのため、地下遺構はきわめて良好に保存されている可能性が高い。

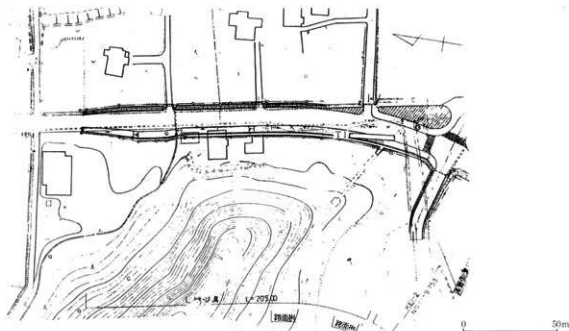
基本層序は以下のとおり。Ⅰ層:表土(腐植土)10cm、Ⅱ層:暗褐色レキ混じり土層(遺物包含層、この中に遺構確認面が存在する)0~40cm、Ⅲ層:黄褐色粘土質土層(地山)。事業予定地内でもっとも拡幅の広い部分についてトレンチを設定し、遺構等の有無を確認した。

その結果、畑地化していないことから表土の形成は薄く、その下位に縄文時代前期末~中期初頭の遺物を多量に含む層が確認されている。とくに、石器製作のため、頁岩を粗削して石核としているものが多量に出土する。これは、和賀川河川敷で頁岩の原石が採取されることによるもので、しかも、この遺跡が当該期の石器供給地としての役割を予想させる内容となっている。さらに北側部分でも黒色土の堆積は厚く認められ、Ⅱ層下位には黒褐色の粘性に富む土層中に焼土が観察されることから、堅穴住居跡等の遺構も多数所在しているものと考えられる。

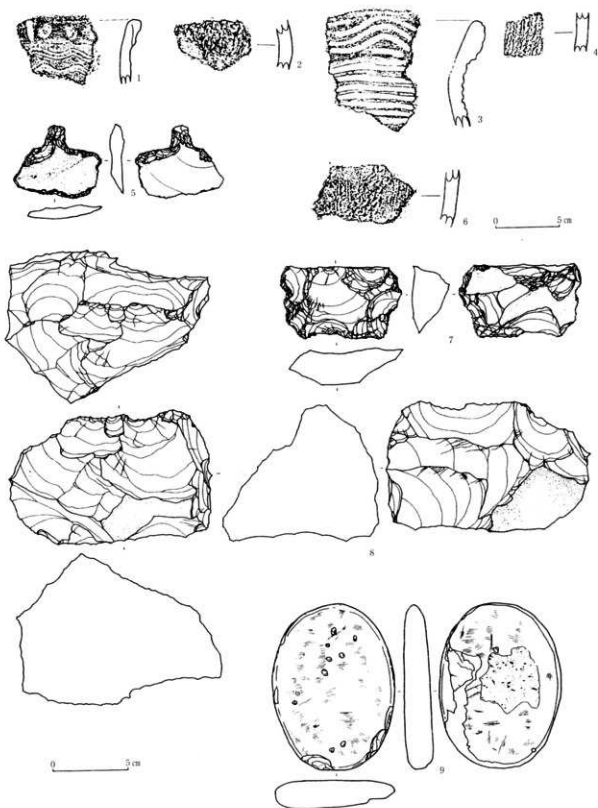
(平成11年度本発掘調査予定)



第56図 清水ヶ野遺跡の位置



第57図 湯田町清水ヶ野遺跡調査区位置図、出土遺物



第58図 湯田町清水ヶ野遺跡出土遺物

12 主要地方道盛岡横手線凍害対策事業関連調査

下幅遺跡 (MD18-1098)

所在地；和賀郡沢内村第6地割地内

事業者；岩手県北上地方振興局土木部

調査期日；平成10年11月12日

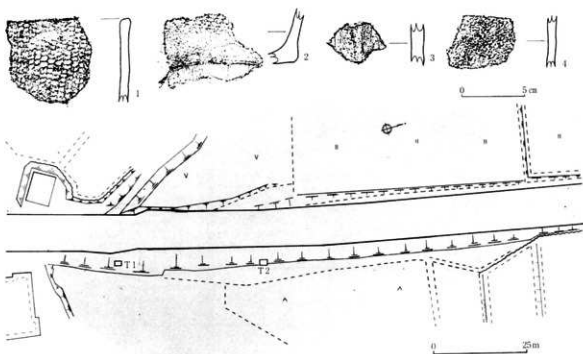
遺跡は和賀川に注ぐ、北西の奥羽山系から流出する小河川の河岸段丘状の地形に立地している。今回の調査は防風雪シェルター脇に、歩道及び流雪溝を設置することから、実際に工事が行われる現道東側について、埋蔵文化財の有無及び遺存状況を確認したものである。対象範囲は総延長100m、平均的幅4mである。

対象地が狭小で重機等の進入が困難であったため、人力による遺物包含層の確認を行った。その結果、縄文土器(中期)・石器等が、道路に平行する畑地脇の高さ1m程度の土境から出土している。これは、現道造成の際の盛土と考えられる。また、この盛土下では旧表土及び縄文時代の遺物包含層が明瞭に遺存していることが確認され、地山にもぐりこむように土器片等が出土している。

そのため、幅約1m、長さ40mほどの範囲が今回の工事のために影響があると考えられたことから、事業者とその保護方法について協議した。その結果、法面勾配等の設計を変更し、埋蔵文化財に影響がない工事を実施することで保護することを確認した。



第59図 下幅遺跡の位置



第60図 沢内村 下幅遺跡調査区位置図、出土遺物

13 都市計画道路辻岡地区関連調査

医者屋敷 遺跡 (ME95-2247)

所在地：胆沢郡金ヶ崎町辻岡地区内

事業者：岩手県水沢地方振興局土木部

調査期日：平成10年10月21日

遺跡は金ヶ崎の中心街より西側2キロほどの扇状地形のほぼ中央に位置している。段丘面は金ヶ崎面と呼ばれる洪積段丘である。付近は宿内川及びその支流の小規模な沢によって自然堤防状を呈している。

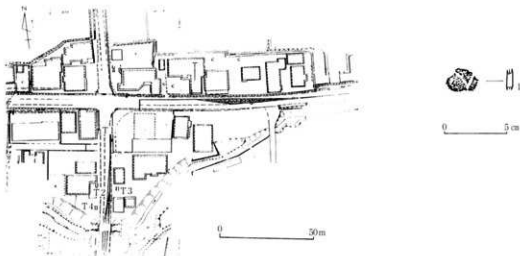
今回の調査は交差点の改良工事に伴うもので、埋蔵文化財が表面で確認された地点を中心に、T1～4を設定して試掘調査を行った。ただし、調査時点ではほとんどの建築物等が移転しておらず、調査範囲に大きな制約を受けた。

4箇所のトレンチのうち、T2で堅穴住居跡状の遺構を確認し、土師器片が出土した。T4では旧河道と考えられる粘土質のグライ化した土壌が厚く堆積しているのが確認された。

以上の結果、交差点付近では古代の集落跡が確認される可能性が高くなったことから、現道を除く拡幅工事予定範囲部分について発掘調査を実施し、記録保存を行うこととした。(平成11年度本発掘調査予定)



第61図 医者屋敷遺跡の位置



第62図 金ヶ崎町医者屋敷遺跡調査区位置図、出土遺物

14 一般県道前沢東山線道路改良事業関連調査

西館跡 (NE57-0139)

所在地：胆沢郡前沢町生母字西館地内

事業者：岩手県水沢地方振興局土木部

調査期日：平成10年7月23日

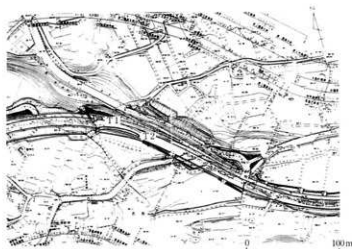
遺跡は北上川左岸の丘陵から延びる河岸段丘上の張り出しを中心に立地する。この付近は古くから館跡として周知されていて、簡易な縄張り図も作成されている。ただし、中世城館としての範囲やそれ以外の埋蔵文化財については十分調査されていなかった。

今回の調査は県道の改良工事に伴うものであるが、かなり大規模に地形が改変される予定となっている。すでに一部範囲については今年度から本調査が実施され、中世の遺構のほか、縄文時代の遺物・遺構も確認されている。また、今回の調査区(T1)付近では、前沢町教育委員会の試掘調査により、土塁状の高まりより銭貨の埋納遺構が確認され、館の範囲が広がることが確認されている。

試掘トレンチは、館跡北東端を形成すると考えられる現道に臨んだ水田部分に、等高線に沿う形で設定した。その結果、この範囲内で城館に伴うと考えられる明確な遺構は確認できず、遺物も出土していないことから、地形測量図を作成し、記録を保存することとした。これより西側及び南側では、館本来の範囲であると考えられることから、引き続き発掘調査を実施することとした。(平成10年度本発掘調査実施済み)



第63図 西館跡の位置



第64図 前沢町西館跡調査区位置図(左)、館跡全体図(右)

15 県単道路改良事業関連調査

羽場城 (NE87-0168)

所在地：一関市舞川字館ノ越地内

事業者：一関地方振興局土木部

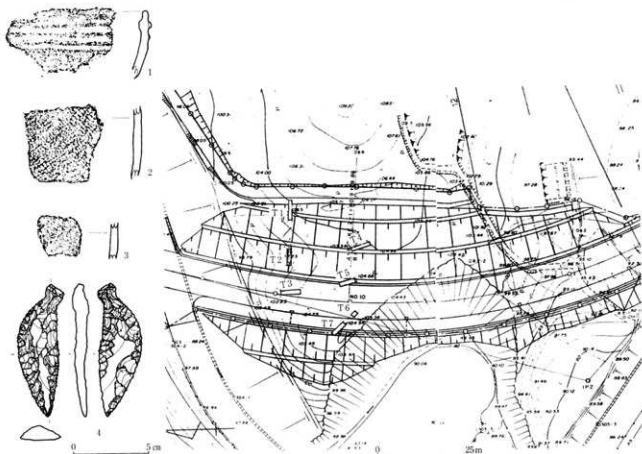
調査期日：平成10年10月2日（1日間）

本遺跡は、東西に流れる大きな沢に向かって南から突き出すように伸びる尾根上に立地している。標高は105m前後である。

現道はこの尾根を迂回しているが、それを真っすぐにするための工事である。調査では尾根上の道路予定地に、任意に試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況確認を行っている。尾根上は人為的なものもあるが比較的平坦になっているが、南北方向に小さな沢状の地形が認められ、この部分で若干の縄文時代の土器（前期・晩期）を含む遺物包含層が確認された。包含層の厚さは確認できた範囲で、北側の厚い部分で約40cm程度で南側は若干薄くなる。遺構は確認できなかった。中世の城館跡ということで試掘調査に入ったが、そうした遺構・遺物は確認できなかった。（平成11年度本発掘調査予定）



第65図 羽場城の位置



第66図 一関市羽場城跡調査区位置図、出土遺物

16 一般国道343号道路改良事業関連調査

中野台 遺跡 (NF60-0265)

所在地：東磐井郡大東町猿沢字中野台地内

事業者：岩手県千厩地方振興局土木部

調査期日：平成10年2月17日、3月9日(2日間)

遺跡は砂鉄川と興田川の合流点付近の舌状に張り出した河岸段丘上に立地する。この遺跡は早い段階から多量の縄文土器等が出土することで知られ、昭和20年代の岩手大学による調査のほか、遺跡をほぼ南北に縦断する農道建設工事に伴って町教育委員会が緊急発掘調査を実施し、縄文時代中期末葉から後期前葉の集落跡、配石遺構等を検出している。



第67図 中野台遺跡の位置

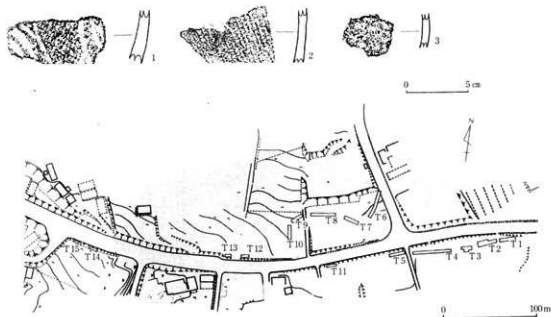
今回は遺跡北側を横断している国道の拡幅改良工事に伴い、遺跡の一部が破壊される予定であることから、埋蔵文化財の包含状況の確認を行ったものである。基本層序は、Ⅰ層；表土(耕作土)20cm、Ⅱ層；黒褐色土(遺物包含層)50cm、Ⅲ層；褐色土(地山)

調査の結果、T6～8では水田造成で地形が大きく改変され、地山層まで削平が及んでおり、埋蔵文化財は確認されなかった。T9では長径3mほどの土坑が縄文土器を伴い検出されている。同様にT10では幅30cmほどの溝状遺構が認められていて、いずれも縄文時代の遺構と判断された。

また、道路南側ではT2～T11で大規模な掘り込みが確認され、T5では焼土遺構も検出された。これらの掘り込みでは人為的な埋土が認められることから、伝承の残る砂金採掘坑と考えられる。

以上の結果、出土遺物等よりこの範囲は縄文時代中期の集落跡の一部と判断され、現状での保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査を実施することで事業者と調整した。

(平成11年度本発掘調査予定)



第68図 大東町中野台遺跡調査区位置図、出土遺物

17 新交流ネットワーク道路整備事業関連調査

中和田 遺跡 (MF96-2268)

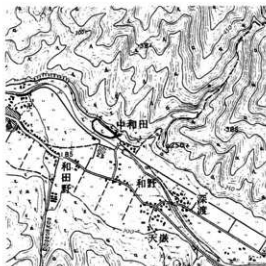
所在地：気仙郡住田町上有住地内

事業者：岩手県大船渡振興局土木部

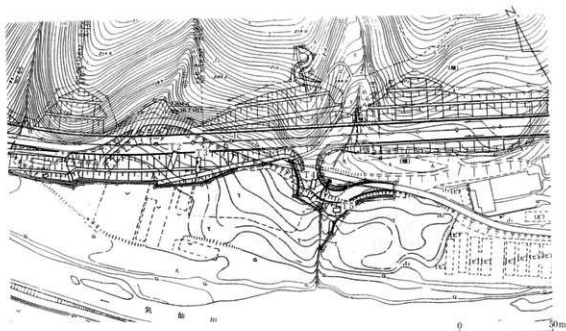
調査期日：平成10年11月13日

遺跡は気仙川右岸の小規模な扇状地に立地する。平成10年度の分布調査で新規に発見された遺跡である。遺跡内の畑地には広範囲にわたって縄文土器片の散布が認められる。今回の試掘調査では道路予定部分に6箇所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。基本層序は次のとおり。Ⅰ層：表土（耕作土）20センチ、Ⅱ層：黒褐色土（遺物包含層）30センチ、Ⅲ層：灰白色砂質土層（地山）。

T1～T2は現在休耕田となっている河川氾濫原に近い部分に設定した。これらのトレンチでは耕作土下が砂礫層となっていて、遺構等の所在は確認されなかったものの、旧地形が良好に保存されている箇所もあるため、その部分では遺構が存在する可能性が高い。T3では縄文土器（後期・晩期）を伴う溝状の遺構が検出されたが、部分的に耕作による破壊が見られる。T4ではⅢ層を掘り込んで径70cmと径110cmの土坑がそれぞれ確認された。いずれも埋土に縄文土器を伴っている。T5、6では遺構は確認されなかったが、付近では土器片の散布が確認される。なお、扇状地扇頂部分にある緩傾斜地は地形から埋没谷と判断され、遺物なども確認されないことから、遺跡範囲から外れるものと判断した。（平成11年度本発掘調査予定）



第69図 中和田遺跡の位置



第70図 住田町中和田遺跡調査区位置図、出土遺物

18 主要地方道釜石遠野線沢田地区緊急整備事業関連調査

沢田2 遺跡 (MG31-2270)

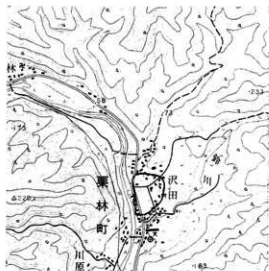
所在地：釜石市栗林町第11地割7-2ほか

事業者：岩手県釜石地方振興局土木部

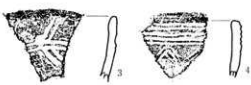
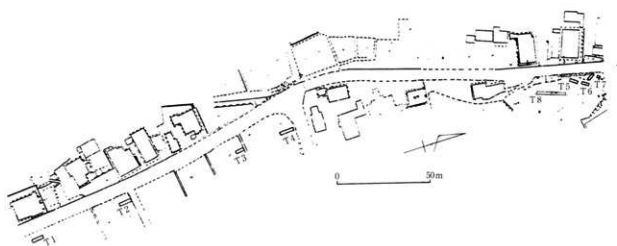
調査期日：平成10年9月10日、10月19日

遺跡は縄住川左岸の段丘状の扇状地に立地する。現況は主に宅地及び水田であるが、広範囲にわたって土器片の散布が認められる。基本層序は以下のとおり。Ⅰ層：表土（耕作土等）20cm、Ⅱ層：黒褐色土（遺物包含層、一部礫含む）40cm、Ⅲ層：褐色シルト質土（地山）

T1からT3部分では、地山層がほぼ露出しており、深さ20cmほど掘下げたところで岩盤となった。トレンチ以外にも任意に掘下げたが同様の土層が観察され、遺物の散布も認められなかった。



第71図 沢田2遺跡の位置



0 5cm

第72図 釜石市沢田2遺跡調査区位置図、出土遺物

19 一般国道283号改良工事関連調査

大久保Ⅱ遺跡 (NF43-2217)

所在地：遠野市綾織町下綾織地内

事業者：遠野地方振興局土木部

調査期日：平成7年11月28日

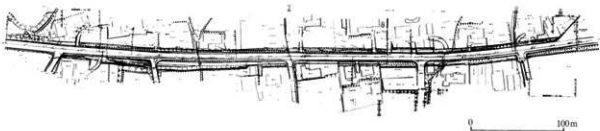
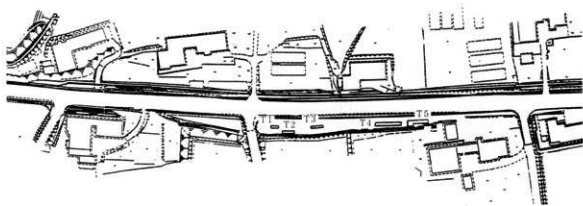
平成10年12月17日 (2日間)

遺跡は国道396号の両側に広がる緩斜面で、現況は民家あるいは畑となっている。南側前面は猿ヶ石川によって形成された沖積地になっている。今回の調査は平成7年度と10年度の2度にわたって行われたものである。平成7年度にはT1の西側を調査しており、道路の上方で焼土が検出されている。道路の下方については10年度と同様、現道に改修する以前の旧道で、遺構等は確認されていない。

10年度分の調査については、試掘調査が可能だった道路の下方についてトレンチを設定して調査しているが、旧道の跡であることが確認されたのみで、遺構・遺物とも検出できなかった。道路の上方については、民家の庭や畑になっており調査できなかったが、平成7年度の調査結果からみて何らかの遺構がある可能性が高い。(平成11年度本発掘調査予定)



第73図 大久保Ⅱ遺跡の位置



第74図 遠野市大久保Ⅱ遺跡調査区位置図

20 地方特定道路整備事業長内地区関連調査

田高Ⅰ 遺跡 (J F39-0353)

所在地；久慈市長内町地区

事業者；岩手県久慈地方振興局土木部

調査期日；平成10年9月8日～9日（2日間）

遺跡は長内川左岸に位置し、西側の丘陵より延びる河岸段丘状の張り出しに立地する。遺跡付近は宅地化が進んでいて、遺跡範囲が明瞭でない場合がある。

今回の調査は県道の改良工事のうち、県道への取り付け道路予定箇所と、それに隣接する個人事業予定地部分について実施した。基本層序は以下のとおり。

Ⅰ層：表土（耕作土）20cm、Ⅱ層：赤褐色土層（地山、遺構確認面、部分的に黄褐色）。なお、本来Ⅰ層とⅡ層の間に黒褐色の遺物を含む層及び遺構を構成する層が存在するはずであるが、すでに削平を受けていると考えられる。

調査の結果、取り付け道路工事予定部分については埋蔵文化財が確認されなかった。一方、個人事業予定箇所では、やや不明瞭ではあったが、Ⅱ層上面で縄文時代の竪穴住居跡を構成していると考えられる柱穴状の小土坑が複数と焼土が1基検出されている。小土坑内から、縄文時代前期前葉の繊維を含む土器片が出土している。

以上の結果、埋蔵文化財が確認された約50㎡について、別途本発掘調査が必要であると判断した。

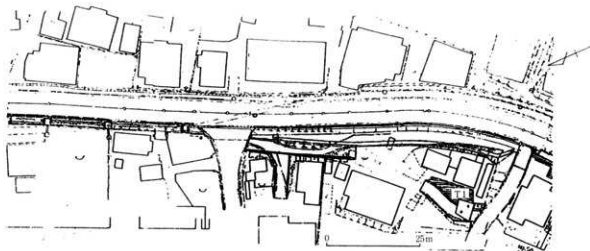
（平成11年度本発掘調査予定）



第75図 田高Ⅰ遺跡の位置



0 5 cm



第76図 久慈市田高Ⅰ遺跡調査区位置図、出土遺物

21 村道川井線改良工事代行業業関連調査

成谷遺跡 (J F 46-1066)

所在地：九戸郡山形村川井2地割地内

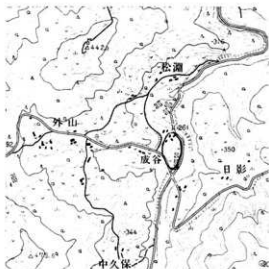
事業者：久慈地方振興局土木部

調査期日：平成8年11月11～12日、

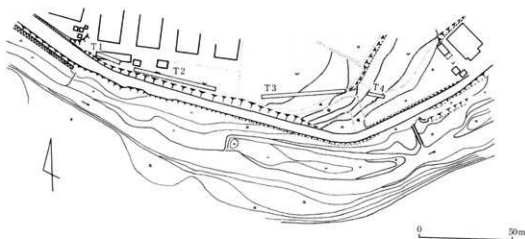
平成10年10月15日・11月25日(4日間)

遺跡は遠別川西岸の河岸段丘上に立地している。本遺跡の試掘調査は平成8年度と平成10年度の2回にわたって行われている。

平成8年の調査の際には、T2付近で焼土遺構が検出された。これは竪穴住居跡に関連する可能性(カマド跡等)があるとされている。また、ほかに、縄文土器、土師器も少数出土している。この時点では、事業地の西側部分については建物があったため試掘調査ができなかった。その後、建物が立ち退いて平成10年度に再度調査が行われ、4ヶ所の試掘トレンチを設定して、埋蔵文化財の状況を確認している。このときの調査では遺構・遺物等は確認することはできなかった。しかし、以前の調査で遺構が確認されているためT2付近以東については発掘調査が必要であると判断された。(平成11年度本発掘調査予定)



第77図 成谷遺跡の位置



第78図 山形村成谷遺跡調査区位置図

22 都市計画街路事業川又地区関連調査

矢神 遺跡 (J F00-0114)

所在地：二戸市川又地区内

事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成10年5月28日、8月19日(2日間)

遺跡は白鳥川右岸の低位の河岸段丘上に立地する。現在の県道はこの段丘崖を切るように、川に沿って走っている。付近はこの段丘平坦部を利用して宅地化が進んでいる。

今回の調査は、この県道の改良工事に伴い、埋蔵文化財の保護との調整を図るために実施したものである。調査は5月に一度実施したが、家屋等の移転が未了であったため、8月に再調査を行っている。5月の調査では事業予定地内で埋蔵文化財は確認されていなかったが、8月調査では、縄文後期前葉の土器片等が出土した。

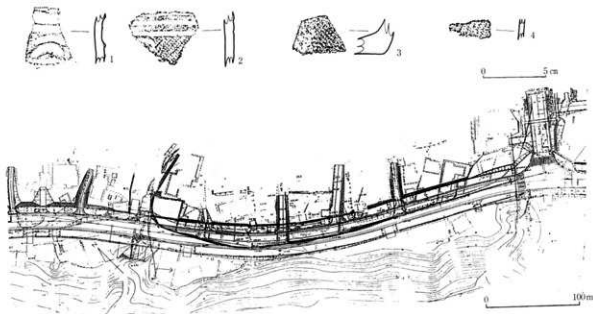
基本層序は以下のとおり。Ⅰ層：表土(盛土整地層)15~40cm、Ⅱ層：黒褐色土層(遺物包含層、この上面で確認できる遺構がある、部分的に削平)0~20cm、Ⅲ層：中せり浮石層(縄文後期の遺構確認面)20cm、4層：黒褐色土層(さらに下位に黄褐色土が所在)。

T1では、移転した家屋の基礎が深く入り込み、一部Ⅲ層まで遺構が攪乱を受けている。Ⅲ層の上面では縄文後期の土器片が数片出土し、小土坑状の遺構が確認されている。また、Ⅱ層上面で確認される遺構は、縄文時代よりはるかに新しいものと考えられる。全般に黒色土が削平されている。

T2では、盛土層が200cm以上認められる。その下位に旧地形が残されていると予想されるが、試掘トレンチ箇所では黒色土の遺存が良くなく、多少削平を受けているものと考えられる。遺物の分布状況から、T1西側には遺跡範囲が広がっていると考えられる。(平成11年度本発掘調査予定)



第79図 矢神遺跡の位置



第80図 二戸市川又遺跡調査区位置図、出土遺物

23 地方特定道路整備事業二戸安代線関連調査

川袋遺跡 (J E18-1026)

所在地：二戸市福田地区

事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成10年2月3日～4日(2日間)

遺跡は、安比川右岸の低地に位置する。遺跡の対岸は広く沖積地が広がっているが、右岸はこの付近では狭い平地のみ形成する。

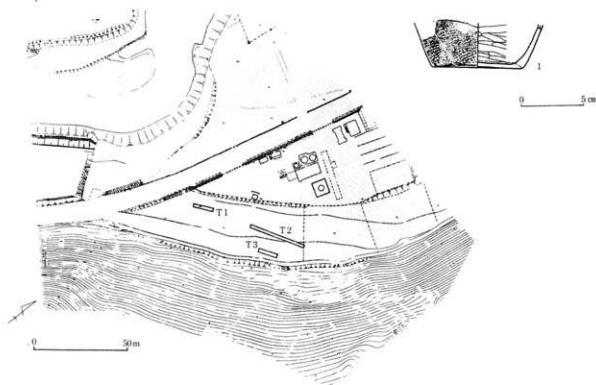
事業予定地に平行する形で、T1～3を設定した。当初この平坦部が沖積段丘状の地形として理解していたが、T3～1と川に近づくにつれて黒色土が厚く堆積していることが判明し、扇状地形と解釈するにいたった。

T1及びT2では、ややグライ化し湧水も認められる黒色土中に、灰白色火山灰(十和田a)がレンズ状に20～30cm堆積する。この堆積土のさらに下位は再び黒色土となり、一部で火山灰がブロック状に落ち込む箇所が確認され、その部分より栗罎式の土篩器坏が出土した。また、T3は黒色土の堆積がほとんど認められず、浅いところで地山が検出され、丘陵裾が緩やかに傾斜する状況が観察された。表土中より、弥生期初頭の鉢(1)が出土した。

以上の結果、本調査を必要とする埋蔵文化財であることを確認した。当初平成11年度本調査の実施の方向で事業者と調整を進めたが、事業の性格を考慮して本年度本調査を実施した。



第81図 川袋遺跡の位置



第82図 二戸市川袋遺跡調査区位置図、出土遺物

24 主要地方道二戸安代線緊急整備事業関連調査

沖野 I 遺跡 (J E 18-1320)

所在地：二戸市似鳥字沖野地内

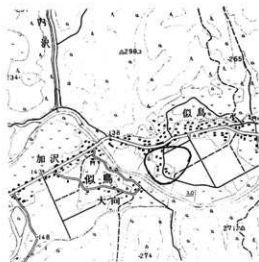
事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成10年3月11日～3月12日(2日間)

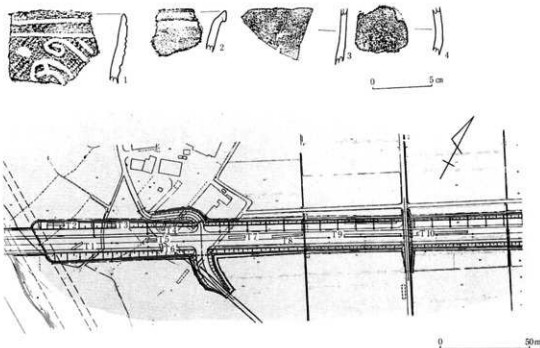
遺跡は安比川左岸の舌状に張り出した低位の河岸段丘上に位置している。付近は主要な河川である安比川が蛇行を繰り返すことから、同様の地形が数箇所認められる。一方で、丘陵が直近に迫っていることから、丘陵斜面にも縄文時代の遺跡などが形成されている場合も多い。広く平坦地を形成している場合でも、丘陵上部から複数の小河川が流入している場合が多く、それらが埋没していることが確認できる。そのため、良好な段丘地形と見られる場合でも、後背湿地状の低地を形成する場合も多い。

今回の調査は安比川に接する部分で、周辺は畑地もしくは宅地、さらに東側は水田が広がっている。調査を実施する段階で一部工事が進行しており、今回の事業範囲の中では遺跡の中心と考えられる箇所は、角レキにより工事用車両の進入路が造成されていた。そのため、その進入路両脇にわずかに残された畑地について調査したところ(T2)、黒色土中で縄文時代後期の土器片が出土し、また、地山の遺存状況も良好であったことから、付近に遺構の存在が予想された。また、T9では土師器片がまともに出土していることから、平安時代の遺構の所在が予想された。

以上より、全体的に遺跡の遺存が不明確な部分はあるものの、縄文時代及び平安時代の集落が付近に広がっているものと判断されたことから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで事業者との調整を図った。(平成11年度本発掘調査予定)



第83図 沖野 I 遺跡の位置



第84図 二戸市沖野 I 遺跡調査区位置図、出土遺物

25 都市計画事業上野地区関連調査

上野B 遺跡 (J F 20-0074)

所在地；二戸郡一戸町字上野～砂森地内

事業者；岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日；平成10年10月5日～7日（3日間）

遺跡は馬淵川によって形成された河岸段丘上に立地している。付近は縄文時代を中心とする遺跡が数多く分布し、また、古代の集落跡や中世城館も所在する。これらの一部は一戸バイパスの建設工事に伴って記録保存されている。

今回の調査は道路建設工事に伴い、埋蔵文化財の保護との調整が必要となったものである。事業予定地の隣接地を個人住宅建設に伴って町教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代及び古代の遺跡が確認されている。基本層序は以下のとおり。Ⅰ層：表土（耕作土）20cm、Ⅱ層：黒褐色土層（遺物包含層）0～10cm、Ⅲ層：黄褐色土層（地山、南部浮石混じり）。

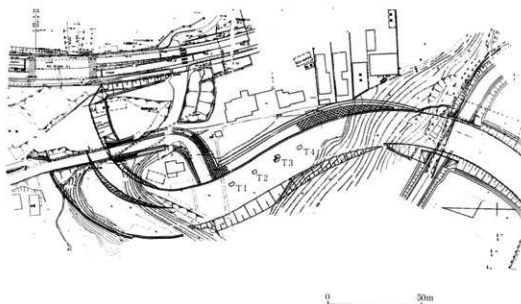
試掘トレンチは4箇所設定した。機械の進入路が確保できなかったため、手掘りによる表土除去及び遺構検出を実施した。その結果、T3Ⅲ層直上で灰白色火山灰の混じる黒色土層が検出されたことから、奈良時代もしくは平安時代の堅穴住居跡が所在することが確実となった。また、平坦部の北側及び南側に、堀もしくは曲輪状の作り出しが認められることから、明瞭ではないが中世城館として利用された可能性がある。

以上の結果、事業予定地内には複数の時代にわたる遺構の所在が予想されることから、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を実施する方向で調整を進めた。

(平成11年度本発掘調査実施予定)



第85図 上野B遺跡の位置



第86図 一戸町上野B遺跡調査区位置図

26 新幹線関連道路整備事業宮沢工区関連調査

宮沢 遺跡 (J F 03-2267)

所在地：九戸郡軽米町宮沢地内

事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成10年6月10日

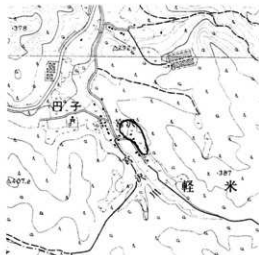
遺跡は宮沢川左岸の段丘状の緩傾斜地に立地する。事業予定地内の畑地では相当量の土器片の散布が確認できる。

今回の試掘調査では、道路予定地に沿って7箇所のトレンチを設定し、内容の確認を行った。基本層序は以下のとおり。Ⅰ層；表土（耕作土）10～20cm、Ⅱ層；黒褐色土（一部灰白色火山灰層を含む、遺物包含層もしくは遺構埋土）10～60cm、Ⅲ層；黄褐色砂質土層（中せり火山灰層）、Ⅳ層；黄褐色土層（地山）。

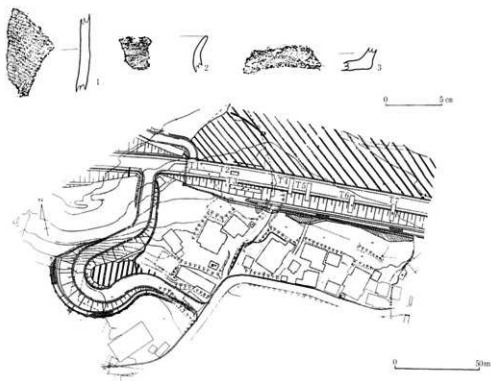
遺跡東側では耕地造成のためⅢ層の上面で明瞭な耕作痕が認められ、とくに北側の山寄りでは大きく削平を受けているようである。T5、6で複数の土坑が検出されたが、残存状況はよくない。南側ほど土層の保存状況が良好である。遺物は全体的に縄文土器（晩期末）、剥片石器、土師器が認められる。土師器はT4付近に集中しており、堅穴住居等の遺構が予想される。

西側ではT1で4基の土坑が確認されたが、埋土の状況から複数の時期のものであると考えられる。T2では小規模であるが焼土遺構が検出され、付近では炭化材層も確認された。

以上より、とくに山際付近では遺構等削平が進んでいるものの、谷側では良好な遺存状況が予想されることから、記録保存のための発掘調査を実施することとした。（平成11年度本発掘調査予定）



第87図 宮沢遺跡の位置



第88図 軽米町宮沢遺跡調査区位置図、出土遺物

27 一般県道八戸大野線県単舗装道新設事業関連調査

大道口 遺跡 (I F 65-2166)

所在地：九戸郡軽米町上館43地内

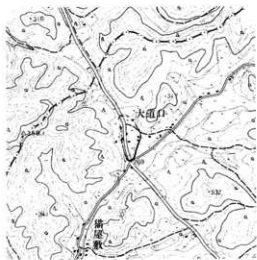
事業者：岩手県二戸地方振興局土木部

調査期日：平成10年10月5日～6日(2日間)

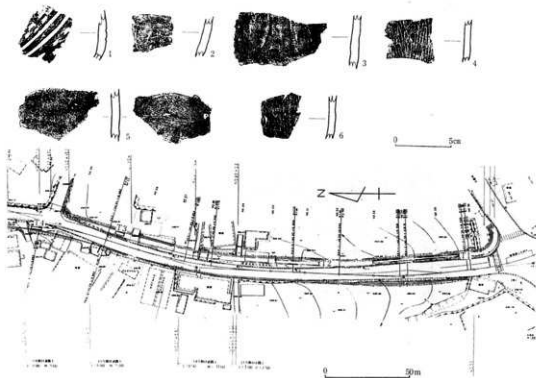
遺跡は八戸丘陵南部の小規模な盆地状の沢地地形に面した南向き緩斜面に立地する。遺跡付近は、主に畑地となっているが、西側部分では山林のまま残されている。

事業予定地南側よりT1～4を設定した。基本層序は次のとおり。Ⅰ層：表土(耕作土)20cm、Ⅱ層：黒褐色土層(遺物包含層、部分的に攪乱を受けていて、そこでは中せり浮石または南部浮石を含む)30cm、Ⅲ層：黄褐色土層(漸移層、南部浮石を含む)10cm、Ⅳ層：地山(南部浮石層)。

T1の南側交差点付近では、斜面がやや急になることから黒褐色土が流出し、表土下まもなく地山である南部浮石層が確認される。その北側のやや平坦な部分では、北側に向かうにつれて黒褐色土層が厚くなるが、中せり浮石層についてはⅡ層中にわずかに混在するのみで、明瞭な層形成は観察できなかった。繊維を含む縄文土器片は、Ⅲ層直上から出土することが多い。また、Ⅱ層上部で一部に灰白色火山灰が観察され、その付近で土師器が出土していることから、古代の竪穴住居が存在するものと推測された。このほか、縄文時代早期の土器片も認められる。T2では遺物・遺構とも観察されていないが、遺跡としては連続すると考えられる。T3～4では、盛土層が厚く、遺跡の広がりも及ばないものと判断した。南側ほど残存状況が良好ではあるが、全体に機械耕作による溝状の攪乱が認められる。(平成11年度以降本発掘調査予定)



第89図 大道口遺跡の位置



第90図 軽米町大道口遺跡調査区位置図、出土遺物

28 水沢畜産保健衛生所建設関連調査

東館Ⅱ 遺跡 (NE16-0315)

所在地：水沢市佐倉河字東館Ⅱ地内

事業者：岩手県農政課畜産課

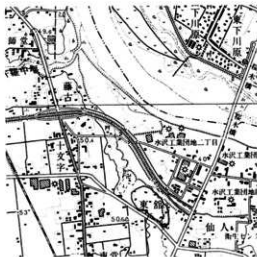
調査期日：平成10年8月6・7日、9月16日(3日間)

遺跡は水沢段丘東端部に位置する。沖積低地との比高は10m前後である。今回の調査地の北側約200m付近に、水沢バイパス建設工事に伴って記録保存のための発掘調査が実施された、中世城館白井坂遺跡が所在する。

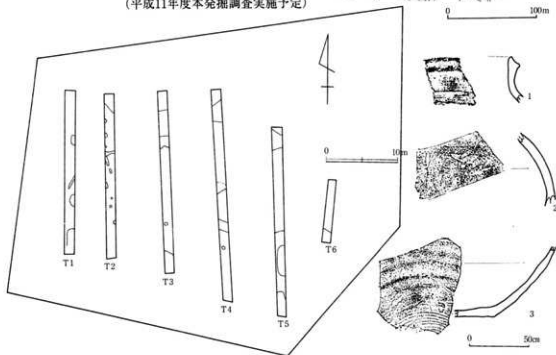
今回の調査は畜産保健衛生所建設工事に伴うもので、事業予定地のうち、農作物等に影響のない範囲の約1800㎡を対象に、遺構等の有無及び密度・残存状況の把握を目的として実施した。基本層序は、Ⅰ層：盛土40cm、Ⅱ層：旧耕作土20cm、Ⅲ層：黒褐色土(遺物包含層)10cm、4層：黄褐色土(地山)。

事業予定地西側より順に、T1～6を設定した。その結果、大部分の地点で本来の遺構検出面が削平され、竪穴住居跡等(平安時代)の遺構の残存が良くない状況が確認された。旧地形の改変は南西側にかけて著しく、地山の傾斜も北側に向かって認められている。遺構密度は東側に密で、遺物も同様の出土状態を示している。

(平成11年度本発掘調査実施予定)



第91図 東館Ⅱ遺跡の位置



第92図 水沢市東館Ⅱ遺跡調査区位置図、出土遺物

29 県営は場整備事業南日詰地区関連調査

下川原Ⅰ遺跡 (L E 77-2159)

下川原Ⅱ遺跡 (L E 77-2198)

所在地：紫波郡紫波町南日詰下川原地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成10年11月16・17日、12月7～9日

(5日間)

下川原Ⅰ遺跡は大きく蛇行する北上川に囲まれた場所に位置しており、遺跡の南側を流れ、西から北上川に合流する滝名川の東岸の自然堤防上に立地している。

今回の試掘調査では、は場整備予定地内に64ヶ所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認している。その結果、遺跡ほぼ全体にわたって平安時代をとす

る遺構・遺物が確認されている。おおまかには、遺跡の中央から南にかけて遺構がまとまる傾向がある。検出面の高さは場所によって異なるが、耕作土の直下で検出されていることが多い。

下川原Ⅱ遺跡は下川原Ⅰ遺跡から南に連続した自然堤防上にあり、一連の遺跡といつてよい。調査では58ヶ所の試掘トレンチを設定している。その結果、遺跡の北側を中心として平安時代の遺構・遺物が確認されている。本遺跡は以前河川改修関連で滝名川よりの場所で河川改修を原因とする発掘調査が行われており、



第93図 下川原Ⅰ、Ⅱ遺跡の位置



第94図 紫波町下川原Ⅰ遺跡調査区位置図



第95図 紫波町下川原Ⅱ遺跡調査区位置図、下川原Ⅰ遺跡出土遺物

平安時代の竪穴住居、縄文時代の陥し穴状遺構等が検出されている。今回の調査でも前回の調査から延びる竪穴住居跡が検出されている。北側を除く部分からは遺構・遺物はほとんど検出されず、遺構の主体部分は滝名川よりの部分だったと考えられる。

下川原Ⅰ・Ⅱは工法変更により遺構等が保存される予定。

30 広域農道整備事業盛岡西部地区関連調査

宇登遺跡 (KE78-2157)

所在地：岩手郡玉山村大字川又字宇登地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

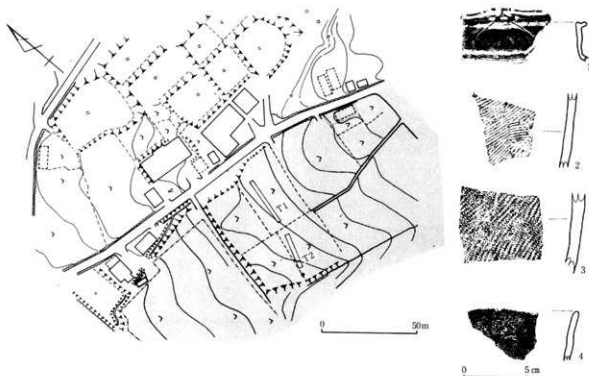
調査期日：平成10年10月5日(1日間)

遺跡は盛岡市の北隣、玉山村南西部にあり、南北両側を丘陵に挟まれた西に開く平たんに立地している。標高は330m前後である。今回の試掘調査では道路予定地の畑に2ヶ所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況の確認を行っている。

その結果、南側のトレンチ(T1)で縄文時代の陥し穴状遺構が検出されている。北側のトレンチからも縄文時代晩期の土器が出土した。道路を挟んださらに南側も道路予定地になっているが、今回の調査時には民家と水田になっており、調査できなかった。しかし、縄文晩期の土器などの遺物は地表面にかなり多く散布しており、この民家周辺にも遺構や遺物がある可能性が非常に高い。むしろ北側より密度が高いと思われる。(平成11年度本調査予定)



第96図 宇登遺跡の位置



第97図 玉山村宇登遺跡調査区位置図、出土遺物

31 一般農道整備事業江刈中部地区関連調査

品井沢 遺跡 (KF03-0363)

所在地：岩手郡葛巻町江刈第1地割地内

事業者：岩手県盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

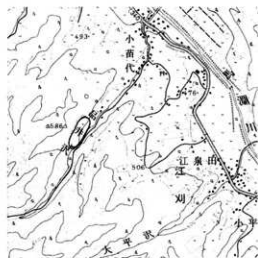
調査期日：平成10年7月23日

遺跡は馬淵川支流の品井沢左岸、南向きの緩斜面に立地する。現況は主に畑地・草地であり、それらのための造成によって地形の改変も進んでいる。

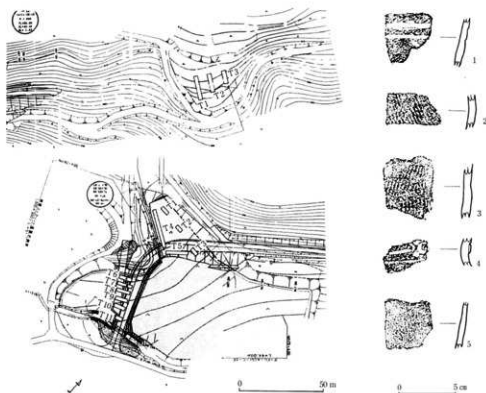
T6～11付近は遺物の包含が多数認められた。表土が薄いため、いずれのトレンチも畑耕作の痕跡が認められた。そのため、多少の攪乱を受けていることが予想された。T6では土器片・炭化材を含む60×80cmの土坑1基と、焼土ブロックを含む径150cmほどの土坑状の遺構が検出された。検出レベルは表土下25cmほどで、地山の礫まじりの褐色土層に暗褐色の埋土が認められた。T7でも土器片を含む焼土が検出されている。検出レベルはT6とほぼ同様。出土遺物から、縄文時代後期前葉から中葉と考えられる。

T1～5付近は造成層の下から沢地形が確認され、一部グライ化した土層が認められた。旧来は湿地であったものと考えられる。表土では遺物が認められたが、遺構等は認められず、造成・耕作等により移動したのと思われる。北側の尾根状の張り出し部分では、遺構・遺物とも認められなかった。

以上の結果、埋蔵文化財が保存されていたT6～11の範囲について、現状での保存が困難と判断されたため、記録保存のための発掘調査を実施することとした。(平成11年度本発掘調査予定)



第98図 品井沢遺跡の位置



第99図 葛巻町品井沢遺跡調査区位置図、出土遺物

32 担い手育成基盤整備事業八重畑地区関連調査

稲荷遺跡 (ME07-2078)

新田遺跡 (ME07-2121)

下館Ⅱ遺跡 (ME07-1014)

所在地：稗貫郡石鳥谷町八重畑地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成10年11月4日～5日（2日間）

担い手育成基盤整備事業八重畑地区は石鳥谷町を南北に流れる北上川の東岸にあり、自然堤防や段丘上に遺跡が分布している。

その中の稲荷遺跡は、北上川によって形成された沖積地の中の微高地上に立地し、東・南端は河川による開析で段丘崖を形成する。今回の調査では事業予定地内に7箇所の試掘トレンチを設定している。T1～3では地山まで耕作が及んでおり、地表面に遺物は散見されるものの、遺構を確認することはできなかった。T5は畑で土層の保存状況が良好である。ここからは平安時代の堅穴住居跡が1棟検出された。焼土を伴い付近には土師器が出土している。この焼土がカマドになる可能性がある。T6でも土師器を伴う焼土遺構と60×80cm程の小判型の土坑が検出されている。土師器を伴う焼土遺構は堅穴住居跡の一部だったと思われる。

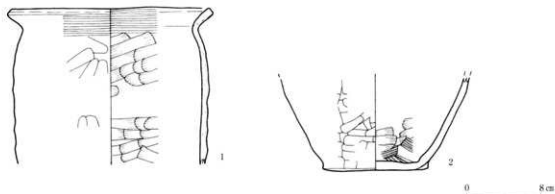
新田遺跡は稲荷遺跡の北側にあり、同じく北上川左岸に広がる沖積地内の微高地上に立地している。今回の試掘調査では2本の試掘トレンチを設定している。耕作土の下は盛土で更にその下層は本来低湿地だった様相を呈している。トレンチ内においては埋蔵文化財は確認されていないが、土塁状の高まりが西側で認められるため、再度確認を必要とする。

下館Ⅱ遺跡は稗貫川南岸の河岸段丘上に立地する。事業予定地内に試掘トレンチを設定している。T1では幅60cm程の溝跡が検出されたが、現在の水田を造成する直前に使用されていたものと考えられる。地表面における遺物の散布も今回の調査範囲外では多く認められるが、範囲内では散布は認められなかった。

以上、八重畑地区では埋蔵文化財が確認された範囲は盛土等の工法変更によって遺跡が保存される。



第100図 ほ場整備八重畑地区遺跡の位置



第101図 石鳥谷町稲荷遺跡出土遺物



第102図 ほ場整備事業石鳥谷町八重畑地区遺跡分布図



第103図 ほ場整備事業（八重畑地区）関連遺跡調査区位置図

33 は場整備事業二子地区関連調査

中居俵Ⅱ 遺跡 (ME56-2249) ほか

所在地：北上市二子町地内

事業者：岩手県北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日：平成10年10月26日～12月4日（5日間）

担い手育成基盤整備事業二子地区の実施計画に伴い、平成9年度に事業対象地域内について埋蔵文化財の所在等に係る詳細分布調査を実施したところ、25箇所に及ぶ埋蔵文化財包蔵地が確認された。そのうち、従来周知されていた遺跡は8箇所、残り17箇所はすべてこの調査以後に周知できたものである。この調査の成果は以下のとおりである。

これらの遺跡のうち、平成10年度～11年度にかけては場整備工事が行われる予定の範囲について、埋蔵文化財の包蔵状況を確認するため、試掘調査を実施した。調査を実施したのは、ME56-2249、中居俵遺跡、蟹沢遺跡である。このほか、千刈遺跡等についても調査を実施しているが、それらの遺跡の調査結果については平成11年度の報告書に掲載する予定である。



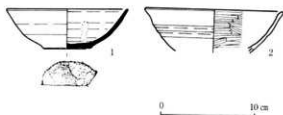
第104図 中居俵Ⅱ遺跡の位置



第105図 北上市中居俵Ⅱ遺跡調査区



第106図 ほ場整備事業北上市二子地区遺跡分布図



第107図 北上市中居俵Ⅱ遺跡出土遺物

中居俵Ⅱ遺跡は、北上川右岸の自然堤防上に位置している。試掘トレンチは、事業対象範囲に59箇所設置した。基本層序は次のとおり。Ⅰ層；表土（耕作土）20cm、Ⅱ層；暗褐色土層（旧ほ場整備における整地層）0～30cm、Ⅲ層；暗褐色～黄褐色土層（遺構確認面）。

その結果、ほとんどのトレンチで埋蔵文化財が確認されている。この遺跡内では過去に一度以上のほ場整備が行われているが、旧地形の高低差がほとんどなかったため、埋蔵文化財は良好に保存されている。調査区西側では一部トレンチで縄文土器も確認されている。古代の遺構は、一部でⅢ層黄褐色の地山面で確認されるが、大部分は暗褐色を呈していて、遺構の確認が困難である。T51、52、58、59は遺跡の南端に近く、T54、55、56の低い水田では、埋蔵文化財は確認されていない。T13～16は、遺跡の主体部とは沢を挟んでいて遺物の散布密度も低いが、縄文土器・土師器等が出土し、遺構状の落ち込みも確認されている。T33付近及びそれと平行している集落道に沿って、排水溝が埋設される予定であることから、この範囲については竪穴住居跡も確認されていたため、排水溝の設計を変更し、埋蔵文化財の保護を図った。

ただし、西側T15～20付近では、貯水槽建設が予定されていることなど、埋蔵文化財の現状保存が困難である考えられたため、記録保存のための発掘調査を実施することとした。（平成11年度本発掘調査予定）

中居俵遺跡は、北上川右岸の沖積地内の微高地に立地する。昭和8（1933）年のほ場整備で高位部分は削平を受けていることが判明し、周辺部分ほど自然堆積層の保存は良好であった。複数のトレンチより縄文土器、石器を伴う土坑等、縄文時代の遺構が検出されていて、そのほか、平安時代の掘立柱建物跡を構成する柱穴状遺構や、溝跡が確認された。この範囲については、水田面の仕上がり設計等を変更することで埋蔵文化財の保護が可能となると判断されたため、事業者と現状保存について協議した。

蟹沢遺跡は二子地区の沖積地の南端で、段丘の上部と沖積地内の微高地に立地する。地形の改変が著しいと予想された箇所、トレンチについても4箇所設定したのみであった。その結果、一部に規模の大きい盛土が認められるなど地形改変が明らかで、また、遺物等も確認されなかった。

（一部について平成11年度本発掘調査予定）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME56-0349	上川端	平安	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町上川端	
2	ME56-0346		古代	土師器	散布地	北上市二子町上川端	新規
3	ME56-0259		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町鳥喰	新規
4	ME56-0254		古代	土師器	散布地	北上市二子町鳥喰	新規
5	ME56-0251		縄文・古代	石器・土師器・須恵器	散布地	北上市二子町塚向端	新規
6	ME56-1101		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町鳥喰	新規
7	ME56-0189		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町塚向	新規
8	ME56-0195		縄文	縄文土器	散布地	北上市二子町字南田	新規
9	ME56-1142		古代	土師器	散布地	北上市二子町字明神	新規
10	ME56-1263		古代	土師器	散布地	北上市二子町字中島	新規
11	ME56-1138		古代	土師器	散布地	北上市二子町	新規
12	ME56-1155		古代	須恵器	散布地	北上市二子町字高屋	新規
13	ME56-1161	二子一里塚	近世		一里塚	北上市二子町字高屋	
14	ME56-1280		縄文	フレイク	散布地	北上市二子町字野田	新規
15	ME56-1189		古代	須恵器	散布地	北上市二子町字野田	新規
16	ME56-1385	中村	縄文・古代	縄文土器・土師器・須恵器	集落跡	北上市二子町字中村	
17	ME56-1329	引尻	平安	土師器・須恵器	集落跡	北上市二子町字下川端	
18	ME56-1340		古代	土師器	散布地	北上市二子町字野田	新規
19	ME56-1289		古代	土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字岡島	新規
20	ME56-2343	千刈	縄文・弥生・平安	縄文土器・フレイク	集落跡	北上市二子町字千刈	
21	ME56-2249	中居儀Ⅱ	古代	土師器	散布地	北上市二子町字野田	新規
22	ME56-2267		縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	北上市二子町字山岸	新規
23	ME56-2213	野田Ⅰ	縄文・弥生・古代	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	散布地	北上市二子町字野田	
24	ME56-2254	中居儀	古代	土師器	散布地	北上市二子町字野田	
25	ME66-0204	蟹沢			散布地	北上市二子町	

34 広域農道整備事業衣川地区関連調査

治助屋敷 遺跡 (NE54-0241)

所在地：胆沢郡衣川村窪田地区

事業者：岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成10年5月19日、8月6日・7日(3日間)

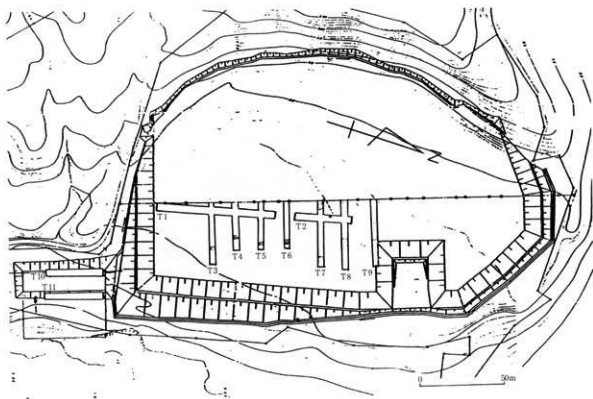
遺跡は南股川右岸の丘陵裾緩斜面に立地する。遺跡付近は主として左岸側に段丘形成が顕著である。遺跡の現況は草地で、雑木林を開削して造成している。今回の調査は農道建設工事に伴うもので、本工事に付帯する工事箇所を含んでいる。

旧地形が南北方向に傾斜していたと考えられるため、中央部より以北の盛土整地されている部分にトレンチを設定した。その結果、東西方向に2条の比較的幅広の沢地形と1条以上の小規模な沢跡が確認されている。その一部から砥石が出土し、付近では掘立柱建物跡を構成する柱穴跡が確認された。遺構・遺物の年代は不確定であるが、遺構埋土の状況及び聞き取り調査などから近世末期と考えられる。また、表土中から縄文土器片がごく少量出土しているが、遺構に伴うものではなく、原位置をとどめていないものと判断した。

以上の結果、この調査をもって、遺跡についての記録保存は終了した。



第108図 治助屋敷遺跡の位置



第109図 衣川村治助屋敷遺跡調査区位置図

35 担い手育成基盤整備事業姉妹体地区関連調査

下植田遺跡 (NE37-1036)

本宿迎畑遺跡 (NE37-1198)

漆林Ⅱ遺跡 (NE37-1182)

所在地：水沢市姉妹体内

事業者：水沢農村整備事務所

調査期日：(下植田、漆林Ⅱ) 平成10年11月9～11日

平成10年11月25・26日、(5日間)

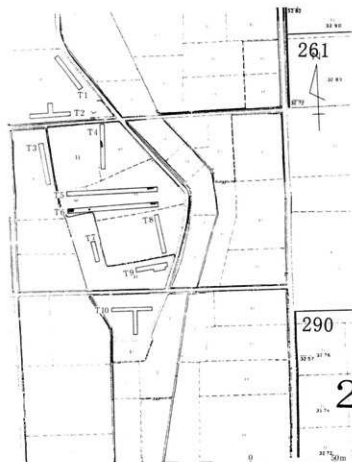
(本宿迎畑) 平成11年3月8・9日 (2日間)

下植田遺跡は北上川西岸の段丘上にあり、東側に広がる沖積地に向かって突き出すようになっている。調査では10ヶ所のトレンチを設定して埋蔵文化財についての状況を確認している。その結果、中央部を中心に古代の竪穴住居跡4棟などが確認された。T1、2、3、7、10のトレンチのある現況の水田区画では埋蔵文化財は確認されなかった。南北、両端を除き遺構・遺物が分布している。

(平成11年度本調査予定)



第110図 ほ場整備姉妹体地区の遺跡の位置



第111図 水沢市下植田遺跡調査区位置図



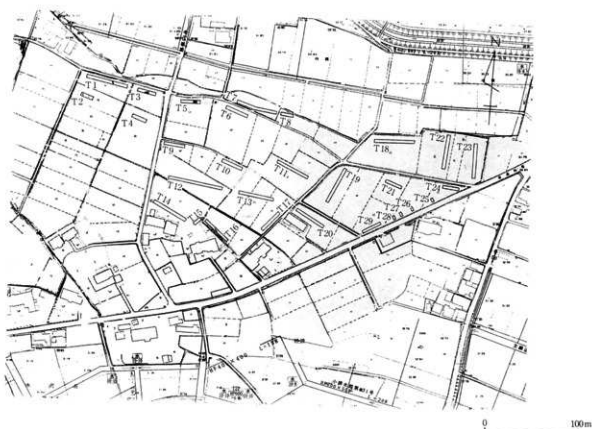
第112図 ほ場整備事業（水沢市姉体地区）関連遺跡分布図

本宿迎畑遺跡は北上川西岸に広がる沖積地中の微高地上に立地している。下植田遺跡の南約500mの位置にあり、遺跡の標高は32~33m程度である。今回の試掘調査では事業予定地内に任意に30箇所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認している。

その結果、民家や畑などわずかに周囲より高くなっている部分から平安時代などの竪穴住居跡等が検出された。北西側のT3、5で平安時代と考えられる竪穴住居跡が検出されている。この付近は北側を東西に流れる小さな川によって形成された段丘の縁にあたる。周辺にはさらに同時期の遺構・遺物が存在するものと推定される。調査範囲の東側ではほとんど遺構・遺物とも確認されず遺跡の主体からは外れるものと考えられる。

また、遺構は確認できなかったが、T10で縄文土器（小片）もややまとまって出土している。検出面も現地表面から60cmと深く、今回の事業によって影響を受けることは無いと思われるが、この周辺に縄文時代の何らかの遺構が存在する可能性がある。縄文時代の遺構としては少し離れるがT16で陥し穴状遺構が検出されている。

本遺跡は、盛り土などの工法変更により遺構が保存される予定である。



第113図 水沢市本宿迎畑遺跡調査区位置図



第114図 水沢市漆林Ⅱ遺跡調査区位置図

漆林Ⅱ遺跡は上記2遺跡同様、北上川西岸の段丘上にあり、標高は33m前後である。本宿迎畑遺跡の西側に隣接して位置している。遺跡の西縁に段丘崖が認められる。周辺の遺跡とは地形で区分しているが、時期が重なっていると思われ、大きく見ると姉体地区で一まとまりの遺跡群としてとらえることができるかもしれない。

今回の試掘調査では事業予定地内に任意に31ヶ所の試掘トレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認している。

その結果、中央付近を除く東西両端部付近で平安時代の遺構・遺物が検出されている。T24、26、27、28、1で古代（平安時代）の竪穴住居跡が検出されている。検出される深さは現地表面から30～40cm前後になる。

中央部南よりの部分については、耕作土の直下がグライ化した青灰色の粘土層であり、もともと湿地だったものと思われる。遺構・遺物ともこの付近では確認されていない。

その他、遺構があった場合掘削により破壊を免れがたい水路部分では、全体にわたって掘削の対象になる範囲に関しては埋蔵文化財は確認されていない。

本遺跡は、工法の変更により遺構が保存される予定である。

36 担い手育成基盤整備事業原単位地区関連調査

東館Ⅱ遺跡 (NE08-1171)

所在地：江刺市田原字土公地内

事業者：若手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成10年11月26日

遺跡は伊手川が形成した沖積地内に位置し、小規模な盆地の中央部分にあたる。遺跡台帳上は中世の城館跡として登録されている。付近では、甲冑が出土したと伝えられている。この付近では、過去に河川改良工事が行われ、幾度か流路が変化しているものと考えられる。その過程で自然堤防が形成され、良好な遺跡立地地形を提供している。この付近のほか、下流域でも同様な自然堤防上に縄文時代を中心とする遺跡が形成され、その一部については記録保存を目的とした発掘調査が行われている(下醍醐Ⅱ遺跡)。

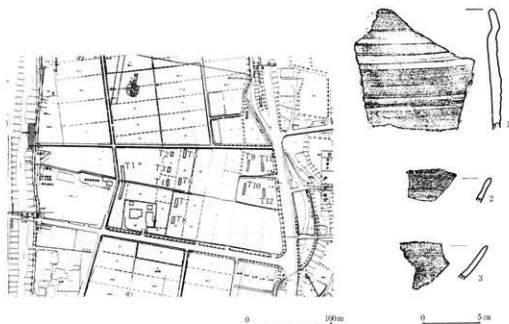
今回の試掘調査では、排水路予定部分を中心にトレンチを設定し、埋蔵文化財の遺存状況を確認した。基本層序は次のとおり。Ⅰ層；表土(耕作土)18cm、Ⅱ層；黒褐色土(上部で遺物包含、グライ化土壌)90cm以上。

調査の結果、T1のⅡ層で土師器を多量に包含する湿地性のグライ化した土壌が確認された。そのため、遺跡範囲が拡大する可能性が考えられたことから、東側に全部で13箇所のトレンチを設定して遺構・遺物の有無を確認したが、これらの範囲までは広がらないものと推定された。T1の黒褐色土中では遺構の存在は認めがたいことから、遺物包含層として考えられる。ただし、この包含層が単純な遺物捨て場のようなものか、または水成作用による遺物の流れ込みかについては判断できなかった。

遺物包含層の上面のレベルは最も高いところで49.38mで、このレベルの埋蔵文化財保護を前提とした排水路の設置は困難であると考えられたことから、排水路予定地内についてのみ記録保存のための発掘調査を実施することで事業者と調整を図った。(平成11年度以降本発掘調査予定)



第115図 東館Ⅱ遺跡の位置



第116図 江刺市東館Ⅱ遺跡調査区位置図、出土遺物

37 担い手育成基盤整備事業純沢上野地区関連調査

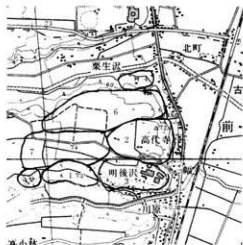
明後沢遺跡群 (NE36-2174、NE36-2175)

所在地: 胆沢郡前沢町明後沢、鳥子沢地内

事業者: 岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日: 平成10年12月14日～18日(5日間)

遺跡は、北上川中流域右岸、北側を松ノ木沢川、南側を明後沢川に開析された標高75m前後の東側に舌上に張り出した台地上に位置している。この台地上はほぼ全面に亘って埋蔵文化財が確認できることから、明後沢遺跡群と総称している。平成8年度に事業実施に先立って行った詳細分布調査によって、全体を下図のように区分して周知することとした。



第117図 明後沢遺跡群の位置

1. 明後沢遺跡; この遺跡は南側中央やや西よりに所在。一部範囲は過去に発掘調査(1次～6次)が行われている。古くから平安時代の瓦が出土する遺跡として知られ、この台地全体の解釈について、創建期胆沢城説、寺院説、瓦窯説が唱えられてきた。現在は針葉樹等による山林となっている。この遺跡範囲は、昭和39(1964)年に県の指定史跡となり、今日に及んでいる。昭和53(1978)年の調査では、指定地内北側で遺構に伴って軒丸瓦や軒平瓦が発掘されている。

2. 八郎館遺跡; この遺跡は、台地先端部東側に位置。現在は主として果樹園、畑地、水田、山林等として利用されている。堀状の遺構が地表面から観察される。ほかに、縄文土器・土師器の散布も認められる。

3. 宗角館遺跡; この遺跡は、台地南東端を中心に位置している。遺跡の中心と考えられる箇所には、現在工場が建てられている。その西側部分について、昭和52(1977)年に発掘調査が実施され、多数の柱穴跡が検出された。

4. 熊野遺跡; 台地北東端の斜面を中心に立地。上方に熊野神社が所在する。この付近で、昭和初期に瓦類が多量に出土したと伝えられている。

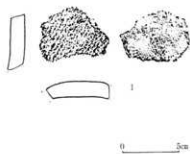
5. 鳥子沢遺跡; 明後沢遺跡と農免農道を挟んで反対側に位置している。付近は山林や農地となっていて、比較的地形変化が著しい。城館を構成する曲輪状の遺構も観察される。

6. 幅遺跡; 台地北側を広く周知した。東西に馬の背状の尾根を形成する。東側の一部を除き、ほとんどが水田となっている。東側は畑地もしくは山林となり、現在でもしばしば瓦片が採取できる。

7. 前堀遺跡; 明後沢遺跡と幅遺跡に挟まれて位置する。現在は、ほとんどが水田である。農免農道建設に先立ち発掘調査(6次)を行った結果、平安時代の堅穴住居跡が検出されている。

今回の調査は、この台地全体にほ場整備事業が計画されることから、埋蔵文化財の保護とほ場整備事業との調整を図るために実施したものである。過去に数回の調査が実施され、また、一部範囲についてはこの地方の古代史上きわめて重要な内容を有すると考えられるにもかかわらず、なお、遺跡の性格等不明な点が多いことから、事業予定地全体について詳細な内容確認調査が必要であると判断した。

平成10年度は、現在知られている中で最も重要と考えられる範



第118図 前沢町明後沢遺跡調査区位置図、出土遺物



第119図 前沢町明後沢遺跡調査区位置図

画である県指定地周辺を重点的に調査することとした。調査範囲の一部は、第3～5次調査と重複している。

それぞれのトレンチで検出された遺構の内容及びその標高等は以下のとおりである。特に、T5～T14では、幅1m深さ70cm前後の断面がややV字を呈する溝跡や、それより小規模な溝跡及び小柱穴類が複数検出されている。溝跡の一部は指定地内から延びるもので、それと同一の遺構を構成する。柱穴類は明確に建物跡を復元できるものに乏しいが、小規模ながらも掘方と柱痕跡部分が識別できるものである。

さらに東側のT15～40では、一部開田の際に削平された箇所を含みながらも、暗褐色土が良好に残存する部分では、平安時代の堅穴住居跡、礎土跡などが確認された。また、地山面では、縄文時代の溝状落とし穴も複数確認され、削平が及んだ部分でも遺構が確認できることが明らかとなった。なお、T17トレンチ表土中からは、平瓦片(1)が出土した。

今年度は、さらに北東側の幅遺跡にあたる部分について調査を予定している。また、ほ場整備事業は西側から年次的に進行してきているため、それと平行して試掘確認調査も継続していく。それらの詳細については平成11年度にあわせて報告する予定である。

38 広域農道整備事業胆沢南部地区関連調査

向 遺跡 (NE64-2121)

所在地：西磐井郡衣川村向地内

事業者：岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成10年3月24日

遺跡は南股川右岸丘陵北斜面の河岸段丘状の張り出しに位置している。この付近では南股川が深く谷を形成し、段丘地形の発達も著しいが、丘陵が川の直近に迫っている箇所では、その急峻な斜面に畑地等が形成されている場合がある。広域農道は、このような丘陵を縫うように計画されている。

今回の調査では、遺跡のほぼ中央付近を南北に道路工事が計画されていることから、その事業地に直行する形でT1～5を設定した。基本層序は次のとおり。I層：表土（耕作土、部分的に流出）0～20cm、II層：暗黄褐色土層（遺物包含層、明確でない場合が多い）、III層：黄褐色土層（地山）。

T1は遺物が主として散布している畑地よりかなり低い部分に設定して、遺跡の広がりを確認した。T2～5では水田造成が行われているため、遺跡としての遺存状態が必ずしも良好とはいえないものの、縄文時代晩期末の土器片が遺物包含層と考えられる土層中より出土し、また、III層上では複数の柱穴状の遺構も確認できた。

以上の結果、南側の高い旧水田及び畑地を中心に遺跡が形成されているものと判断されることから、その範囲について記録保存のための発掘調査を実施することとした。（平成11年度本発掘調査予定）



第120図 向遺跡の位置



第121図 衣川村向遺跡調査区位置図、出土遺物

39 担い手育成基盤整備事業一関第三地区関連調査

和田 遺跡 (NE87-0057)

堀切 遺跡 (NE87-0182)

所在地：一関市舞川和田地内

一関市舞川堀切地内

事業者：岩手県一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日：平成10年11月9日～11日（3日間）

和田遺跡は北上川左岸の河岸段丘上に立地する。この付近では北上川左岸側での段丘発達は弱く、近くまで丘陵斜面が迫っている。

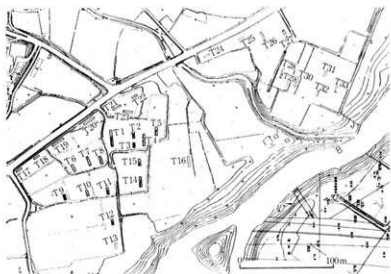
今回の調査はほ場整備が直接実施される水田面部分に加え、それに付随する一関遊水地事業関連の地内河川工事予定部分についてもあわせて実施している。基本層序は以下のとおり。I層：表土（耕作土）15～20cm、II層：暗黄灰色土層（旧水田整地層、盛土層）0～70cm、III層：暗褐色土層（遺物包含層）0～30cm、IV層：黒褐色土層（遺物包含層）0～40cm、V層：黄褐色土層（粘質、地山）。

調査の結果、田面工事が予定されている広い範囲で埋蔵文化財が確認されている。T1～5、11、14、15では、斜面の傾斜に沿って厚い遺物包含層が2枚確認され、土器等が多量に含まれている状態が観察された。これらの遺物包含層からは、おもに縄文時代晩期末葉～弥生期初頭の土器片及び石器が出土する。また、T4等一部のトレンチでは平安時代の遺物・遺構等も確認でき、古代においても広範囲に遺跡形成が行われているものと考えられた。現在の水田区画の範囲内で、旧地形のより高い部分は、黄褐色の地山が表土下で認められることもあり、遺跡の一部は削平により破壊されているものと考えられた。

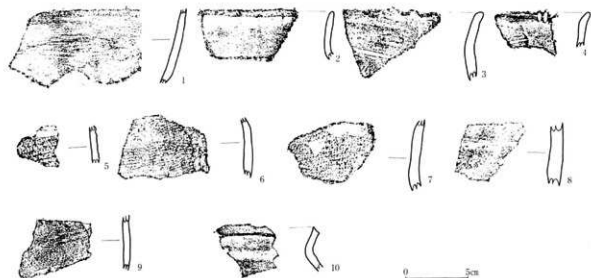
以上の結果、埋蔵文化財の保護については、水田面については基本的に盛土工法をとって、水路等については路線の変更や工法の変更により、埋蔵文化財に影響のない工事を実施することとする方向で事業者と協議を進めている。



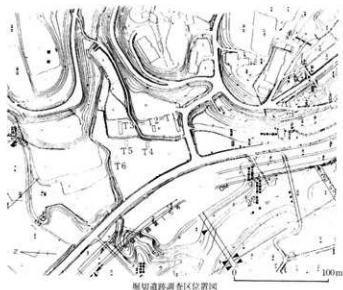
第122図 和田、堀切遺跡の位置



第123図 ほ場整備事業（一関第三地区）関連遺跡調査和田遺跡調査区位置図



和田遺跡出土遺物



堀切遺跡調査区位置図

第124図 ほ場整備事業（一関第3地区）関連遺跡調査区位置図、出土遺物

堀切遺跡は丘陵斜面の小規模な張り出し上に形成されている。基本層序は以下のとおり。I層：表土（水田耕作土）10cm、II層：明褐色土（盛土）20cm、III層：褐色土（炭化物混じり）10cm、IV層：灰褐色土（グライ化）5cm、V層：黒褐色土（斜面下方に向かい層厚を増す、土師器片を含む）。

埋蔵文化財はT1、2で確認されている。T1周辺に炭化物、焼土粒、土師器片を含む黒褐色土層が分布している。T2では、炭化物、焼土粒、土師器片を含む黒褐色土層の広がり、柱穴、埋土が黒色土の幅30cmほどの溝及びこの溝より新しい灰褐色土を埋土とする幅40cmほどの溝が確認されている。T3～6では、200cm程度まで掘下げて埋蔵文化財の有無を確認したが、砂礫層が堆積し、遺構遺物とも確認されなかった。

以上の結果、埋蔵文化財が確認された範囲についてその保護について事業者と協議を重ねたが、現状保存を図ることが困難であったため、記録保存のための調査を実施することとした。

（平成11年度本発掘調査予定）

40 中山間地域総合整備事業新渡戸地区関連調査

室石館遺跡 (NF50-2341) ほか

所在地：東磐井郡大東町猿沢新渡戸地区内

事業者：岩手県千厩地方振興局千厩農村整備事務所

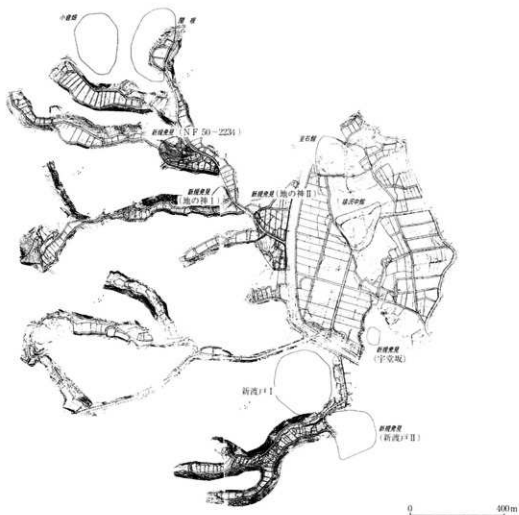
調査期日：平成11年1月11日～1月12日（2日間）

中山間地域総合整備事業新渡戸地区の実施計画に伴い、平成9年度には場整備等事業対象地域内について埋蔵文化財の所在等に係る詳細分布調査を実施したところ、10箇所以上に及ぶ埋蔵文化財包蔵地が確認された。そのうち、従来周知されていた遺跡は5箇所、残り5箇所はこの調査以後に周知できたものである。

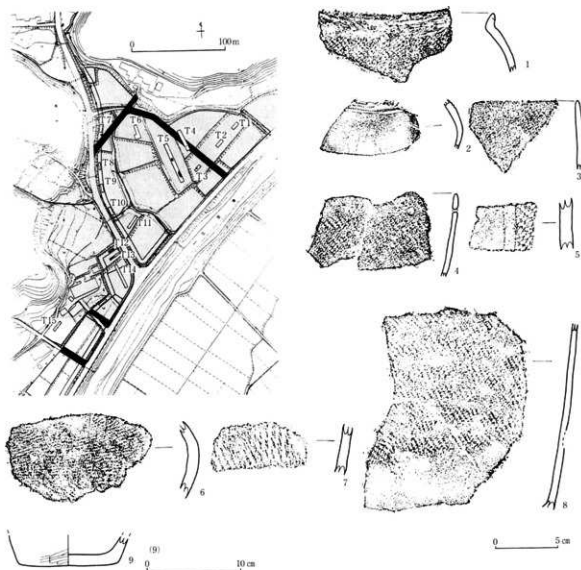
この調査の成果は以下のとおりである。



第125図 室石館遺跡の位置



第126図 ほ場整備事業新渡戸地区遺跡分布 (アミ部分10年度調査)



第127図 大東町地の神Ⅱ遺跡調査区位置図、出土遺物

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	N F 50-2341	室石館	中世	主郭・堀	城館跡	大東町猿沢字	
2	N F 50-2298	猿沢中館	中世		城館跡	大東町猿沢字志田山	
3	N F 50-0246	字堂坂		塚	堂跡?	大東町猿沢字関の上	新規
4	N F 60-0272	新渡Ⅱ	縄文	縄文土器・ブレイク	散布地	大東町猿沢字荒谷	新規
5	N F 60-0241	新渡Ⅰ	縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字荒谷	
6	N F 50-2285	地の神Ⅱ	縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字地ノ神	新規
7	N F 50-2254	地の神Ⅰ	縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字地ノ神	新規
8	N F 50-2234		縄文	縄文土器	散布地	大東町猿沢字地ノ神	新規
9	N F 50-1295	関根	縄文	縄文土器・石器	散布地	大東町猿沢字関根	
10	N F 50-1283	小倉畑	縄文	縄文土器・石器	散布地	大東町猿沢字関根	

詳細分布調査で確認された遺跡のうち、事業予定地内に所在し、試掘調査が行われた遺跡は間根遺跡、室石館、NF50-2234、地の神Ⅱ遺跡、新渡戸Ⅱ遺跡で他に、地の神Ⅰ遺跡は事業内容から慎重工事で対応している。

間根遺跡は事業内容が水路のみで、2箇所試掘トレンチを設定しているが、埋蔵文化財は確認されなかった。遺跡の主体は西側の高い部分と考えられる。

室石館は興田川左岸に張り出した丘陵上に立地しており、現況は水田、畑地、宅地などになっている。3箇所の試掘トレンチを設定しているが、以前に行われた水田の造成によって大きく削られており、遺構・遺物とも確認することはできなかった。少なくとも、事業予定地内に関しては壊滅状態にあると考えられる。

NF50-2234については、試掘調査を行っているが、埋蔵文化財は確認されていないため遺跡名はつけていない。北側の高い部分は事業地から外れており、調査していないが埋蔵文化財包蔵地として確定してよいかどうか、今後の検討が必要になる。

地の神Ⅱ遺跡は興田川右岸の小河川が形成した扇状地状の地形に立地する。扇状地開析が進んでおり、中央部が下刻されている。今回の試掘調査では、水路予定地および掘削が予想される部分を中心に試掘トレンチを設定している。基本土層は1層：耕作土、2層：黒褐色土、3層：黒褐色土（花崗岩風化礫含む）と成っている。

T15では図上には記していないが、焼土遺構が縄文土器を伴い検出された。住居跡の可能性がある。同じくT12でも第3層で縄文土器片が出土している。T14付近では遺構は確認されず、一段上のT12、13以上の面に遺構が存在すると考えられる。T7～11にかけては水田造成の痕跡が認められ、遺構・遺物とも確認されなかった。

沢の北岸ではT5で縄文時代の竪穴住居跡と考えられる遺構2ヶ所を検出した。沢の情報の西側のものは焼土を伴う。このトレンチの北西側は削平がなされており、埋蔵文化財は確認できなかった。T3でも縄文土器が確認されたがそれより高い部分のトレンチ（T4）では埋蔵文化財は確認されていない。

以上、地の神Ⅱ遺跡は沢の両側に延びる張り出し状の高位部分に立地していると考えられる。出土した遺物は縄文晩期のものである。

新渡戸Ⅱ遺跡は、興田川右岸に張り出した平坦な台地上に立地している。現況は畑地や水田、宅地などである。調査では2箇所試掘トレンチを設定しているが、遺構・遺物いずれも検出できなかった。

以上、新渡戸地区のほ場整備に関しては、工法変更により埋蔵文化財が保護される予定になっている。

41 ほ場整備事業奥玉地区関連調査

沖中 遺跡 (NF81-1251)

町下 遺跡 (NF81-1280)

所在地：東磐井郡千厩町奥玉区内

事業者：岩手県千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日：平成10年10月27日～29日、12月2日（4日間）

沖中・町下遺跡は千厩川の両岸に広く形成されている盆地地形に、舌状に張り出している丘陵尾根裾の斜面に位置している。調査地付近ではいずれも緩く傾斜していた旧地形が、開田によって一部平坦に造成されている。町道に沿って民家が建ち並び、それより低い側ではほ場整備が予定されている。南北の町道より西側は中世城館橋城跡で、主郭を中心とした一部は農村公園として整備されている。

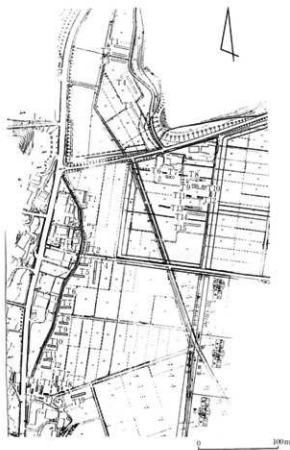
沖中遺跡の調査は、尾根先端の西側水田より順次実施した。その結果、町道北側の低地部分及び水田休耕中の畑地は、いずれも本来遺物を包含する層と考えられる砂質層の下位に、暗褐色の粘土質層が確認される。この層には中せり火山灰をブロック状に含んでいて、降下時に降沼地状を呈した時期のあることが推測される。T1では、表土直下に黒褐色の遺物包含層及び地山上で遺構状の落ち込みが確認されている。T2～7では黄褐色の固い地山が検出され、盛土層直下の部分で縄文時代中期及び中世の遺物が確認されたことから、遺構等も遺存していると推定される。

町下遺跡は、橋城跡の東側斜面に位置し、沖中遺跡西側にはほぼ隣接する。T2～8にかけては削平痕が確認され、整地層と第3層の褐色土層に明確な不連続層が認められる。遺物はT2～9の区間に集中し、縄文土器のほか、中世の青磁片(皿)が出土した。この区間は自然堆積土層が保存されており、とくにT16、17で良好である。また、T18～19では、柱穴状の遺構も確認されている。

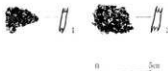
以上のように、いずれの遺跡でも埋蔵文化財が確認されたことから、その保護方法について事業者と協議した結果、埋蔵文化財が確認された標高を上回るレベルで慎重に工事を実施することとし、現状保存を行った。



第128図 沖中、町下遺跡の位置



第129図 千厩町町下遺跡、沖中遺跡調査区位置図、出土遺物



42 ほ場整備事業宮守川上流地区関連調査

大笹 遺跡 (MF41-0239)

所在地；上閉伊郡宮守村下宮守大笹地内

事業者；岩手県遠野方振興局遠野農村整備事務所

調査期日；平成10年10月23日

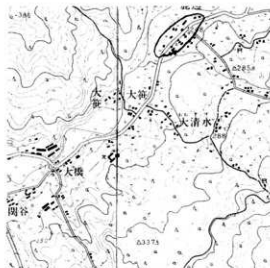
遺跡は宮守川左岸の河岸段丘状の張り出し部に位置している。遺跡周辺は宮守川の流域に沿って南北に細長く開田が進められているが、並行する村道から東側は傾斜が急になり、畑地や山林となっている。

今回の調査はほ場整備に伴うもので、水田面のほか河川改修と村道の改良が合わせて行われる予定となっている。

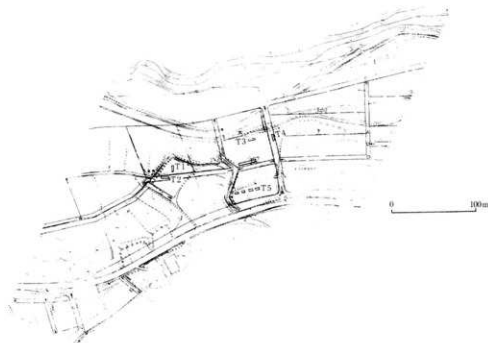
試掘調査は水田面のうち、切土工法により埋蔵文化財が掘削される可能性が高い部分を中心にトレンチを設定して実施した。基本層序は以下のとおり。Ⅰ層：表土（耕作土等）20cm 前後、Ⅱ層：盛土整地層（開田に伴う盛土層）0～60センチ、Ⅲ層：暗黄褐色土層（漸移層）10cm 前後、Ⅳ層：黄褐色土層（地山、部分的に角レキが混じる）。その結果、T1では盛土によって造成された現在の水田面の下で、縄文時代早期（貝殻文系）及び晩期末葉の土器片及び剥片類が出土した。T2でも円形の土坑状の落ち込みが検出されていて、埋蔵文化財が一部範囲で良好に保存されていることが確認された。

小規模な沢を挟んで設定したT3～5においては、開田の際に大幅に造成が行われ、旧地形はほとんど残されていなかった。これらのトレンチでは、遺物も出土していない。

以上の結果、埋蔵文化財が確認されたT1、2及びその周辺部の保護について事業者と協議したところ、水田面については埋蔵文化財に影響のない盛土工法とし、水路については設計変更することとした。



第130図 大笹遺跡の位置



第131図 ほ場整備事業（宮守村宮守川上流地区）関連遺跡調査区位置図、出土遺物

43 広域農道整備事業二戸地区関連調査

上台 遺跡 (I E 98-1332)

所在地：二戸市下斗米米田平

事業者：岩手県二戸地方振興局二戸農村整備事務所

調査期日：平成10年10月27日

遺跡は十文字川左岸の段丘状の狭い張り出しに位置する。遺跡付近は十文字川の両側にわずかに平坦地が広がるが、とくに南側では丘陵が直近に迫り、狭い谷地形を形成する。北側は緩斜面が畑地として利用されていて、良好な遺跡立地地形を示している。さらに高い部分はやや平坦になるが、開削が進んでいる箇所が多い。

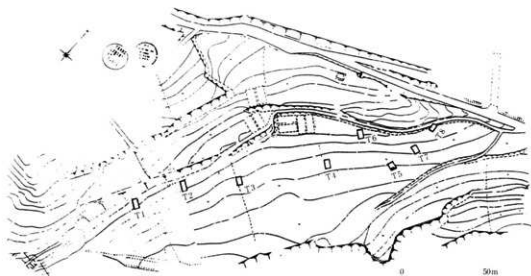
基本層序は次のとおり。Ⅰ層：表土（耕作土）20cm、Ⅱ層：黒褐色土（クロボク土、縄文土器・土師器などが含まれる）20cm、Ⅲ層：灰白色火山灰土（十和田a火山灰、遺構内への流れ込みか）5cm、Ⅳ層：黒褐色土（遺物を含む場合あり）30cm、Ⅴ層：黄褐色火山灰（中せり火山灰）20cm、Ⅵ層：黒褐色土（一部湧水あり、遺物は原則含まない）60cm、Ⅶ層：明黄褐色浮石層（南部浮石層）40cm

今回の調査は、道路事業予定部分に8箇所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。T1～6付近では、土器片が表面に多く散布しているほかⅡ層中よりも出土し、良好な保存状態が確認されている。この中で、T3では径190cmほどの土坑、T4では径30cmほどの円形の柱穴状遺構が検出された。いずれもⅤ層の火山灰層を掘り込んでおり、埋土はⅣ層と同質のものであることが観察された。T7～8付近は削平が進んでおり、遺物の散布も微量である。T7では柱穴状の土坑が検出されている。遺物の散布状況に比して、遺構の残存はよくないものと考えられる。

以上の結果、事業予定地内に遺構等埋蔵文化財が確認されていることから、記録保存を前提とした発掘調査を実施することで事業者と協議を進めた。（平成11年度本発掘調査予定）



第132図 上台遺跡の位置



第133図 二戸市上台遺跡調査区位置図

44 一般農道整備事業野尻地区関連調査

野尻Ⅱ遺跡 (J E 69-0302)

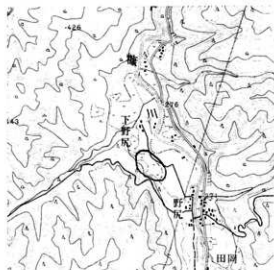
所在地：二戸郡一戸町平糠野尻地内

事業者：二戸地方振興局二戸農村整備事務所

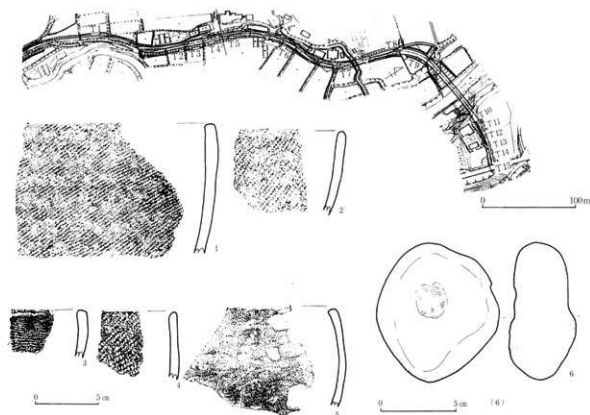
調査期日：平成10年11月25日 (1日間)

遺跡は平糠川の両岸に形成された小規模な河岸段丘上に立地している。今回の試掘調査ではこの平糠川の両岸に試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

右岸では、耕作土直下に山腹から供給されたと考えられる角礫がみられ、特に埋蔵文化財は確認することはできなかった。左岸には耕作土下に厚く黒色土が堆積している。この黒色土の中に中礫火山灰と思われる砂状の褐色土がみられる。遺物は耕作土直下の黒色土から縄文時代後期中葉から後半の土器片と礫石器が出土している。(平成11年度本調査予定)



第134図 野尻Ⅱ遺跡の位置



第135図 一戸町野尻遺跡調査区位置図、出土遺物

45 一戸町蚕業試験場跡地宅地化事業関連調査

上野H 遺跡 (J F20-0057)

所在地：二戸郡一戸町上野地内

事業者：岩手県住宅供給公社

調査期日：平成10年5月11日～12日 (2日間)

遺跡は馬淵川右岸の河岸段丘上に立地する。付近は段丘面が発達しそれぞれ平坦面を作り出しているほか、高位の段丘面はそのまま丘陵の裾とつながり、その斜面が畑地や宅地造成等によって、人工的に平坦部が見られる部分もある。

今回の調査は、県蚕業試験場跡地を宅地として再開発しようとするもので、試験場建物跡地はやや大規模に平坦に造成されていた。基本層序は以下のとおり。

I層：表土 (耕作土) 0～40cm、II層：黒褐色土層 (上面が古代の遺構確認面、下位に縄文時代の遺物包含) 0～50cm、III層：暗褐色土層 (中せり浮土層、黒色土の混入割合が多い)、IV層：黄褐色土層 (地山、下位は粘土質となる)。

T1～8を設定した箇所は、建物等が所在した場所で、II層がほとんど削平されている箇所と、それらが再堆積し厚く盛土されているところが明瞭に識別できる。部分的に壊滅に近い箇所もあると予想されるものの、全体としては古代の遺跡として残されていることが確認できた。

T9以下は比較的残存状態がよく、南北の道路に沿って傾斜する黒褐色土が厚く確認されたほか、焼土、縄文時代後期の土器片、土師器片、十和田a火山灰などが検出された。

以上の結果、事業予定地については別途本発掘調査が必要であると判断した。



第136図 上野H遺跡の位置

(平成11年度本発掘調査予定)



第137図 一戸町上野H遺跡調査区位置図、出土遺物

46 平成10年度試掘調査一覧

№	年月日	事業名	事業者	道路名	所在地
1	平成10年3月13日	低コスト化水田農業大区北地区整備事業	若手県農政部	谷地	矢野町
2	平成10年4月16～17日、11月16～18日	県営は場整備事業八百川東部地区	若手県農政部	後田Ⅱ	江刺市
3	平成10年4月20～21日	北上川上流改修事業川崎地区築堤工事	建設省	河崎の橋脚定地	川崎村
4	平成10年4月27～28日	県営一般農道整備事業	若手県農政部	新田Ⅰ	安代町
5	平成10年4月27～28日	県営一般農道整備事業	若手県農政部	新田Ⅱ	安代町
6	平成10年4月27～28日	県営一般農道整備事業	若手県農政部	赤木Ⅱ	安代町
7	平成10年5月7日	新交直ネットワーク事業	若手県土木部	中島	湯田町
8	平成10年5月7日	新交直ネットワーク事業	若手県土木部	清水ノ野	湯田町
9	平成10年5月7～8日	広域農道整備事業東磐井地区	若手県農政部	物見石Ⅰ	千歳町
10	平成10年5月7～8日	広域農道整備事業東磐井地区	若手県農政部	物見石Ⅱ	千歳町
11	平成10年5月8日	畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	若手県農政部	LE25-232Ⅰ	盛岡市
12	平成10年5月8日	畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	若手県農政部	本郷	盛岡市
13	平成10年5月8日	畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	若手県農政部	藤沢館	盛岡市
14	平成10年5月8日	田い手育成基盤整備事業奥玉地区	若手県農政部	二日市城	千歳町
15	平成10年5月11日	生活貯水池事業(遠野第二ダム)	若手県土木部	新里五器洗場	遠野市
16	平成10年5月11日	急傾斜地崩壊対策事業	若手県土木部	鎌倉城	遠野市
17	平成10年5月11日	竜巻防砂片石の沢砂防ダム・付替え工事	若手県土木部	片深	遠野市
18	平成10年5月11～12日	一戸町農業試験場跡地地区宅地造成工事	若手県農協公社	一戸町	一戸町
19	平成10年5月11～13日	中山間地域総合整備事業	若手県農政部	内沢Ⅰ	沢内村
20	平成10年5月12～13日	八戸自動車道軽米・九戸地区Uターン路設置工事	日本道路公団	通地Ⅱ	九戸村
21	平成10年5月12～13日	八戸自動車道軽米・九戸地区Uターン路設置工事	日本道路公団	倉根田Ⅱ	軽米町
22	平成10年5月14日	広域河川プロジェクト事業	若手県土木部	浄北沢Ⅰ	一関市
23	平成10年5月14～15日	一般国道342号道路改良事業	若手県土木部	沖野々Ⅰ	一関市
24	平成10年5月14～15日	一般国道342号道路改良事業	若手県土木部	滝の上Ⅱ	一関市
25	平成10年5月15日	一般国道盛岡宿温泉線西原地区県単交通安全施設整備	若手県土木部	戸沢館	宇石町
26	平成10年5月18日	大区南は場整備事業長岡地区	若手県農政部	草町中登敷	紫波町
27	平成10年5月18日、10月19～30日	大区南は場整備事業長岡地区	若手県農政部	西長岡長谷田	紫波町
28	平成10年5月18日	大区北は場整備事業徳第一地区	若手県農政部	北郡山	矢野町
29	平成10年5月20日	主要地方道一関北線緊急地方道整備事業	若手県土木部	乙花館	北上市
30	平成10年5月21日	湖所湖沢公園ファミリーランド東地区整備事業	若手県土木部	伝久	宇石町
31	平成10年5月21日	農免農道整備事業五日市場沢地区	若手県農政部	田ノ沢Ⅰ	安代町
32	平成10年5月21日	農免農道整備事業五日市場沢地区	若手県農政部	田ノ沢Ⅱ	安代町
33	平成10年5月26～27日	若手県立福岡病院移転新築事業	若手県医療局	地野	二戸市
34	平成10年5月27日、8月18～19日	主要地方道一戸安代線緊急地方道整備事業	若手県土木部	大上達平	二戸市
35	平成10年5月27日～6月3日	県営は場事業東田地区	若手県農政部	NE15-0234	沢内村
36	平成10年5月28日	都市計画道路岩谷川又蔵川又地区街路整備事業	若手県土木部	JF00-0114	二戸市
37	平成10年6月1日	県営産業経営環境整備事業奥Ⅰ北部地区	若手県農政部	安納野	宇石町
38	平成10年6月2日	新交直ネットワーク道路整備事業	若手県土木部	高塚敷	住田町
39	平成10年6月2日	新交直ネットワーク道路整備事業	若手県土木部	中島	住田町
40	平成10年6月2日	新交直ネットワーク道路整備事業	若手県土木部	清水	住田町
41	平成10年6月2日	一関池水事業	建設省	NE76-0228	平泉町
42	平成10年6月5日、9月9日	地方特定道路整備事業	若手県土木部	MF12-1024	宮守村
43	平成10年6月5日	一級町道小整沢田線地方特定道路整備事業	若手県土木部	塚野	湯田町
44	平成10年6月5日	一級町道小整沢田線地方特定道路整備事業	若手県土木部	小整沢Ⅰ	湯田町
45	平成10年6月9日	農免農道整備事業上野地区	若手県農政部	北館Ⅱ	一戸町
46	平成10年6月10日	新幹線開港道路整備事業宮沢Ⅰ区	若手県土木部	JF03-2246	軽米町
47	平成10年6月10日	新幹線開港道路整備事業宮沢Ⅰ区	若手県土木部	JF03-2267	軽米町
48	平成10年6月16日	中山間地域総合整備事業大野地区	若手県農政部	MI28-2198	沢内村
49	平成10年6月23日	中山間地域総合整備事業	若手県農政部	切掛Ⅱ	一戸町
50	平成10年6月29日	県単交通安全施設整備事業	若手県土木部	権ノ木	紫波町
51	平成10年6月29～30日	船木野沢線部田対策砂防事業	若手県土木部	東船木野	紫波町
52	平成10年7月1日	農田整備事業	若手県土木部	小日谷地ⅠB	宇石町
53	平成10年7月1日	一般国道盛岡宿温泉線西原地区道路改良事業	若手県土木部	LE32-0148	宇石町
54	平成10年7月2日	久慈岩泉郷地方帯新設工事	若手県土木部	赤羽ノ隣接地	久慈町
55	平成10年7月10日	畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	若手県農政部	LE25-232Ⅰ	盛岡市
56	平成10年7月22日	特殊改良第1種事業	若手県土木部		盛岡市
57	平成10年7月22日	県単道路改良事業	若手県土木部	市部内	葛巻町
58	平成10年7月22日	交通安全施設整備・緊急歩道整備事業	若手県土木部	野里	葛巻町
59	平成10年7月23日、10月21日	一般国道沢木山線西原地区道路改良	若手県土木部	西原路	高沢町
60	平成10年7月23日	一般農道整備事業江ノ中地区	若手県農政部	品沢Ⅰ	葛巻町
61	平成10年8月3日	一般国道大・生田線道路改良事業	若手県土木部	江崎	盛岡市
62	平成10年8月3～4日	地方特定道路整備事業船野地区	若手県土木部	IF57-0276	樽吉町

No	年 月 日	事 業 名	事 業 者	道 路 名	所在地
63	平成10年8月3～4日	地方特定道路整備事業龍野地区	若手県土木部	IF57-0290	横市町
64	平成10年8月3～4日	地方特定道路整備事業龍野地区	若手県土木部	IF57-0290隣接地	横市町
65	平成10年8月3～4日	県単河川改良事業地内地区	若手県土木部		横市町
66	平成10年8月4日	開拓地整備事業三崎地区	若手県農政部	堀石I	久慈市
67	平成10年8月4日	開拓地整備事業三崎地区	若手県農政部	堀石II	久慈市
68	平成10年8月4日	開拓地整備事業三崎地区	若手県農政部	大尻窪	久慈市
69	平成10年8月4日	開拓地整備事業三崎地区	若手県農政部	大尻窪	久慈市
70	平成10年8月5日	中山間地域総合整備事業玉川地区	若手県農政部	浪井窪	野田村
71	平成10年8月6日	農免農道整備事業松石地区	若手県農政部	馬立II	岩泉町
72	平成10年8月6日	農免農道整備事業松石地区	若手県農政部	馬立II	岩泉町
73	平成10年8月6～7日、9月16日	水沢産前保健衛生所建設工事	若手県農政部	東館II	水沢市
74	平成10年8月17日	主要地方道一関北上線地方特定道路整備事業	若手県土木部	日取森西	水沢市
75	平成10年8月17日	新小路線/木線街路工事	若手県土木部	水沢城	水沢市
76	平成10年8月17日	花巻中針線、町見上岡線、花沢坂街道路街路事業	若手県土木部	MF95-2247	金ヶ崎町
77	平成10年8月18～19日	二戸市川又地区街路事業	若手県土木部	JF00-2114	二戸市
78	平成10年8月18～19日	地方特定道路整備事業上田南地区	若手県土木部	上田南	二戸市
79	平成10年8月18～19日	地方特定道路整備事業上田南地区	若手県土木部	龍野	二戸市
80	平成10年8月27～28日	一関池水田関係事業	建設省	矢崎II	平泉町
81	平成10年8月27～28日	一関池水田関係事業	建設省	矢崎II	平泉町
82	平成10年8月31日～9月25日	中山間地域総合整備事業上原地区	若手県農政部	中田	大東町
83	平成10年9月1日	東北新幹線建設工事関連事業	日本鉄道建設公団	川前	滝沢村
84	平成10年9月4日	一般国道282号大更地区道路改良事業	若手県土木部	KF45-0207	西根町
85	平成10年9月4日	県単道路改良事業	若手県土木部	野沢	滝沢村
86	平成10年9月7日	中山間地域総合整備事業源浄地区	若手県農政部	大上平	二戸市
87	平成10年9月7～8日	斐川ダム建設事業	斐川ダム建設事務所	細野A	盛岡市
88	平成10年9月7～8日	斐川ダム建設事業	斐川ダム建設事務所	細野B	盛岡市
89	平成10年9月8日	地方特定道路整備事業	若手県土木部	沢口I	岩泉町
90	平成10年9月8日	一般農道整備事業江刈中部2期地区	若手県農政部	高畑	葛巻町
91	平成10年9月8～9日	地方特定道路整備事業	若手県土木部	田島I	久慈市
92	平成10年9月9日	地方特定道路整備事業	若手県土木部	MF12-1024	宮守村
93	平成10年9月9日	県単舗装道路新設事業	若手県土木部	阿曾沼池(堀内橋)	遠野市
94	平成10年9月10日、10月19日	主要地方道釜石湾野沢沢田地区緊急地方道整備事業	若手県土木部	沢田II	釜石市
95	平成10年9月16～17日	主要地方道盛岡和賀線交通安全施設整備事業	若手県土木部	北藤根	一関市
96	平成10年9月16～17日	主要地方道盛岡和賀線交通安全施設整備事業	若手県土木部		沢内村
97	平成10年9月17日	東北新幹線建設工事関連	日本鉄道建設公団	大崎	滝沢村
98	平成10年9月17日	広域農道プロジェクト事業奥駒川線道路改良事業	若手県農政部	清水堰	衣川村
99	平成10年9月18日	一般農道整備事業江刈中部2期地区	若手県農政部	KED4-2059	葛巻町
100	平成10年9月29日	地方特定河川等環境整備事業	早池埜ダム建設事務所	高森	大迫町
101	平成10年10月1日	ふるさと農道緊急整備事業大谷地区	若手県農政部	KG31-2385	田野畑村
102	平成10年10月1日	市町村道整備代行事業	若手県土木部	MF86-0285	住田町
103	平成10年10月1日	市町村道整備代行事業	若手県土木部	MF86-0287	住田町
104	平成10年10月1日、11月13日	交通安全施設整備事業	若手県土木部	MF96-2055	住田町
105	平成10年10月2日	一般道待合所併設	若手県土木部	養生福隣地	久慈市
106	平成10年10月2日	県単道路改良事業	若手県土木部	羽場城	一関市
107	平成10年10月5日	広域農道整備事業盛岡西部地区m	若手県農政部	宇空	玉山村
108	平成10年10月5～6日	農免農道整備事業五日市浦沢地区	若手県農政部	山内崎残地	浄法寺町
109	平成10年10月5～6日	一般農道整備事業太田地区	若手県農政部	サカイツ平V	浄法寺町
110	平成10年10月5～6日	都計商事業上野地区	若手県土木部	上野B	一戸町
111	平成10年10月5～6日	一般国道八戸大野線単線舗装新設	若手県土木部	大道口	軽米町
112	平成10年10月5～16日	六区画は地整備事業徳田第一地区	若手県農政部	岡村	矢野村
113	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	切崎IV	一戸町
114	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	切崎V	一戸町
115	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	釜石B	一戸町
116	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	J569-2296	一戸町
117	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	釜石B	一戸町
118	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	釜石I	一戸町
119	平成10年10月7～13日	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設事業	東北農政局	JE79-0276	一戸町
120	平成10年10月11日	県営一般農道整備事業赤坂田地区	若手県農政部	種畑I	安代村
121	平成10年10月13～14日	農免農道整備事業奥美玉北地区	若手県農政部	中日向I	千厩町
122	平成10年10月13～14日	主要地方道江刺利根線川又地区緊急歩道整備	若手県土木部	日路	大東町
123	平成10年10月13～14日	たの池等整備事業大柁沢2地区	若手県農政部	青巻	江刺町
124	平成10年10月15日	中山間地域総合整備事業新野地区	若手県農政部	谷地田I	浪代町

No	年 月 日	事 業 名	事 業 者	道 路 名	所在地
125	平成10年10月15日	は場整備事業真城地区	若手県農政部	金田	水沢市
126	平成10年10月15日	は場整備事業真城地区	若手県農政部	NE36-0020	水沢市
127	平成10年10月15日	は場整備事業真城地区	若手県農政部	真城落合	水沢市
128	平成10年10月16日	は場整備事業真城地区	若手県農政部	中平西	水沢市
129	平成10年10月16日	は場整備事業真城地区	若手県農政部	NE37-0010	水沢市
130	平成10年10月15日、11月25日	二級村道川井線川井地区吉町区整備	若手県土木部	成谷	山形村
131	平成10年10月19日～20日	は場整備事業北方丁目地区	若手県農政部	ME25-0194	花巻市
132	平成10年10月19日～20日	は場整備事業北方丁目地区	若手県農政部	ME25-1107	花巻市
133	平成10年10月19日～20日	は場整備事業北方丁目地区	若手県農政部	ME25-1230	花巻市
134	平成10年10月19日～20日	は場整備事業北方丁目地区	若手県農政部	ME25-1163	花巻市
135	平成10年10月19日～20日	は場整備事業北方丁目地区	若手県農政部	ME25-1176	花巻市
136	平成10年10月16日	新交差点ネットワーク道路整備事業	若手県土木部	KF01-1371	葛巻町
137	平成10年10月16日	農道整備工事	若手県教育委員会	色角久保V	軽米町
138	平成10年10月16日	農道整備工事	若手県教育委員会	貝塚II	軽米町
139	平成10年10月16日	農道整備工事	若手県教育委員会	IF81-0322	軽米町
140	平成10年10月19～30日	大区域は場整備事業長岡地区	若手県農政部	六日町	常渡町
141	平成10年10月19～30日	大区域は場整備事業長岡地区	若手県農政部	沼田	常渡町
142	平成10年10月20日	緊急地方道整備事業（花巻市給）	若手県土木部	ME35-1060	花巻市
143	平成10年10月20日、12月7～8日	仙人峠道路	建設省	洞梨	釜石市
144	平成10年10月20日、12月7～8日	仙人峠道路	建設省	吉駒	釜石市
145	平成10年10月21日	荒巻中折線、町裏上岡線花沢駅街道街路事業	若手県土木部	NE57-0139	金ケ崎町
146	平成10年10月21日	地方特定道路整備事業	若手県土木部	大林	大迫町
147	平成10年10月23日	は場整備真城地区	若手県農政部	NE37-0010	水沢市
148	平成10年10月23日	一般国道17号川原線ノ線地区緊急歩道整備事業	若手県土木部	ME69-2167	江刺市
149	平成10年10月23日	緊急避難経路削減対策事業	若手県土木部	荒谷城	江刺市
150	平成10年10月26～29日	は場整備事業一子地区	若手県農政部	ME56-2249	北上市
151	平成10年10月27日	広域農道整備事業二子地区	若手県農政部	上台	二子市
152	平成10年10月27～29日	は場整備事業（田い手育成）奥玉地区	若手県農政部	竹のFII	千穂町
153	平成10年10月27～29日	は場整備事業（田い手育成）奥玉地区	若手県農政部	沖中	千穂町
154	平成10年10月28日	一般国道310号幸向大型化対策事業	若手県土木部	IF22-0158	九戸村
155	平成10年10月28日	緊急交差点道路整備事業下野地区	若手県土木部	向高屋平中	軽米町
156	平成10年10月29日	ため池等整備事業上野地区	若手県農政部	杖ノ館	一関市
157	平成10年10月29日	交通安全施設整備事業	若手県土木部	餅ノ越	一関市
158	平成10年10月30日	緊急道路改良事業	若手県土木部	野沢	滝沢村
159	平成10年10月30日	一般国道284号道路改良事業	若手県土木部	湯生新城（宝館）	一関市
160	平成10年11月4日	盛岡市青森線法与地区道路改良	若手県土木部	長仙寺院	矢巾町
161	平成10年11月4～5日	田い手育成基盤整備事業	若手県農政部	雄鼻II	石鳥谷町
162	平成10年11月4～5日	田い手育成基盤整備事業	若手県農政部	下蔵II	石鳥谷町
163	平成10年11月4～5日	田い手育成基盤整備事業	若手県農政部	関口	石鳥谷町
164	平成10年11月4～5日	田い手育成基盤整備事業	若手県農政部	新田	石鳥谷町
165	平成10年11月4～5日	田い手育成基盤整備事業	若手県農政部	福茂	石鳥谷町
166	平成10年11月4～5日	田い手育成基盤整備事業	若手県農政部	馬場田	石鳥谷町
167	平成10年11月9～10日	は場整備事業一関第3地区	若手県農政部	瀬田	一関市
168	平成10年11月9～10日	は場整備事業一関第3地区	若手県農政部	川道	一関市
169	平成10年11月9～10日	は場整備事業一関第3地区	若手県農政部	和田	一関市
170	平成10年11月9～10日	は場整備事業一関第3地区	若手県農政部	瀬口	一関市
171	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	和田	一関市
172	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	瀬田	一関市
173	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	平	一関市
174	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	川岸	一関市
175	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	川道	一関市
176	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	NE76-1249	平泉町
177	平成10年11月9～11日	一関池水田関係事業	建設省	飯沼館	平泉町
178	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業徳岡地区	若手県農政部	NE35-2179	新沢町
179	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業徳岡地区	若手県農政部	NE35-2185	新沢町
180	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業徳岡地区	若手県農政部	NE45-0129	新沢町
181	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業徳岡地区	若手県農政部	NE45-0213	新沢町
182	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業徳岡地区	若手県農政部	NE45-0232	新沢町
183	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業徳岡地区	若手県農政部	NE45-0361	新沢町
184	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業結体地区	若手県農政部	NE37-1036	水沢市
185	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業結体地区	若手県農政部	NE37-1075	水沢市
186	平成10年11月9～11日	田い手育成基盤整備事業結体地区	若手県農政部	NE37-1107	水沢市

No	年月日	事業名	事業者	連絡名	所在地
187	平成10年11月9～11日	担い手育成基盤整備事業主体地区	若手農 農政部	NE37-1163	水沢市
188	平成10年11月9～11日	担い手育成基盤整備事業主体地区	若手農 農政部	NE37-1182	水沢市
189	平成10年11月11～12日	中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	若手農 農政部	JF82-0166	葛巻町
190	平成10年11月11～12日	中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	若手農 農政部	JF82-0253	葛巻町
191	平成10年11月11～12日	中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	若手農 農政部	JF82-0270	葛巻町
192	平成10年11月12日	組単交通安全施設整備事業	若手農 土木部	NG30-1319	三井町
193	平成10年11月13日	東北新幹線建設工事	日本鉄道建設公団	茨高	盛岡市
194	平成10年11月13日	新交流ネットワーク道路整備事業	若手農 土木部	八日町農	住田町
195	平成10年11月13日	新交流ネットワーク道路整備事業	若手農 土木部	MP96-2368	住田町
196	平成10年11月13日	一般県道山崎古線緊急歩道整備事業	若手農 土木部	下在家Ⅱ	岩吉市
197	平成10年11月16～17日、12月7～9日	ほ場整備事業南日誌地区	若手農 農政部	下川原Ⅰ	紫波町
198	平成10年11月16～17日、12月7～9日	ほ場整備事業南日誌地区	若手農 農政部	下川原Ⅱ	紫波町
199	平成10年11月16～17日、12月7～9日	ほ場整備事業南日誌地区	若手農 農政部	南日誌	紫波町
200	平成10年11月16～17日、12月7～9日	ほ場整備事業南日誌地区	若手農 農政部	南日誌八取沢	紫波町
201	平成10年11月17日	ほ場整備事業河東地区	若手農 農政部	JP90-1074	大迫町
202	平成10年11月17日	ほ場整備事業河東地区	若手農 農政部	JP90-1069	大迫町
203	平成10年11月18日	ほ場整備事業上郷大石地区	若手農 農政部	LE77-1106	石巻市
204	平成10年11月18日	一般農道整備事業江刺中部2期地区	若手農 農政部	キツ本産	一般農道
205	平成10年11月18日	築田ダム建設事業	築田ダム建設事務所	大升沢Ⅱ	盛岡市
206	平成10年11月19日	組単道路改良事業	若手農 土木部	瀬ノ目	花巻市
207	平成10年11月19日	開拓地整備事業大野沢地区	若手農 農政部	越田沢Ⅲ	千歳町
208	平成10年11月19日	土地改良総合整備事業戸沢地区	若手農 農政部	田尻能	雫石町
209	平成10年11月24日	組単道路改良事業	若手農 土木部	桑木田	二戸市
210	平成10年11月24日	農農農道整備事業島長組2期地区	若手農 農政部	田子内沢	作法寺町
211	平成10年11月24日	緊急地方道整備事業	若手農 土木部	大平	九戸町
212	平成10年11月24～25日	開拓地整備事業長久保地区	若手農 農政部	長久保	久慈市
213	平成10年11月25日	新交流ネットワーク道路整備事業	若手農 土木部	NF00-1120	江刺市
214	平成10年11月25日	組単道路改良事業	若手農 土木部	1F91-0312	軽米町
215	平成10年11月25日	主要地方道水沢里線沢沢地区道路改良工事	若手農 土木部	下河原釜石	水沢市
216	平成10年11月25日	一般農道整備事業野沢地区	若手農 農政部	野沢Ⅱ	一戸町
217	平成10年11月26日	一般国道改良工事	建設 省	大森Ⅰ	山田村
218	平成10年11月26日	郡営担い手育成基盤整備事業主体地区	若手農 農政部	東船	江刺市
219	平成10年11月27日	郡営担い手育成基盤整備事業高倉地区	若手農 農政部	三丁	江刺市
220	平成10年11月27日	郡営担い手育成基盤整備事業高倉地区	若手農 農政部	天竺巻巻	江刺市
221	平成10年11月27日	郡営担い手育成基盤整備事業高倉地区	若手農 農政部	沼館	江刺市
222	平成10年11月27日	郡営担い手育成基盤整備事業高倉地区	若手農 農政部	別当	江刺市
223	平成10年11月27日	郡営担い手育成基盤整備事業高倉地区	若手農 農政部	沼の土Ⅱ	江刺市
224	平成10年11月27日	農農農道整備事業大石平地区	若手農 農政部	KE26-2225	西根町
225	平成10年12月1日	新幹線開通道路整備事業	若手農 土木部	JP14-0100	軽米町
226	平成10年12月1日	畑地帯総合整備事業藤崎2期地区	若手農 農政部	OF22-2064	雫石町
227	平成10年12月1～2日	新小路線/本線別路事業	若手農 土木部	水沢城下	水沢市
228	平成10年12月1～2日	郡営北野アパト建設(建替)事業	若手農 土木部	北野Ⅱ	水沢市
229	平成10年12月2日	一般国道改良事業	建設 省	小野	二戸市
230	平成10年12月2日	ほ場整備事業Ⅰ(担い手育成・区画整理型)	若手農 農政部	町下	千歳町
231	平成10年12月2日	一般国道改良工事	建設 省	小野	二戸市
232	平成10年12月3～4日	ほ場整備事業二子地区	若手農 農政部	中居保	北上市
233	平成10年12月3～4日	ほ場整備事業二子地区	若手農 農政部	廣沢	北上市
234	平成10年12月3～4日	ほ場整備事業二子地区	若手農 農政部	野田Ⅰ	北上市
235	平成10年12月3～4日	ほ場整備事業二子地区	若手農 農政部	ME56-1189	北上市
236	平成10年12月9～10日	中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	若手農 農政部	塚原	葛巻町
237	平成10年12月9～10日	中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	若手農 農政部	古川戸	葛巻町
238	平成10年12月9～10日	中山間地域総合整備事業葛巻北西地区	若手農 農政部	巻柳	葛巻町
239	平成10年12月10日	ふるさと農道緊急整備事業	若手農 農政部	ME38-0376	東和町
240	平成10年12月10～11日	中山間地域総合整備事業新田郷地区	若手農 農政部	堀内Ⅱ	海田町
241	平成10年12月10～11日	中山間地域総合整備事業新田郷地区	若手農 農政部	越中橋5隣接地	海田町
242	平成10年12月10～11日	中山間地域総合整備事業新田郷地区	若手農 農政部	MI58-2032	海田町
243	平成10年12月14～15日	ほ場整備事業二子地区	若手農 農政部	千代	北上市
244	平成10年12月14日～18日	担い手育成基盤整備事業	若手農 農政部	明成沢道路	前沢町
245	平成10年12月17日	交通安全施設整備事業(歩道設置)	若手農 土木部	大久保Ⅱ	滝野市
246	平成11年1月11日	主要地方道盛岡新幹線交通安全施設整備工事	若手農 土木部	瀬ノ下	北上市
247	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新沢Ⅰ地区	若手農 農政部	小倉畑	大東町
248	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新沢Ⅰ地区	若手農 農政部	開根	大東町

No	年月日	事業名	事業者	道路名	所在地
249	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	望石橋	大東町
250	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	狭沢中橋	大東町
251	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	新渡戸1	大東町
252	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	地の神1	大東町
253	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	地の神2	大東町
254	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	宇堂坂	大東町
255	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	新渡戸2	大東町
256	平成11年1月11～12日	中山間地域総合整備事業新渡戸地区	岩手県農政部	NF50-2234	大東町
257	平成11年1月12日	県営駐車場管理事業(内九駐車場歩道補修工事)	岩手県土木部	盛岡城跡	盛岡市
258	平成11年1月12日	県道改良事業	岩手県土木部	LD99-1250	沢内村
259	平成11年1月25日	県単交通安全施設整備(自転車歩行者道)事業	岩手県土木部	太田川線	矢巾町
260	平成11年1月25～26日	担い手育成基盤整備事業雫山地区	岩手県農政部	大迫	矢巾町
261	平成11年1月25～26日	担い手育成基盤整備事業雫山地区	岩手県農政部	大木1	矢巾町
262	平成11年1月25～26日	担い手育成基盤整備事業雫山地区	岩手県農政部	大木2	矢巾町
263	平成11年1月25～26日	担い手育成基盤整備事業雫山地区	岩手県農政部	理山1	矢巾町
264	平成11年1月25～26日	担い手育成基盤整備事業雫山地区	岩手県農政部	山道	矢巾町
265	平成11年1月25～26日	担い手育成基盤整備事業雫山地区	岩手県農政部	畑堤	矢巾町
266	平成11年1月25～26日	はほ整備事業奥城地区	岩手県農政部	NE37-0010	水沢市
267	平成11年1月25～26日	はほ整備事業奥城地区	岩手県農政部	NE34-0040	水沢市
268	平成11年1月25～26日	はほ整備事業姉妹地区	岩手県農政部	NE37-1198	水沢市
269	平成11年1月26日	県単道路改良事業八重畑小山田線	岩手県土木部	宿下	石鳥谷町
270	平成11年1月27日	畑地帯総合土地改良事業盛岡西部地区	岩手県農政部	岡崎	盛岡市
271	平成11年1月28日	県単交通安全施設整備事業	岩手県土木部	1F83-0386	軽米町
272	平成11年1月28日	県道改良事業	岩手県土木部	ME38-2229	豪和町
273	平成11年1月29日	地方特定道路整備事業合川地区	岩手県土木部	JE19-0009	二戸市
274	平成11年2月2日	担い手育成基盤整備事業八幡東部地区	岩手県農政部	西中島	石鳥谷町
275	平成11年2月5日	担い手育成基盤整備事業黒岩第2地区	岩手県農政部	黒岩	北上市
276	平成11年2月9日	はほ整備事業南日詰地区	岩手県農政部	南日詰田中Ⅱ	新渡町
277	平成11年2月9日	はほ整備事業二子地区	岩手県農政部	中居佐	北上市
278	平成11年2月10日	校地整備事業	岩手県教育委員会	三石町	盛岡市
279	平成11年2月10日	校地整備事業	岩手県教育委員会	見前館隣地	盛岡市
280	平成11年2月17日	生徒部室建設事業	岩手県教育委員会	大平町3丁目1	釜石市
281	平成11年3月4日	一級河川広瀬川沿流域開河川改修事業	岩手県土木部	番渡戸	江刺市
282	平成11年3月11日	東北新幹線盛岡以北	日本鉄道建設公団	乙茂内	岩手町
283	平成11年3月12日	主要地方道盛岡和賀線伝法寺地区道路改良	岩手県土木部	長谷寺	矢巾町
284	平成11年3月16日	県営長谷堂アパート解体工事	岩手県土木部	長谷堂員庫	大船渡市
285	平成11年3月16日	ふるさと農道緊急整備事業	岩手県農政部	清田台遺跡	千厩町
286	平成11年3月8日～17日	担い手育成基盤整備事業鏡沢上野地区	岩手県農政部	鳥子沢遺跡	前沢町
287	平成11年3月18日～25日	担い手育成基盤整備事業鏡沢上野地区	岩手県農政部	明後沢遺跡	前沢町
288	平成11年3月24日	中山間地域総合整備事業巻巻北西地区	岩手県農政部	JF82-0166	巻巻町
289	平成11年3月25日	一関水産事業	建設省岩手工事事務所	上野台Ⅱ	平泉町

平溪區環境衛生調查表一覽

序號	年月日	作業名	作業者	總社數	地區	可能性	數量	日數	區域路	類別	衛生	古代	中世	近世	所在處
56	平溪區04月05日	里邊路路邊店舖整潔	古朝上本區	1											戶內
57	平溪區04月21日	利安支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
60	平溪區05月22日	新街支隊建設事業	古朝上本區	6		2						2	2		石仔脚
61	平溪區05月22日	新街支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
62	平溪區06月02日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
63	平溪區06月02日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	5		5									石仔脚
64	平溪區06月02日~2日	古朝上本區支隊建設事業	古朝上本區	5		5							5		石仔脚
65	平溪區06月02日~2日	古朝上本區支隊建設事業	古朝上本區	1		1								2	石仔脚
66	平溪區06月02日~2日	古朝上本區支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
67	平溪區06月02日~2日	古朝上本區支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
68	平溪區06月02日~2日	古朝上本區支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
69	平溪區06月05日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
70	平溪區06月05日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
71	平溪區06月05日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
72	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
73	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
74	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
75	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
76	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
77	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
78	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
79	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
80	平溪區06月09~09日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	10		10									石仔脚
81	平溪區06月09~11日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
82	平溪區06月09~11日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
83	平溪區06月09~25日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
84	平溪區06月09~25日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	3		3									石仔脚
85	平溪區06月09~25日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	3		3									石仔脚
86	平溪區06月11~24日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
87	平溪區06月11~24日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
88	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
89	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
90	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
91	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
92	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
93	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
94	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
95	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚
96	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
97	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
98	平溪區06月15~27日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
99	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
100	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
101	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
102	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
103	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
104	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
105	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
106	平溪區06月18日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
107	平溪區06月23日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
108	平溪區06月23日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
109	平溪區06月23日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
110	平溪區06月26日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	6		6									石仔脚
111	平溪區06月29~30日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
112	平溪區06月29~30日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
113	平溪區06月29~30日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	1		1									石仔脚
114	平溪區06月29~30日	里邊路支隊建設事業	古朝上本區	2		2									石仔脚

平成30年度学生会課表一覧

番号	年月日	事業名	事業者	開催数 最初	開催 回数	可能性	特別 数	開催時 間	種別	年代	学年	中継	所在地
176	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
177	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
178	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
179	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
180	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
181	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
182	平成30年8月24日～25日	交際学生協会の学生事務	若狭土木部										住田町
183	平成30年9月4日	職員研修会	若狭土木部	1	4	5							住田町
184	平成30年9月7日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
185	平成30年9月7日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
186	平成30年9月8日～9日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
187	平成30年9月8日～9日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
188	平成30年9月9日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
189	平成30年9月10日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
190	平成30年9月10日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
191	平成30年9月10日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
192	平成30年9月12日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
193	平成30年9月12日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1							住田町
194	平成30年9月15日	職員研修会	若狭土木部	2	3	1	5						住田町
195	平成30年9月15日	職員研修会	若狭土木部	2	2	1	2						住田町
196	平成30年9月15日	職員研修会	若狭土木部	2	1	2	1						住田町
197	平成30年9月15日	職員研修会	若狭土木部	2	1	2	1						住田町
198	平成30年9月17日	職員研修会	若狭土木部	2	1	1	1						住田町
199	平成30年9月17日	職員研修会	若狭土木部	2	1	1	1						住田町
200	平成30年9月18日	職員研修会	若狭土木部	2	3	1	5						住田町
201	平成30年9月18日	職員研修会	若狭土木部	2	2	1	2						住田町
202	平成30年9月19日	職員研修会	若狭土木部	2	1	2	1						住田町
203	平成30年9月19日	職員研修会	若狭土木部	2	1	2	1						住田町
204	平成30年10月1日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
205	平成30年10月2日	職員研修会	若狭土木部	1	1	2	2						住田町
206	平成30年10月2日	職員研修会	若狭土木部	1	1	2	2						住田町
207	平成30年10月2日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
208	平成30年10月2日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
209	平成30年10月2日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
210	平成30年10月13日～14日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
211	平成30年10月13日～14日	職員研修会	若狭土木部	2	1	1	1						住田町
212	平成30年10月13日～14日	職員研修会	若狭土木部	2	1	1	1						住田町
213	平成30年10月15日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
214	平成30年10月15日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
215	平成30年10月15日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
216	平成30年10月20日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
217	平成30年10月25日～30日	職員研修会	若狭土木部	1	6	1	6						住田町
218	平成30年10月27日～28日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
219	平成30年10月29日～30日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
220	平成30年11月1日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
221	平成30年11月1日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
222	平成30年11月3日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
223	平成30年11月11日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
224	平成30年11月12日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
225	平成30年11月12日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
226	平成30年11月12日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
227	平成30年11月12日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町
228	平成30年11月18日	職員研修会	若狭土木部	1	1	1	1						住田町

Ⅲ 県内洞穴遺跡調査

県内洞穴遺跡調査事業

この事業は昨年度までの貝塚調査に引き続き、岩手県内に所在する洞穴遺跡について、県内各地で行われている各種開発事業に先立ち、その詳細を把握するために平成10年度と11年度の2カ年にわたって行われるものである。平成11年度にはその成果をまとめ、報告書として発刊する予定である。

平成10年度は県内を6地域に区分し、各地域を担当する調査員を委嘱して調査員に野外調査（詳細分布調査）をしてもらい、結果をカードとして記録することとなっている。地域区分、担当調査員は下の表のとおりである。

また、過去に行われた洞穴遺跡の調査のうち未公表のものについて遺物を整理し、次年度の報告書の中で公表する予定である。岩泉町の岩谷洞穴を主な対象と考えている。

また、平成10年度に調査した洞穴遺跡は次ページの表のとおりである。

県内洞穴遺跡詳細分布調査事業調査員一覧

	氏名	担当	現所属
1	熊谷常正	全県、岩谷	盛岡大学
2	三浦謙一	全県、岩谷	岩手県立博物館
3	日下和寿	全県、岩谷	岩手県立博物館
4	佐々木清文	全県、気仙	県埋蔵文化財センター
5	工藤 仁	九戸・二戸	久慈市教育委員会
6	中村明央	九戸・二戸	一戸町教育委員会
7	菅原 修	岩手・下閉伊	岩手町教育委員会
8	神原雄一郎	岩手・気仙	盛岡市教育委員会
9	中村良幸	紫波・稗貫・上閉伊	大迫町教育委員会
10	板井芳彦	紫波・稗貫・上閉伊	紫波町教育委員会
11	小向裕明	紫波・稗貫・上閉伊	遠野市環境保険課
12	佐藤 靖	両磐・江刺	江刺市教育委員会
13	畠山篤雄	両磐・江刺	千厩町農村整備課
14	菊地敏雄	両磐・江刺	東山ケイビングクラブ
15	熊谷 賢	気仙	陸前高田市立博物館
16	田鎖康之	下閉伊	岩泉町教育委員会
17	鎌田祐二	下閉伊	宮古市教育委員会

平成10年度洞穴遺跡分布調査一覧

番号	遺跡名	時代	地区	所在地
1	鬼ヶ瀬山北第1洞	縄文(後)	岩手	盛岡市根田茂字鬼ヶ瀬
2	鬼ヶ瀬山北第2洞	縄文?	岩手	盛岡市根田茂字鬼ヶ瀬
3	鬼ヶ瀬山西洞(岩陰)	縄文?	岩手	盛岡市根田茂字鬼ヶ瀬
4	鬼ヶ瀬山南第1洞	縄文?	岩手	盛岡市根田茂字鬼ヶ瀬
5	鬼ヶ瀬山南第2洞(岩陰)	縄文?	岩手	盛岡市根田茂字鬼ヶ瀬
6	長嶺岩陰遺跡	縄文(前・晩)	岩手	松尾村大字松尾字法生坊
7	不動窟	縄文	両磐・江刺	一関市巖美町本寺字真坂
8	毘沙門洞窟	?	両磐・江刺	江刺市藤里字石名田
9	根岸洞穴第1	縄文中期	両磐・江刺	江刺市岩谷堂字根岸
10	根岸洞穴第2	縄文中期	両磐・江刺	江刺市岩谷堂字根岸
11	根岸洞穴第4	縄文中期	両磐・江刺	江刺市岩谷堂字根岸
12	山口穴洞穴	縄文	両磐・江刺	大東町大原字山口
13	高金の穴	縄文	両磐・江刺	東山町田河津字高金
14	姫穴	縄文	両磐・江刺	東山町田河津字石の森
15	猪穴	縄文?	両磐・江刺	川崎村門崎字石蔵
16	布佐洞穴	縄文(後)、弥生	両磐・江刺	川崎村門崎字石蔵
17	松井洞穴	?	両磐・江刺	大東町大原字松井
18	箕穴	縄文	両磐・江刺	東山町田河津字横沢
19	川底下の穴	縄文?	両磐・江刺	東山町田河津字高金
20	川底第2洞穴	縄文(晩)	両磐・江刺	東山町田河津字高金
21	川底洞穴	縄文	両磐・江刺	東山町田河津字高金
22	東本町の穴	縄文?	両磐・江刺	東山町長坂字東本町
23	香掛観音穴	縄文?	上閉伊	遠野市上郷町細越字香掛
24	香掛銭鑄穴	?	上閉伊	遠野市上郷町細越字香掛
25	大橋桜沢岩陰	縄文(中)	上閉伊	釜石市甲子町第1地割
26	枯松沢土倉洞穴	?	上閉伊	釜石市甲子町第2地割
27	雄岳洞タラ窟	縄文	上閉伊	釜石市橋野町第32割
28	馬場野	縄文	上閉伊	大槌町大槌字馬場野
29	湧清水洞穴	縄文(早・前・後)、弥生他	気仙	住田町世田米字上城
30	鬼丸洞穴	縄文(後)	気仙	住田町世田米合地沢
31	玉泉寺の穴	縄文(後・晩)	気仙	住田町上有住八日町
32	菅岩洞穴	縄文(後・晩)	気仙	住田町上有住大畑
33	小松洞穴	縄文(早・前・中・後・晩)	気仙	住田町上有住字小松
34	蔵王洞穴	縄文(早・後・晩)	気仙	住田町上有住字葉山
35	くずれ穴		九戸・二戸	久慈市山根保霊羅
36	清次郎の穴		九戸・二戸	久慈市山根保霊羅
37	龍安沢の穴		九戸・二戸	久慈市山根川又
38	熊の穴		九戸・二戸	久慈市大川目
39	小田瀬の穴		九戸・二戸	久慈市山根町小田瀬
40	ユークン洞		九戸・二戸	久慈市山根町下戸鎮

来年度は、野外調査の今年度残りとして、報告書の作成、発刊を行う予定になっている。

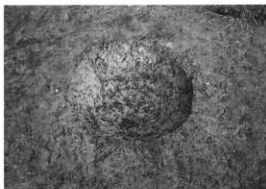
IV 写真図版



矢巾町岡村遺跡竪穴住居跡



矢巾町岡村遺跡掘立柱建物跡・溝跡(1)



矢巾町岡村遺跡T2土坑



矢巾町岡村遺跡掘立柱建物跡・溝跡(2)



矢巾町岡村遺跡柱穴跡断面



矢巾町岡村遺跡T2土坑



紫波町柿ノ木遺跡竪穴住居跡



前沢町明後沢遺跡遺構検出状況

写真図版1 県内遺跡調査状況1



水沢市中華入道跡Aトレンチ集石遺構



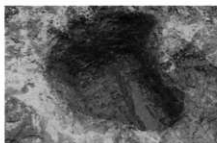
水沢市中華入道跡集石付近黒曜石出土状況



水沢市中華入道跡4号住居跡内出土土器



水沢市中華入道跡東区1号住居跡



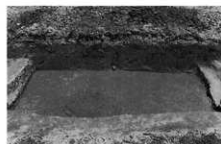
水沢市中華入道跡東区



江刺市西前田遺跡遺構検出



江刺市西前田遺跡実掘状況



江刺市西前田遺跡竪穴住居跡



江刺市西前田遺跡溝跡



江刺市後田Ⅱ遺跡竪穴住居状遺構

写真図版 2 県内遺跡調査状況 2



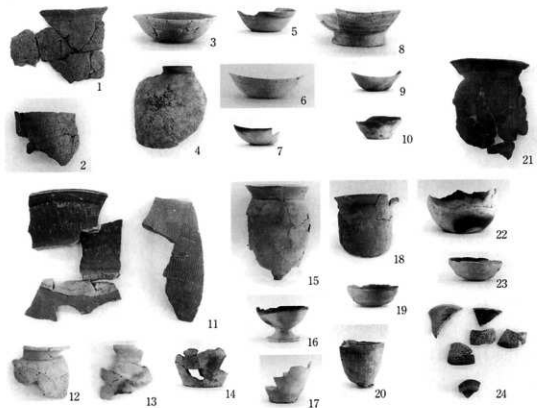
大東町熊の平道跡配石遺構



大東町熊の平道跡配石遺構断面

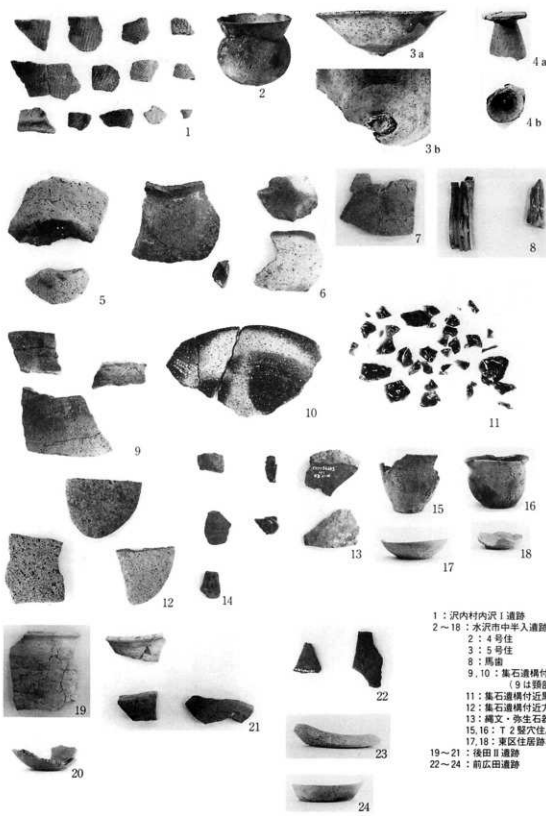


大東町熊の平道跡焼土等検出状況



1～10：紫波町柿ノ木遺跡
11～24：紫波町高長岡長谷田遺跡

写真図版3 県内遺跡調査状況3・出土遺物1



- 1 : 沢内村内沢 I 遺跡
- 2 ~ 18 : 水沢市中華人遺跡
- 2 : 4号住
- 3 : 5号住
- 8 : 馬歯
- 9, 10 : 集石遺構付近土師器
(9は頸部に山形文)
- 11 : 集石遺構付近黒曜石片
- 12 : 集石遺構付近方割石
- 13 : 縄文・弥生石器類
- 15, 16 : T 2 契穴住居跡出土土師器
- 17, 18 : 東区住居跡出土土師器
- 19 ~ 21 : 後田 II 遺跡
- 22 ~ 24 : 前広田遺跡

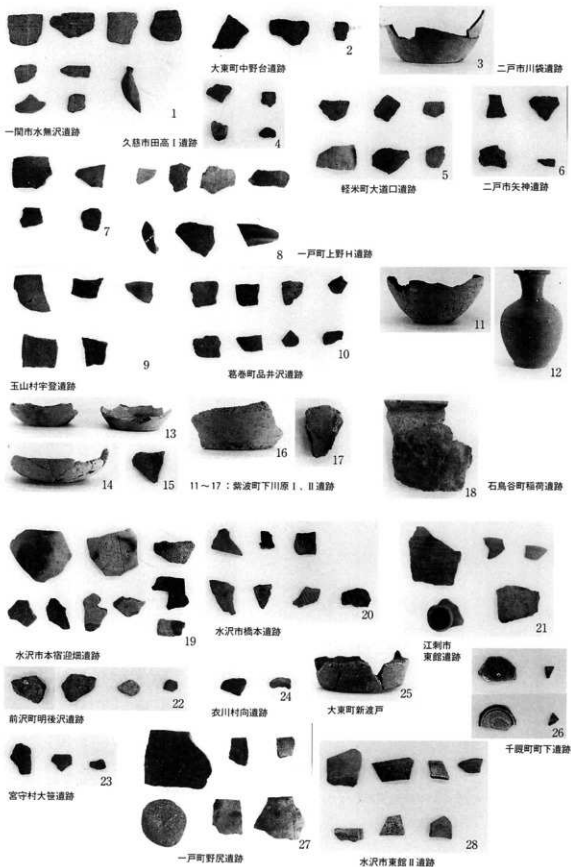
写真図版 4 県内遺跡出土遺物 2



1～18：大東町類の平遺跡



写真図版5 県内遺跡出土遺物3



写真図版 6 県内遺跡出土遺物 4

岩手県文化財調査報告105集

岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成10年度)

発行日 平成11年3月

発行 岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10-1

編集 岩手県教育委員会事務局文化課

印刷 ㈱杜陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号

